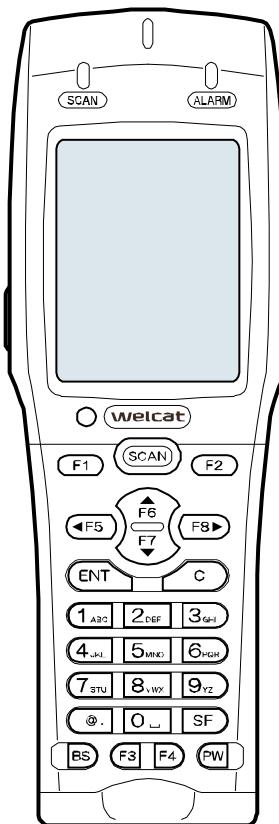


**welcat**  
Over the Wave

バーコードハンディターミナル  
**XIT-200-M**  
ユーザーズマニュアル



株式会社ウェルキャット



RoHS指令対応

## 商標について

- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、株式会社ウェルキャットはライセンスに基づいて使用しています。
- 本製品には、株式会社リコーによって開発されたビットマップフォントが搭載されています。
- 本製品には、株式会社京都ソフトウェアリサーチによって開発されたファイルシステム 「Fugue」 が搭載されています。



Fugue ©1999–2011 Kyoto Software Research, Inc. All rights reserved.

- 各マニュアルの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。
- 各マニュアルの一部または全てを無断で使用、複製することはできません。
- その他記載されている会社名、製品名、規格名は、それぞれの企業の登録商標または商標です。

# 正しく安全にお使い頂くために

弊社製品をお買上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用の前にこのユーザーズマニュアルをよくお読みになり、製品の適正な使用および保守することが重要です。製品の仕様・機能・内容の確認に努め、使用する際には表示・マニュアルをよく読み、事故につながるような使い方をしないように心がけましょう。製品の保守・点検をこまめに行うことの大切です。表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。表示は危険の程度で分類されています。



## 危険

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される緊急性が高い内容を示しています。



## 警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。



## 注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

以下の絵表示は、お守り頂く内容区分を説明しています。



このような絵表示はしてはいけない「禁止」であることを示します。図の中に具体的な禁止の内容が示されています。



このような絵表示は必ずして頂く「強制」であることを示します。図の中に具体的な指示の内容が示されています。



このような絵表示は注意を促す内容であることを示します。図の中に具体的な注意の内容が示されています。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。

## 必ずお守りください



製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している危険、警告、注意の表示を厳守してください。

### XIT-200-M 本体、バッテリーパック (BP-004) 共通

#### !**危険**

必ず専用の周辺機器をご使用ください。



- ・バッテリーパック (BP-004)
- ・シングルチャージャ (QC-006)
- ・マルチチャージャ (QC-007)
- ・USB 通信ユニット (IU-004)
- ・USB 通信/充電ユニット (IU-004C)
- ・LAN 通信/充電ユニット (IU - 004CL)

電子レンジや高圧容器などの中に入れないでください。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

レーザを人に向けないでください。



レーザ光が目に入ると視力に障害をきたす恐れがあります（『レーザ安全基準について』 (P.[8](#)) 参照）。

バッテリーパックの (+) と (-) の向きを逆にして使用、充電しないでください。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

高温になる場所（火やストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生する場所での使用、放置、充電はしないでください。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

火の中に投入したり、加熱したりしないでください。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

バッテリーパックの端子や、本体のバッテリーパック用端子/充電端子をショートさせたり、ハンダ付けしたりしないでください。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

水や海水などに浸けたり、濡らしたりしないでください。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

 警告

**!** バッテリーパックの充電の際、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

**!** 発熱・発煙・異臭などが発生した時は、電源を切りバッテリーパックを取り外してください。

そのまま使用すると、発熱、発火の原因となります。バッテリーパックではさらに漏液、破裂の原因ともなります。

**!** バッテリーパックの端子や、本体のバッテリーパック用端子/充電端子に手や指など身体の一部が触れないようにしてください。

感電、傷害、故障の原因となる場合があります。

**!** バッテリーパックの充電は専用充電器を使用してください。

他の充電器で充電すると、バッテリーパックが発熱、破裂、発火する原因となります。

落下させる、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

分解、改造をしないでください。

けがや感電、火災などの事故または故障の原因となります。内部の点検、調整はお買上げの販売店にお任せください。万一、改造などにより生じた問題については、一切の責任を負いかねます。

薬品に近づけないでください。

薬品が触れる場所や薬品のそばで使用、保管しないでください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。



## ⚠ 注意

高温となる場所、湿気・ほこりの多い場所で使用・保管しないでください。



火のそば、直射日光が当たるところなど高温になる場所での使用や保管は避けてください。火災などの事故またはケースの変形や故障の原因となります。また湿気、ほこりの多いところでの使用や保管は避けてください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。

不安定なところに置かないでください。



機器が落ちたり倒れたりして、けがや機器の故障の原因となります。

乳幼児の手の届くところに置かないでください。



けがなどの原因となります。

本製品は、事務用、産業用などの一般的用途を想定したものであり、以下のような高度な安全性が要求される用途での使用を想定した製品ではありません。



・陸上、海上、航空輸送ならびに交通の運行制御管理、原子力核施設の制御管理、生命維持装置の制御管理など

弊社は、このような生命、人体、環境に対し重大な危険性を伴う用途での使用により発生した損害に対し、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

## XIT-200-M 本体について

 警告

持ち運びの時には、ハンドストラップが引っ掛からないようにしてください。



ハンドストラップの取扱いには十分注意してください。ハンドストラップが他の物に引っ掛かると、けがや事故の原因となります。

高精度な制御や微弱な信号を扱う電子機器の近くでは使用しないでください。



電子機器(医療用電子機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など)が誤動作するなどの影響を与えることがあります。

 異物を本体の内部に入れないでください。

もし本体の内部に異物や液体が入った場合は使用を中止し、お買上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると感電、火災などの事故または故障の原因となります。

 注意

 コンピュータや蛍光灯、電子レンジなどのノイズを発する機器からはなるべく離して使用してください。

ノイズの影響により正常に通信できなくなる場合があります。

必ず手に取って操作してください。



床や机に置いたまま、あるいは充電器に置いたままの状態で操作をすると機器の故障や誤作動の原因となります。

 強い衝撃を与えないでください。

本体を落とす、投げる、叩くなどしないでください。故障の原因となります。

水中に入れたり、強い勢いで水をかけたりしないでください。



本体は水没、噴射水に対し保護されません。内部に水が入り感電、火災などの事故または故障の原因となります。

 磁石、ブザー、スピーカ、ブラウン管や、RFID のアンテナ近くなど、強い磁界が発生する恐れがあるところで使用、保管しないでください。

本体の誤動作や故障の原因となります。

## バッテリーパック (BP-004) について

### 使用済みバッテリーパック (BP-004) について



Li-ion

XIT-200-M 本体にはリチウムイオン二次電池（バッテリーパック：BP-004）を使用することができます。リチウムイオン二次電池は、「資源有効利用促進法」により、電池メーカーおよび電池を使用する機器メーカーに回収・リサイクルが義務付けられた小型二次電池です。弊社では一般社団法人 JBRC の会員として、使用済み小型二次電池の回収・リサイクルを実施しております。寿命となったバッテリーパックは一般的ゴミと一緒に捨てず、回収に関しては弊社までお問い合わせください。

**危険**

バッテリーパックが漏液して液が皮膚、衣服に付着した時は、すぐにきれいな水で洗い流してください。また、液が目に入った時は、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

放置すると、失明やその他傷害を起こす原因となります。



バッテリーパックを火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



バッテリーパックを水や海水などに浸けたり、濡らしたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



釘をさしたり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。

**警告**

バッテリーパックが漏液、変形・変色した時には使用しないでください。

そのまま使用すると、バッテリーパックの発熱、破裂、発火、または漏液の原因となります。また火気に近づけると漏液した電解液に引火する恐れがあります。

## レーザ安全基準について

本製品はレーザ製品の安全基準 JIS C 6802 に準拠しています。

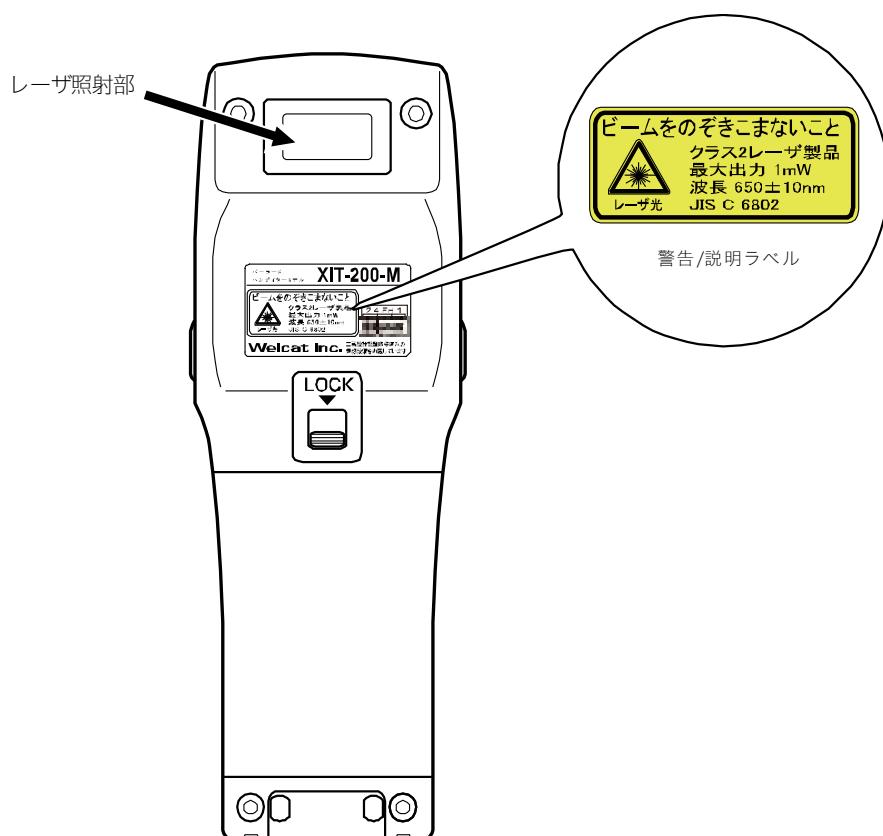
レーザクラス：クラス 2

最大出力：1mW

波長：650±10nm

クラス 2 ではまばたき等の嫌悪反応で目が保護されますが、レーザ光をのぞき込んだり直接目に入れたりしないでください。

## レーザに関する警告ラベル



### 注意

ユーザーズマニュアルに反した使用や、製品の分解はしないでください。危険なレーザ照射の被ばくを招くことがあります。

## 液晶画面について

製品によって、赤、青、緑などの輝点が点灯したままになつたり、小さな黒点が発生したりすることがあります。また、低温環境下でご使用の場合、若干表示の切替わりが遅く見えることがあります、これは液晶の特性によるバラつきであり不良ではありません。

## microSD カードに関する注意

動作確認済みの microSD カードをご使用ください（「1-2-3 microSD カードの取扱い」（P.[34](#)）参照）。  
microSD カードの取扱いについては、microSD カード付属の取扱説明書をご覧ください。

## 電波に関する注意

- 本機は電波法に基づく工事設計の認証を受けた無線設備を内蔵しています。
- 本機を分解したり、本機の内部に触れたりすることは電波法で禁止されており、法律で罰せられることがあります。故障の際の内部点検、調整はお買上げの販売店にお任せください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社営業担当にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーテーションの設置など）についてご相談ください。
- ・その他、この機器から移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきた時は、弊社営業担当へお問合せください。

製品銘板に記載されている  は、次の内容を意味しています。

2.4	使用周波数帯域	2.4GHz 帯
FH	変調方式	FH-SS 方式
1	想定干渉距離	10m 以下
—	周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

### 注意

本機は日本国内でのみ使用可能です。海外では電波規格が異なるため、使用できません。

# 目次

商標について .....	1
正しく安全にお使い頂くために .....	2
必ずお守りください .....	3
レーザ安全基準について .....	8
レーザに関する警告ラベル .....	8
液晶画面について .....	9
microSD カードに関する注意 .....	9
電波に関する注意 .....	9
目次 .....	10
本書の見方 .....	16
■本書の構成 .....	16
■表記上の注意 .....	17
システム体系 .....	18
■製品構成 .....	18
■Bluetooth 通信システム構成 .....	19
■赤外線通信 (IrDA) システム構成 .....	20
 第 1 章 ハードウェア .....	22
1-1 製品について .....	23
1-1-1 同梱品の確認 .....	23
1-1-2 別売品 .....	24
1-1-3 各部の名称と機能 .....	25
■LED 表示 .....	27
■操作キーの名称 .....	28
■液晶画面ステータスバー .....	29
1-2 本体の使い方 .....	30
1-2-1 ハンドストラップの取付け .....	30
1-2-2 バッテリーパックの取扱い .....	31
■バッテリーパックの取付け .....	31
■バッテリーパックの取外し .....	33
1-2-3 microSD カードの取扱い .....	34
■動作確認済み microSD カード .....	34
■microSD カードの取付け .....	35
■microSD カードの取外し .....	37
1-2-4 バッテリーパックの充電 .....	39
■1 台を充電する .....	40
■複数台を充電する .....	42

1-2-5 バッテリーパックの残量表示とアラーム	44
■バッテリーパックの残量表示	44
■バックアップ用電池の充電	45
1-2-6 メモリのバックアップ	46
■メモリのバックアップ	46
■バックアップ用電池の充電	47
1-2-7 長期保管	48
■本製品の長期保管	48
■バッテリーパックの長期保管	48
1-3 基本的な使い方	49
1-3-1 電源の ON/OFF	49
1-3-2 バーコードの読み取りかた	50
■読み取りかた	50
1-3-3 使用時に役立つ機能	51
■システムメニューの強制起動	51
■自動調光設定	51
■ブザー音量の調整	51
■レジューム機能（電源 OFF 時の状態保持）	52
■オートウェイクアップ（設定した時間に電源 ON）	52
■オートパワーオフ（自動的に電源 OFF）	52
1-4 お手入れのしかた	53
第2章 ソフトウェア	54
2-1 ソフトウェアについて	55
2-1-1 データについて	55
■ドライブの構成	55
■ファイル名について	56
■拡張子について	56
■システムやアプリケーションソフトが作成するファイル	57
■R ドライブ (microSD カード) フォルダ構成	57
2-2 レジストリ	58
2-3 アプリケーションソフトの作成	59
■周辺ソフトウェア	59
第3章 通信環境の設定	60
3-1 通信の種類	61
■Bluetooth 通信 → 「3-2 Bluetooth 通信環境の構築」(P.63)	61
■赤外線 (IrDA) 通信 → 「3-3 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P.68)	62
3-2 Bluetooth 通信環境の構築	63
3-2-1 パソコン側の準備	63

■COM ポートの確認.....	63
3-2-2 本製品側の準備.....	63
■設定ウィザードによる Bluetooth 通信設定 .....	64
3-2-3 Bluetooth 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード.....	65
3-3 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築.....	68
3-3-1 パソコン側の準備.....	69
3-3-2 赤外線通信 (IrDA) 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード .....	70
■機器の準備 .....	70
■使用前の準備.....	70
■転送ユーティリティ BluePorter-V の起動.....	71
■通信設定.....	71
■ファイルのダウンロード .....	72
3-4 アプリケーションソフトの実行方法.....	74
■ファイルリストから選択して実行 .....	74
■起動時に自動実行 .....	76
 第 4 章 システムメニュー.....	77
4-1 システムメニューの使い方 .....	78
4-1-1 操作キー .....	78
■キーの文字割当て一覧 .....	79
4-1-2 システムメニューの起動 .....	80
4-1-3 初めてシステムメニューを起動する時 .....	80
4-1-4 システムメニューの操作方法.....	81
■設定項目の選択 .....	81
■キーでデータを入力する .....	82
■その他の操作 .....	84
■バーコードでデータを入力する .....	85
4-2 システムメニュー一覧 .....	86
4-3 システム：快適にご使用頂くための設定 .....	88
4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行 .....	89
4-3-2 時計：時刻の設定 .....	90
■現在の時刻 .....	90
■マニュアル設定：マニュアルで時刻を設定 .....	90
■サーバ設定：サーバから自動的に時刻を設定 .....	91
4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定 .....	92
■レジューム機能：電源 OFF 時の状態を保持 .....	92
■オートウェイクアップ：決められた時間に起動 .....	94
■オートパワーオフ：自動的に電源 OFF .....	95
4-3-4 パスワード：パスワードの設定・解除 .....	96
■設定：パスワードの設定 .....	97

■解除：パスワードの解除.....	97
4-4 受信：ファイルの受信.....	98
4-4-1 受信：Bluetooth/赤外線（IrDA）通信でファイルを受信.....	98
■ファイルの受信（Bluetooth/IrDA）.....	99
4-5 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など.....	101
■実行：アプリケーションソフトの実行.....	105
■再生：音声データの再生.....	105
■閲覧：画像データの表示.....	106
■情報：ファイル詳細情報を表示.....	106
■送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信.....	107
■削除：ファイルを削除.....	109
■全てチェックをつける：全てのファイルを選択.....	110
■全てチェックをはずす：全てのファイルの選択を外す.....	110
■指定したドライブにコピー.....	111
4-6 端末ID：端末識別用IDを設定.....	112
4-7 デバイス：ハードウェアの機能を設定.....	113
4-7-1 バーコード：バーコードスキャナの設定.....	113
■トリガモード.....	114
■デコードレベル.....	116
■反転バーコード.....	117
4-7-2 キー.....	118
■キーリピートの設定.....	118
■キーバックライトの設定.....	119
4-7-3 Bluetooth：Bluetoothの登録設定.....	120
■ローカルデバイス.....	120
■リモートデバイス.....	122
4-7-4 画面/バックライト輝度の設定.....	128
■バックライト輝度.....	128
■自動調光.....	129
4-7-5 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定.....	129
■ボリューム.....	130
■インジケータ.....	130
■キークリック音.....	136
4-8 メンテナンス：基本情報とメンテナンスの設定.....	137
4-8-1 システムバージョン：OSバージョンの確認.....	137
4-8-2 フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット.....	138
4-8-3 クローン：複製の作成.....	140
■クローン実行の手順.....	140
■Bluetooth/IrDAの場合.....	141
■microSDの場合.....	145

4-8-4 ドライブ：ドライブ情報の表示.....	148
4-8-5 長期保管：長期間使用しないときの設定.....	149
4-8-6 ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動.....	150
4-8-7 OS 更新：本製品のOSの更新.....	151
4-8-8 BHCP：BHCPの設定.....	153
4-9 テスト：ハードウェアデバイスのテスト.....	155
4-9-1 Bluetooth：Bluetooth通信のテスト.....	156
4-9-2 IrDA：赤外線通信のテスト.....	157
4-9-3 バーコード.....	158
■バーコードオプション.....	158
4-9-4 画面：液晶画面のテスト.....	159
4-9-5 キー：キー動作とインジケータのテスト.....	160
<b>第5章 仕様.....</b>	<b>161</b>
5-1 製品の仕様.....	162
5-1-1 XIT-200-M バーコードハンディターミナル.....	162
■外形寸法.....	165
5-1-2 QC-006 シングルチャージャ.....	166
5-1-3 QC-007 マルチチャージャ.....	167
5-1-4 IU-004 USB通信ユニット.....	167
5-1-5 IU-004C USB通信/充電ユニット.....	168
5-1-6 IU-004CL LAN通信/充電ユニット.....	169
5-2 読取仕様.....	170
5-2-1 バーコードの読み方.....	170
5-2-2 読取深度.....	170
5-2-3 バーコードの傾きと読み取り可能角度.....	171
5-3 画面出力キャラクタ.....	172
■全角文字.....	172
■半角文字.....	172
<b>第6章 よくある質問と回答.....</b>	<b>173</b>
6-1 よくある質問と回答.....	174
6-2 読取りが困難なバーコード.....	181
<b>製品保証.....</b>	<b>183</b>
■製品保証について.....	183
<b>消耗品.....</b>	<b>184</b>
■保守について.....	184
■修理について.....	184

■消耗品.....	184
付録.....	185
付録-1 出荷時設定一覧.....	186
付録-2 サンプルバーコード.....	188
付録-3 用語集.....	192

# 本書の見方

## ■本書の構成

本書は、次の内容で構成されています。

<a href="#"><u>システム体系</u></a>	本製品のシステム構成の全体を説明しています。製品のご理解にお役立てください。
<a href="#"><u>第1章 ハードウェア</u></a>	本製品各部の使い方、バッテリーパックの取付け・充電、バーコードの読み取りかたなど、ハードウェアの使い方について説明しています。
<a href="#"><u>第2章 ソフトウェア</u></a>	ソフトウェアについて説明しています。
<a href="#"><u>第3章 通信環境の設定</u></a>	アプリケーションソフトを作成するための環境、作成方法、インストール手順、実行方法について説明しています。
<a href="#"><u>第4章 システムメニュー</u></a>	基本的な機能の操作方法とシステムメニューについて説明しています。
<a href="#"><u>第5章 仕様</u></a>	製品の仕様一覧です。
<a href="#"><u>第6章 よくある質問と回答</u></a>	よくある質問やトラブル、それらを解決するために確認する必要のある項目について説明しています。
<a href="#"><u>製品保証</u></a>	製品保証およびユーザ登録方法について説明しています
<a href="#"><u>消耗品</u></a>	消耗品について説明しています。
<a href="#"><u>付録</u></a>	出荷時設定、サンプルバーコードが記載されています。

## ■表記上の注意

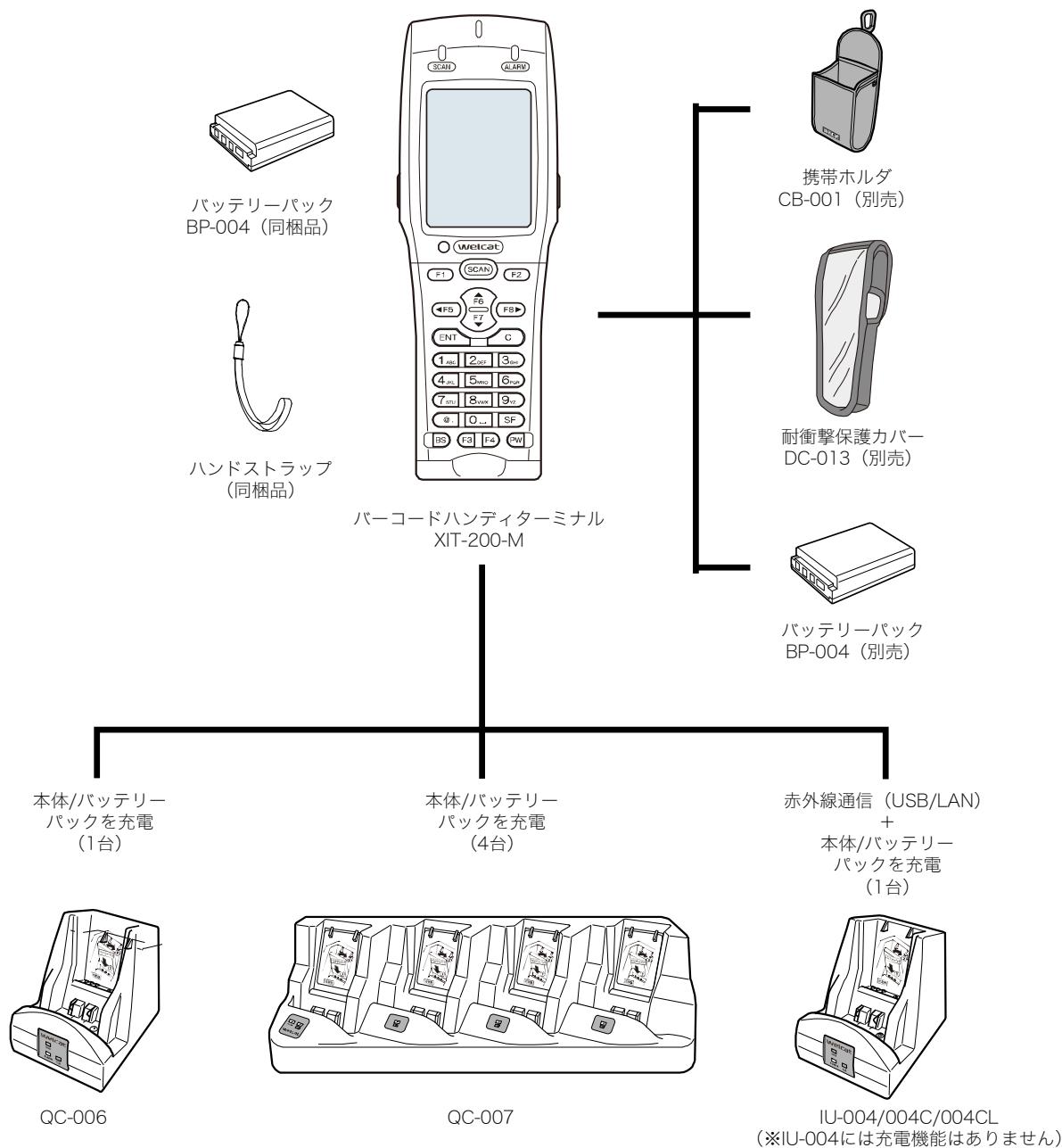
本書では、次の表記が使用されています。

<b>注意</b>	守って頂きたい事項、操作上の注意を要する事項を記載しています。この記載をよくお読みになり、必ず指示に従ってください。
<b>参考</b>	役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。
 参照	関連する情報が記載されているページや他のマニュアルを紹介しています。
本製品/本体	XIT-200-M 本体のことです。
【 】キー	操作パネルのキー名称は【 】で記載しています。（例）【PW】キー
[ ]	画面に表示される項目は [ ] で記載しています。（例）[システムメニュー]
<b>操作手順</b>	システムメニューの操作方法を説明しています。
	システムメニューの一部の操作では、実行時のバッテリーパック残量が規定値（操作により異なります）を下回る場合、操作が制限されます。それらの操作説明には、このマークを記載しています。

# システム体系

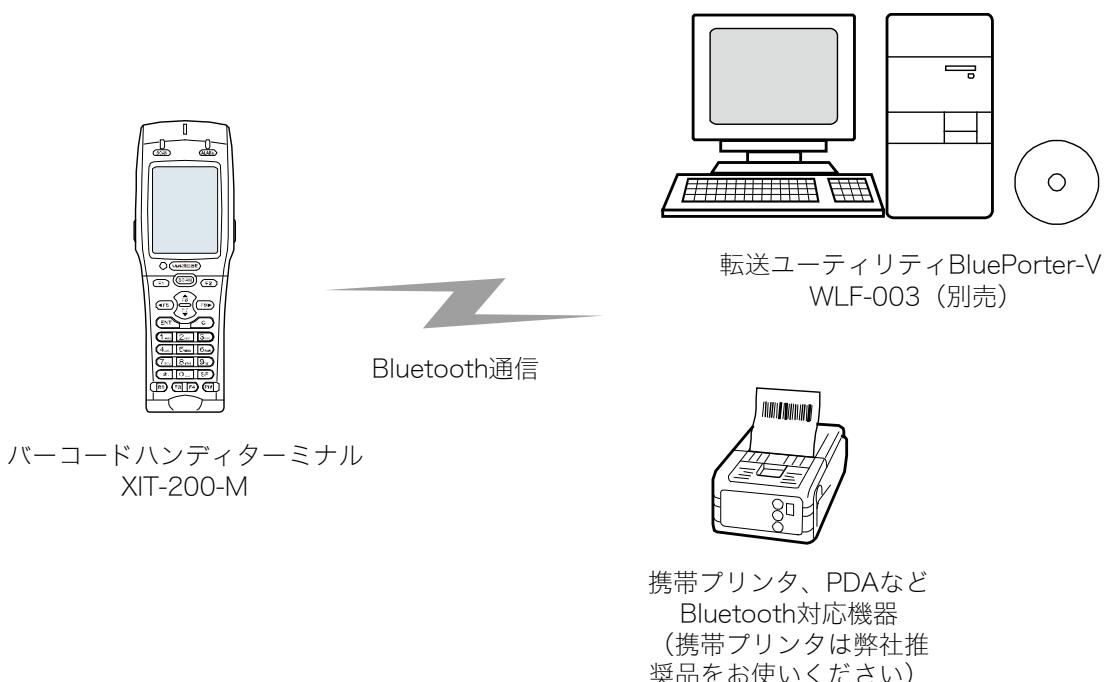
## ■製品構成

本製品を使用するための基本的な製品構成です。必要に応じてご用意ください。



## ■Bluetooth 通信システム構成

パソコンの USB ポートに Bluetooth 通信アダプタを接続すると、本製品との間でファイルの送受信ができます。この通信には、別売の転送ユーティリティ BluePorter-V (WLF-003) が必要になります。また、Bluetooth 通信機能を持つ携帯プリンタにデータを送信して印刷する、などの利用方法もあります。



Bluetooth 通信には、次の設定が必要です。

項目	説明	参照ページ
端末 ID	識別用の ID を設定します。 BluePorter-V を使ってファイルを送受信する時に設定します。	「4-6 端末 ID：端末識別用 ID を設定」(P. <a href="#">112</a> )
Bluetooth の登録	Bluetooth の通信に必要な接続先の登録やセキュリティなどの設定をします。	「4-7-3 Bluetooth：Bluetooth の登録設定」(P. <a href="#">120</a> )

## ■赤外線通信 (IrDA) システム構成

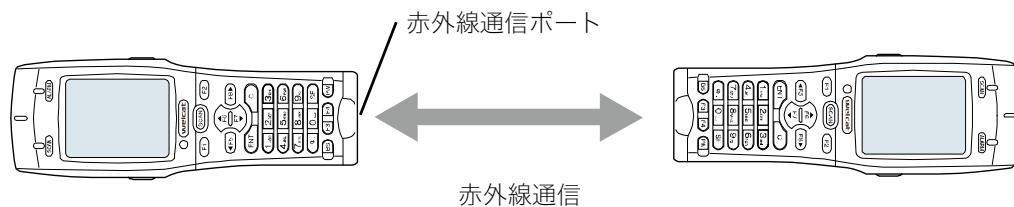
赤外線 (IrDA) を使って、本製品同士の通信、または USB 通信ユニット経由でパソコンと通信することができます。

### ●本体間通信

本製品同士でファイル転送ができます。一方の赤外線通信ポートと他方の赤外線通信ポートを直線上に並べて通信します。

赤外線通信ポート同士の距離は、0~15cm 以内としてください。

詳細は、「●赤外線 (IrDA) 通信を使用する場合」(P. [107](#)) を参照してください。



### 注意

赤外線通信は、光の影響により通信に支障をきたすことがあります。

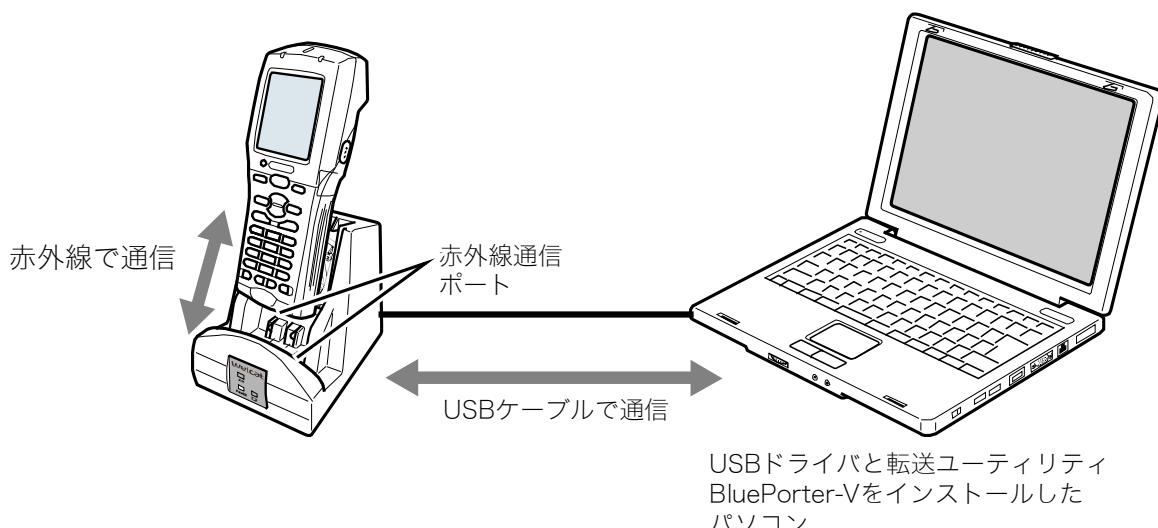
赤外線通信時は赤外線通信ポートに光が入らないようにご注意ください。

### ●USB 通信ユニットによる通信

USB 通信ユニット (IU-004) または USB 通信/充電ユニット (IU-004C) を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。

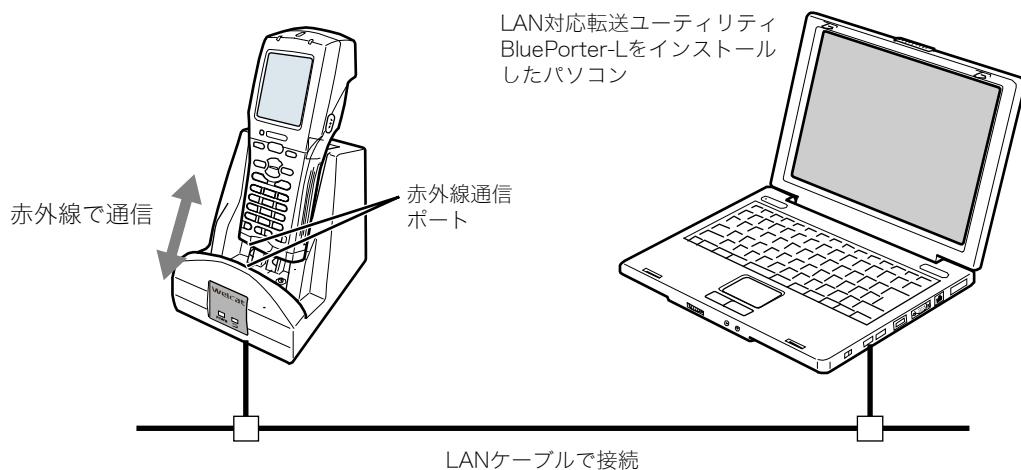
この通信には、別売の IU-004 または IU-004C、および転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。

詳細は、「3-3 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P. [68](#)) を参照してください。



### ●LAN通信ユニットによる通信

LAN通信/充電ユニット (IU-004CL)を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。この通信には、別売の IU-004CL、および LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L が必要です。詳細は、BluePorter-L のヘルプマニュアルを参照してください。



# 第1章

## ハードウェア

## 1-1 製品について

### 1-1-1 同梱品の確認

本製品には、次の製品が同梱されています。全てが揃っていることをご確認ください。

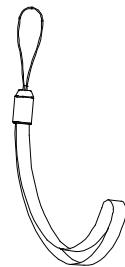
もし不足品、不良品等ありましたら、弊社までご連絡ください。



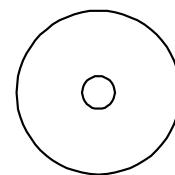
バーコードハンディターミナル  
XIT-200-M



バッテリーパック  
BP-004



ハンドストラップ



ユーザーズマニュアル  
CD-ROM



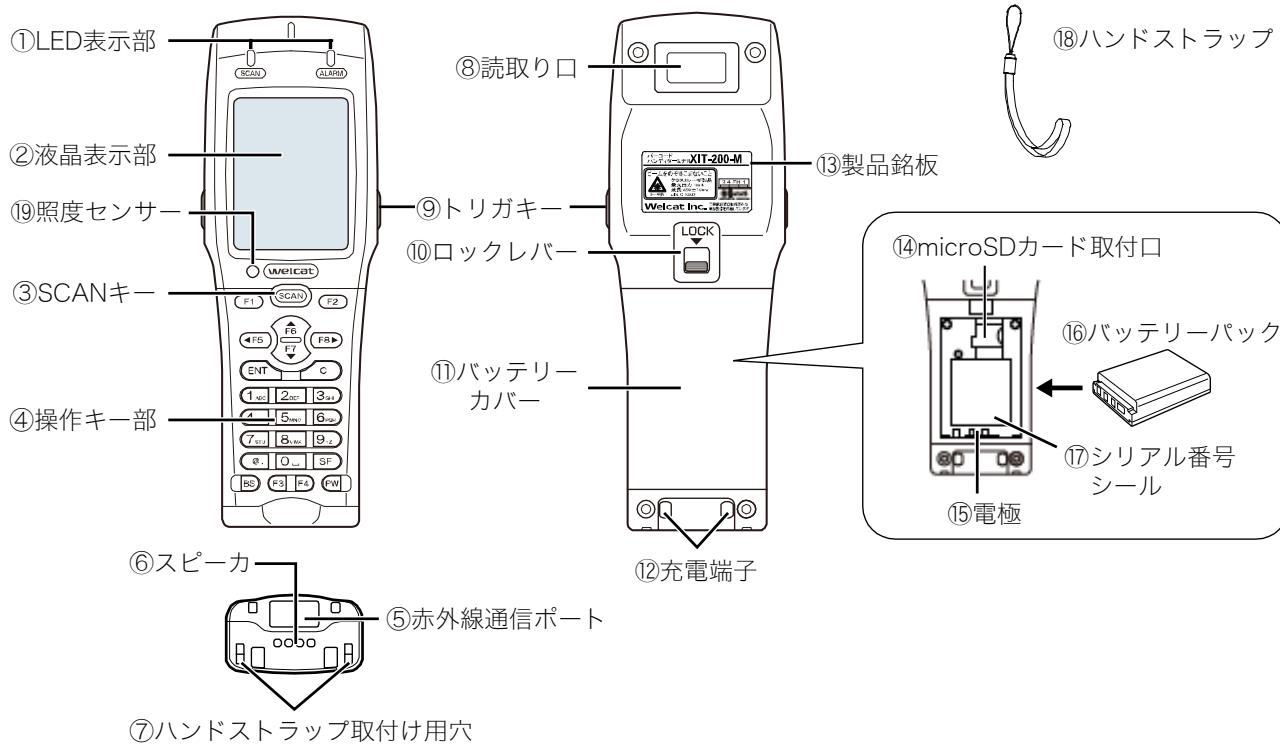
ユーザーズマニュアル CD（本書）は、1オーダーにつき1枚同梱されています（ご購入台数によらず、1回のオーダーにつき1枚が付属します）。

## 1-1-2 別売品

本製品には、以下の関連製品があります。必要に応じてご用意ください。

製品名	型番	説明
バッテリーパック	BP-004	充電式のリチウムイオンバッテリーです。
シングルチャージャ	QC-006	本体充電およびバッテリーパック充電をする充電器です。本製品1台、バッテリーパック1台を充電可能です。
マルチチャージャ	QC-007	本体充電およびバッテリーパック充電をする充電器です。本製品4台、バッテリーパック4台を充電可能です。
USB通信ユニット	IU-004	本製品とパソコン間を結ぶ充電機能のない通信ユニットです。本製品とIU-004間は赤外線、IU-004とパソコン間はUSBで通信します。
USB通信/充電ユニット	IU-004C	本製品とパソコン間を結ぶ充電機能付き通信ユニットです。本体充電およびバッテリーパック充電をする充電機能がついており、本製品1台、バッテリーパック1台を充電可能です。本製品とIU-004C間は赤外線、IU-004Cとパソコン間はUSBで通信します。
LAN通信/充電ユニット	IU-004CL	本製品とパソコン間を結ぶ充電機能付き通信ユニットです。本体充電およびバッテリーパック充電をする充電機能がついており、本製品1台、バッテリーパック1台を充電可能です。本製品とIU-004CL間は赤外線、IU-004CLとパソコン間はLANで通信します。
耐衝撃保護カバー	DC-013	傷、ほこり、衝撃から本体を保護するためのカバーです。
携帯ホルダ	CB-001	本製品を収納して、腰に装着するホルダです。
転送ユーティリティ BluePorter-V	WLF-003	パソコンとファイル送受信をする転送ユーティリティです。USB通信ユニットによりファイル送受信が可能です。IU-004/004Cを使用する時に必要です。
WebGlider-X2 Editorパッケージ	WGE-002	パソコンとのデータ通信や、WebGlider-X2 Browserを使って、システム構築をする場合に必要です。
LAN対応転送ユーティリティ BluePorter-L	WLF-004	パソコンとファイル送受信をする転送ユーティリティです。LAN通信/充電ユニットによりファイル送受信が可能です。 IU-004CLを使用する時に必要です。

### 1-1-3 各部の名称と機能

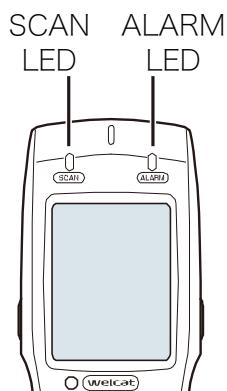


番号	名称	説明
①	LED 表示部	SCAN、ALARM の 2 種類の LED が情報を表示します（次項「■LED 表示」参照）。
②	液晶表示部	文字、画像を表示します。
③	SCAN キー	バーコードを読取る時に押します。または、システムメニューを強制的に起動する時に使用します（「1-3-3 使用時に役立つ機能」（P. <a href="#">51</a> ）を参照）。
④	操作キー部	各キーの名称は「■操作キーの名称」（P. <a href="#">28</a> ）、各キーの働きは、「4-1-1 操作キー」（P. <a href="#">78</a> ）を参照してください。
⑤	赤外線通信ポート	赤外線（IrDA）により他のハンディターミナルや USB または LAN 通信/充電ユニットと通信します。
⑥	スピーカ	ブザー等の音を鳴らします。
⑦	ハンドストラップ取付け用穴	ハンドストラップを取付けます。
⑧	読み取り口	バーコードの読み取り口です。 ※レーザが照射されるので、のぞき込まないでください。
⑨	トリガキー	バーコードを読取る時に押します。

番号	名称	説明
⑩	ロックレバー	バッテリーカバーのロック/解除をします。矢印の方向にレバーを移動するとロックされます。
⑪	バッテリーカバー	バッテリーパック収納部のカバーです。バッテリーカバーが閉まっていることを検知する機能があるため、正しく取付けないと本製品は起動しません。
⑫	充電端子	シングルチャージャ、マルチチャージャの充電用端子です。
⑬	製品銘板	製品名や製造元、レーザ警告等が記載されます。
⑭	microSD カード 取付口	microSD カードを取り付けます。カバーを持上げ、その奥にカードを差込みます。
⑮	電極	バッテリーパック用の電極です。
⑯	バッテリーパック	同梱のリチウムイオン二次電池です。
⑰	シリアル番号シール	シリアル番号が記載されています。 問合せ等の際は、このシリアル番号をご連絡ください。
⑱	ハンドストラップ	⑦ハンドストラップ取付け用穴に装着して使用します。
⑲	照度センサー	液晶表示部や操作キー部のバックライトの明るさを最適に調整するために、周囲の明るさをモニターします。

## ■LED表示

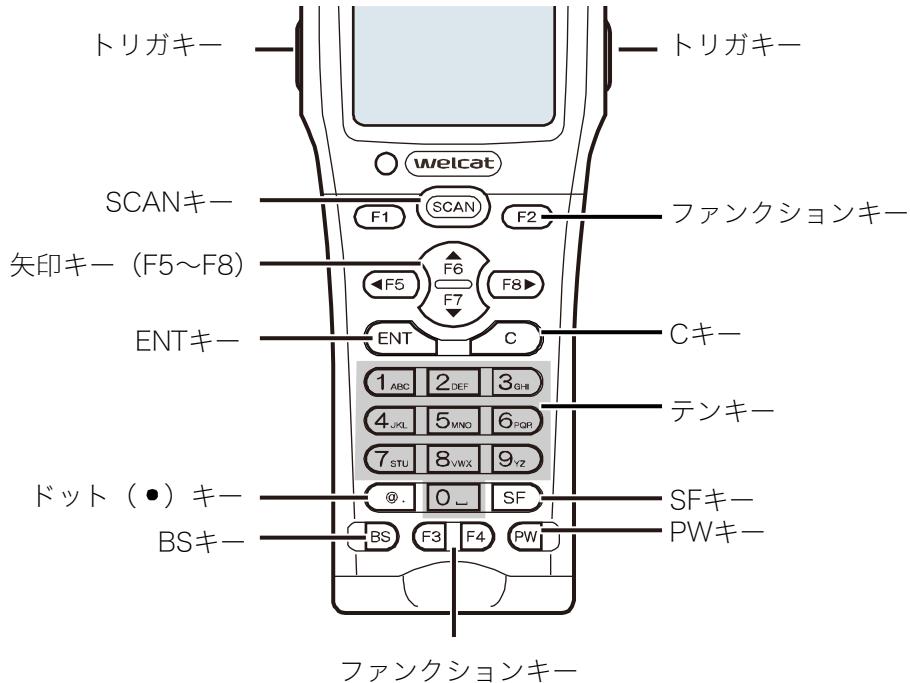
各LED表示は、次のような動作状態を表します。



名称	説明
SCAN LED	アプリケーションソフトから、任意のタイミングで点灯/点滅/消灯の制御ができます。 充電器に設置中は、充電中および充電完了状態を通知します。 【充電時】 緑色：充電完了 赤色：充電中 消灯：充電エラー
ALARM LED	アプリケーションソフトから任意のタイミングで点灯/点滅/消灯の制御ができます。

## ■操作キーの名称

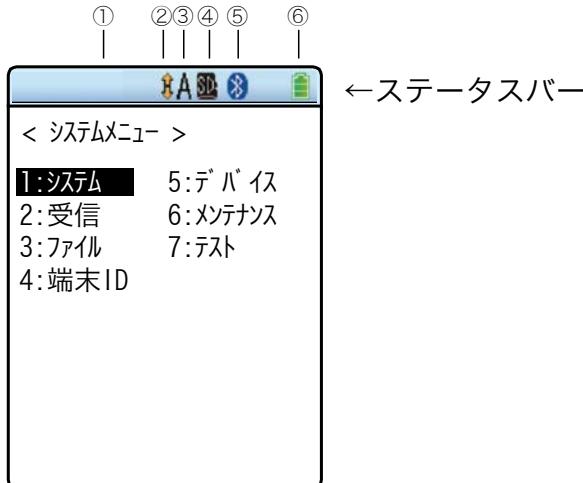
操作キーの名称は、次のようになっています。



システムメニュー操作時のキーの働きは、「4-1-1 操作キー」(P.[78](#)) を参照してください。

## ■液晶画面ステータスバー

液晶画面上部には、本製品の状態を示すステータスバーがあります。



ステータスバーには、次の情報が表示されます。

No.	名称	アイコン	説明
①	文字列表示領域	—	アプリケーションソフトによって、文字列を表示させる場合に使用します。
②	スクロール		アプリケーションソフトによっては、上下にスクロール可能な時に表示されます。
③	入力文字種別		テンキーからの入力文字種別を表示します。英字入力時は「A」、数字入力時は「1」が表示されます。
④	SD カード		microSD カード装着時に表示されます。
⑤	通信状態		Bluetooth が他の機器に接続済みであり、送受信中できる状態の時に表示されます。
			Bluetooth がオープン中で他の機器に接続していない時に表示されます。
			赤外線通信 (IrDA) が送受信できる状態の時に表示されます。
⑥	バッテリーパック		バッテリーパック残量を表示します。バッテリーパック残量が少なくなるに従って本数が減っていきます（「1-2-5 バッテリーパックの残量表示とアラーム」(P. <a href="#">44</a> ) 参照）。
			充電中は充電状態がアイコンで表示されます。

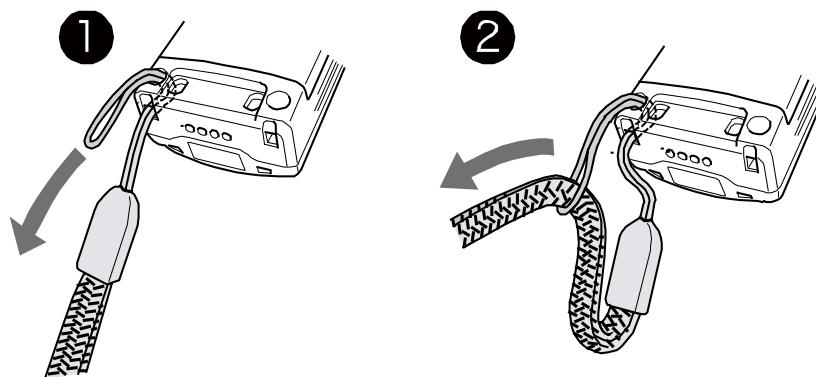
## 1-2 本体の使い方

### 1-2-1 ハンドストラップの取付け

ハンドストラップの取付け用穴は、背面の下部にあります。

①細いほうのひもを、取付け用穴に通します。

②太いほうのひもを、取付け用穴に通した細いひもに通して固定します。



#### 注意

- ・ハンドストラップを持って本体を振り回さないでください。細いひもの部分が摩耗し、切れる恐れがあります。
- ・ハンドストラップに腕を通した状態で本体が可動機器などに挟まるなどした場合、手を引き込まれ、思わぬ事故の原因となりますので十分注意してください。
- ・マルチチャージャ (QC-007) で本体を充電する場合、図のように左側に装着し、充電端子に巻き込まれないようにしてください。

## 1-2-2 バッテリーパックの取扱い

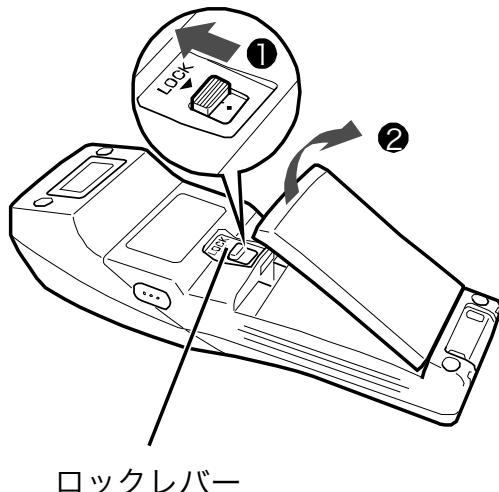
### ■バッテリーパックの取付け

**注意**

- ・指定されたバッテリーパック以外は使用しないでください。
- ・初めて使用する時は、必ず充電してからお使いください。

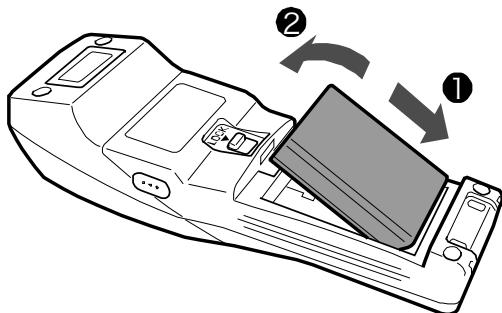
①ロックレバーを矢印の方向（読み取り口の方向）に動かし、ロックを解除します。

②バッテリーカバーをロックレバー側から手前に引いて外します。

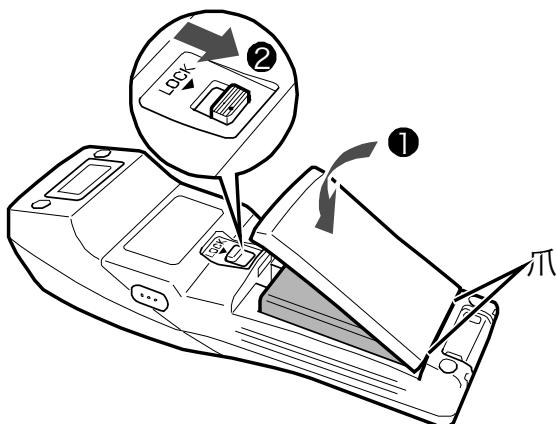


③バッテリーパックのラベル面を上にして、バッテリーパックの端子側を電極側へ押込みます。

- ④バッテリーパックの端子とバッテリーパック用電極が正しく接触したことを確認し、反対側を押込みます。



- ⑤バッテリーカバーの爪を本体に差込み、反対側を本体に密着するまで押し下げた状態で、ロックレバーがカチッと音がするまで押込みます。ロックレバーは確実に下まで押し下げてください。



- ・ロックレバーが完全に矢印方向（バッテリーパックの方向）に下がり、隙間がないことを確認してください。ロックが不完全な場合、バッテリーパックが外れたり落下したりした時の破損の原因になります。
- ・バッテリーカバーが正常に閉まっていないと、本体は起動できません。
- ・バッテリーカバーには、水の浸入を防ぐためのパッキンが取付けられています。装着する際は、パッキンが外れていないか、ゴミが付着していないか確認してください。ゴミが付着している場合は、乾いた清潔な布などで拭き取ってください。
- ・電極を触ったり、引っ張ったりしないでください。ゴミの付着や、変形による接触不良の原因になります。ゴミが付着したり、汚れたりした場合は清潔な乾いた布で清掃してください（「1-4 お手入れのしかた」(P.53) 参照）。

**注意**

## ■バッテリーパックの取外し

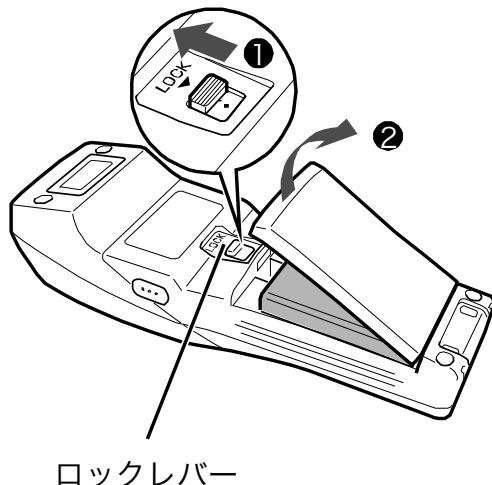
バッテリーパックを本体から取外します。

- ・電源が完全に OFF になっていることを確認してから取外してください。
- ・使用中にバッテリーカバーを開けると、警告メッセージが表示されます。バッテリーパックを交換する前に、データを保存してアプリケーションソフトを終了して電源を OFF にしてください。
- ・ファイルの書き込み中（データ交信中、ファイル受信中、バックアップ中等）またはデフラグ中に、バッテリーパックを取り外すと、ファイルが壊れる恐れがあります。  
ファイルを削除するか、パソコン等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください。

### 注意

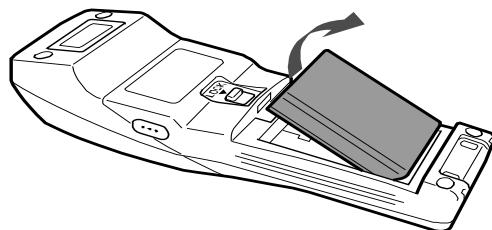
①ロックレバーを矢印の方向（読み取り口の方向）に動かし、ロックを解除します。

②バッテリーカバーをロックレバー側から手前に引いて外します。



ロックレバー

③バッテリーパックの後端（読み取り口側）を浮かせて取外します。



## 1-2-3 microSD カードの取扱い

本製品では、microSD カードを取付けて R ドライブとしてデータを保存することができます。

### 注意

- ・動作確認済みの microSD カードをお使いください。
- ・バッテリーカバーを開けると、警告メッセージが表示されます。バッテリーカバーを開ける前に、データを保存してアプリケーションソフトを終了して電源を OFF にしてください。

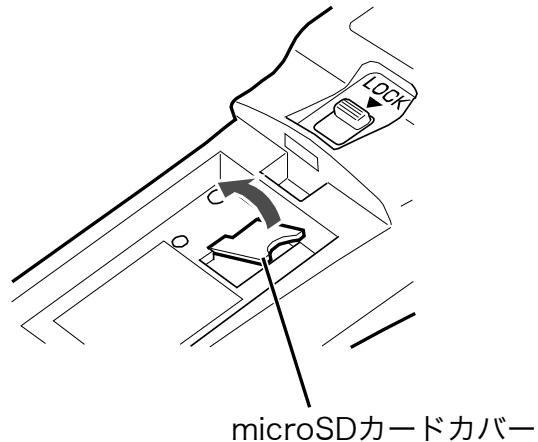
### ■動作確認済み microSD カード

動作確認済みの microSD カードは、弊社窓口までお問合せください。

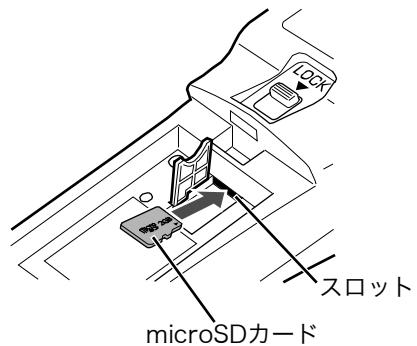
## ■microSD カードの取付け

①バッテリーパックを取り外します（「■バッテリーパックの取外し」（P. [33](#)）参照）。

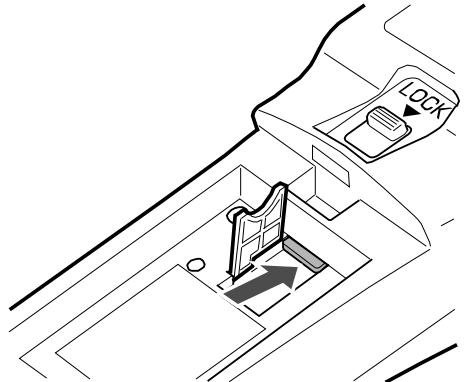
②microSD カードカバーを持上げます。



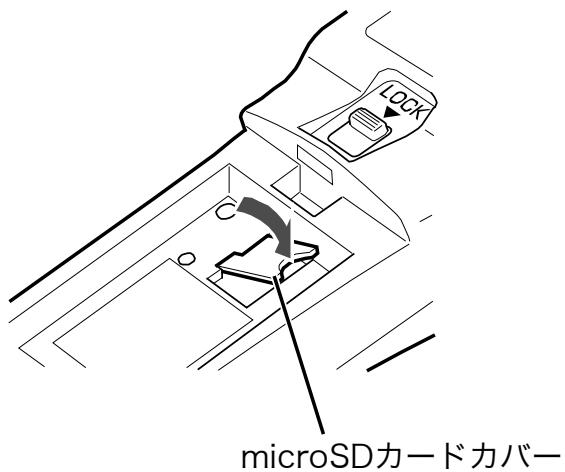
③microSD カードをスロットに差込みます。このとき、microSD カードの電極面を下にして、カードの矢印（▲）をスロット方向に向けます。



④microSDカードを「カチッ」と音がするまでスロットの奥まで押込みます。



④microSDカードカバーを元に戻します。

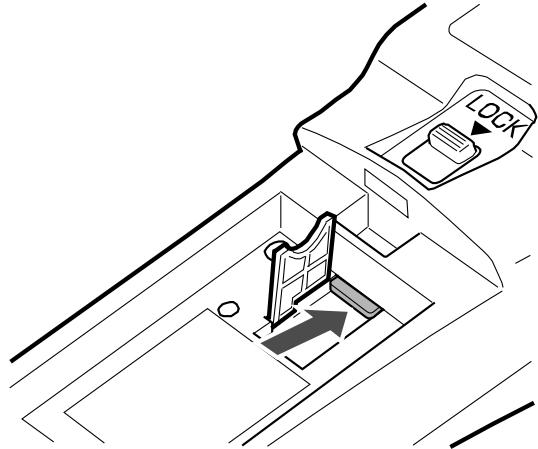


⑤バッテリーパックを装着してバッテリーカバーを元に戻します（「■バッテリーパックの取付け」  
(P. 31) 参照）。

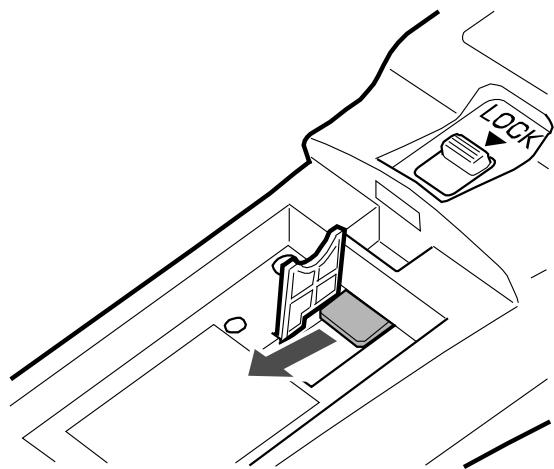
### ■microSD カードの取外し

①バッテリーパックを取り外します（「■バッテリーパックの取外し」（P. [33](#)）参照）。

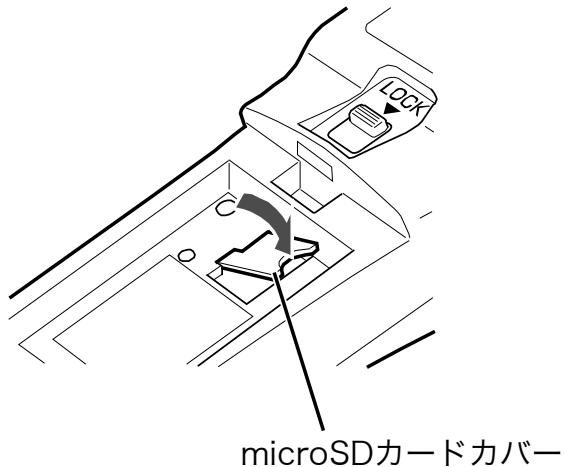
②microSD カードカバーを持上げて、microSD カードを「カチッ」と音がするまで奥に押込みます。



③ロックが外れて microSD カードが少し飛出してくるので、指でカードを引抜きます。



④microSD カードカバーを元に戻します。



⑤バッテリーパックを装着してバッテリーカバーを元に戻します（「■バッテリーパックの取付け」（P. [31](#)）参照）。

## 1-2-4 バッテリーパックの充電

本製品は専用の充電器（別売）で充電します。充電方法には、本体充電とバッテリーパック充電の2種類があります。

- ・本体充電：本体にバッテリーパックを装着した状態で充電
- ・バッテリーパック充電：バッテリーパック単体で充電

充電器には、次の種類があります。

- ・1台を充電：シングルチャージャ（QC-006）、USB通信/充電ユニット（IU-004C）、LAN通信/充電ユニット（IU-004CL）
- ・複数台（最大4台）を充電：マルチチャージャ（QC-007）

・チャージャで充電中にキー操作をすると、充電端子の接触不良を起こす恐れがあります。充電停止やファイル転送停止の原因になりますので、充電中はキー操作をしないでください。

・充電は0°C～40°Cの環境で行ってください。この温度範囲外の場合、充電エラーになり充電が停止します。

充電エラーになっても、適正温度になると充電が再開されますが、故障の原因となりますので、0°C～40°Cの範囲外では使用しないでください。

・本体やバッテリーパックの端子が正しく接触されていない場合や充電が規定時間を過ぎても完了しない場合、またはバッテリーパックの電圧が異常な場合は、充電エラーになることがあります。

その場合は、直ちに充電を中止してください。本体の充電電極とバッテリーパックの端子を清掃しても充電エラーになる場合は、弊社にお問合せください。

・充電しても本体が起動しない、極端に短い時間でローバッテリーが発生するなどの場合は、以下のことが考えられます。

### □バッテリーパックの劣化

バッテリーパックは、充放電を繰返すうちに劣化し、充電可能な容量が低下します。使用時間が短くなり運用に耐えられなくなった場合は、新しいバッテリーパックに交換してください。

### □充電端子電極の接触不良

バッテリーパックまたは本製品の充電端子の電極がゴミなどで汚れている場合は、接触不良により正常に充電できない場合があります。その場合は、清潔な布で拭いて清掃してください。

### 注意

### ●充電状態

本体充電の充電状態は、本体の LED に表示されます。バッテリーパック充電の充電状態は、充電器の LED に表示されます。

充電状態	本体のLED	充電器のLED
充電中	赤色点灯	赤色点灯
充電完了	緑色点灯	緑色点灯
充電エラー	消灯	消灯

### ●本体充電時間

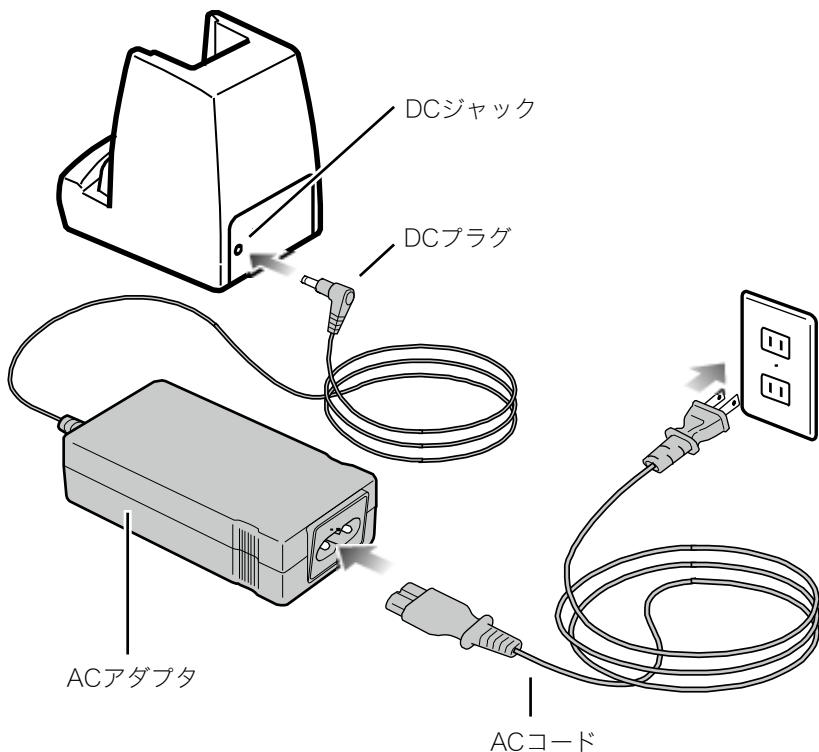
約 2.5 時間

## ■1台を充電する

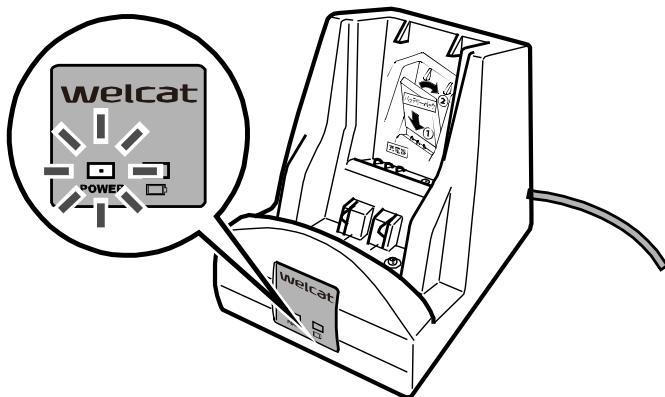
次の手順で充電します。

①充電器の背面にある DC ジャックへ AC アダプタの DC プラグを差込みます。

AC アダプタに AC コードを接続し、AC コードのプラグをコンセントに接続します。



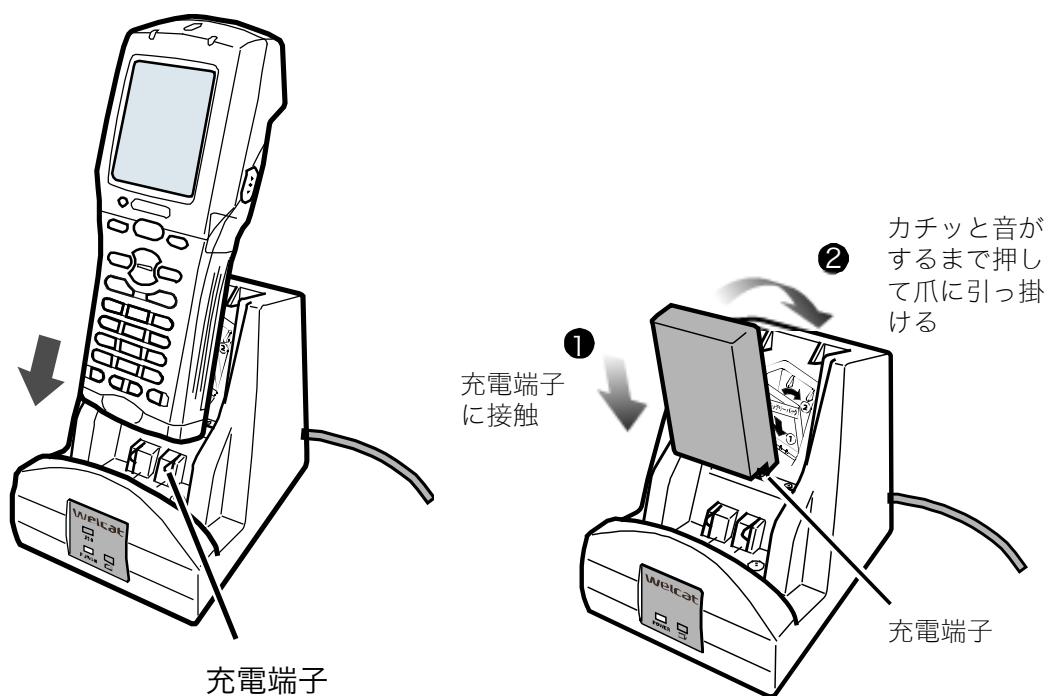
接続後、充電器の前面にあるPOWER LEDが赤く点灯していることを確認してください。



②本製品またはバッテリーパックを充電器に装着します。

**参考**

本製品とバッテリーパックを同時にセットした場合は、本製品の充電が優先されます。  
本製品の充電が完了すると、バッテリーパックの充電が開始されます。



図は、シングルチャージャ (QC-006) の例です。

バッテリーパックは、端子側を下にして製品型番 (BP-004) などが印刷されている面を手前にして装着します。バッテリーパックの端子部を、充電器の充電端子に接触させ、カチッと音がするまで押して爪に引っ掛けます。

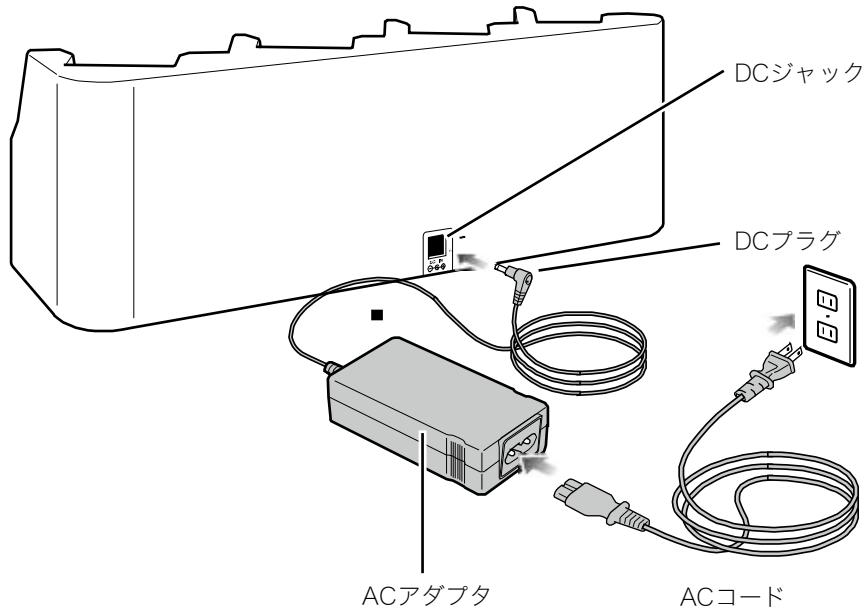
本製品とバッテリーパックを同時に充電する場合は、バッテリーパックを先に装着します。

### ■複数台を充電する

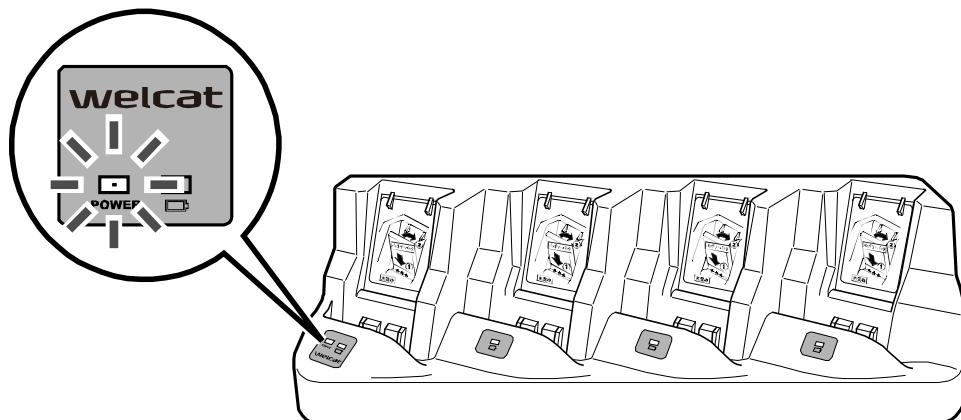
マルチチャージャ (QC-007) を使って、複数台を充電します。

①充電器の背面にある DC ジャックへ AC アダプタの DC プラグを差込みます。

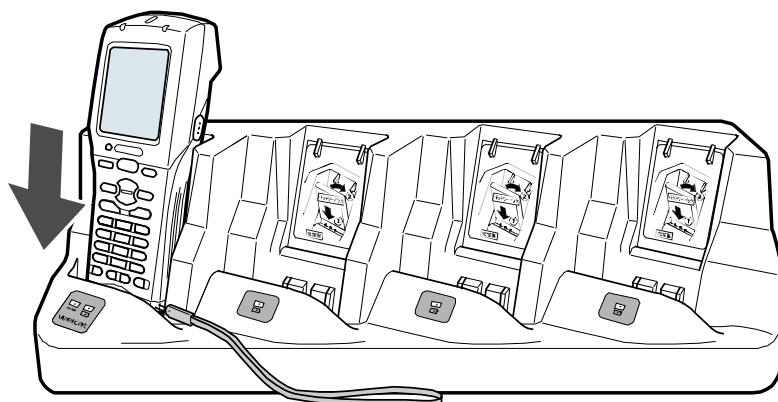
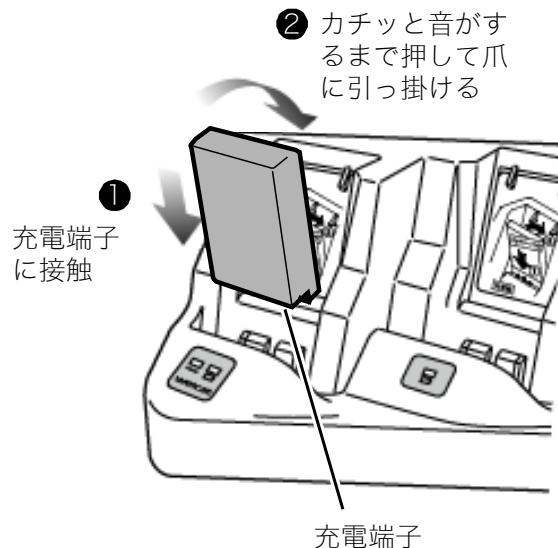
AC アダプタに AC コードを接続し、AC コードのプラグをコンセントに接続します。



接続後、充電器の前面にある POWER LED が赤く点灯していることを確認してください。



②本製品またはバッテリーパックを充電器に装着します。



バッテリーパックは、端子側を下にして製品型番（BP-004）などが印刷されている面を手前にして装着します。バッテリーパックの端子部を、充電器の充電端子に接触させ、カチッと音がするまで押して爪に引っ掛けます。

本製品とバッテリーパックを同時に充電する場合は、バッテリーパックを先に装着します。

**注意**

マルチチャージャ（QC-007）で本体を充電する場合、ハンドストラップは本体正面右側に装着し、充電端子部分に巻き込まれないようにしてください。

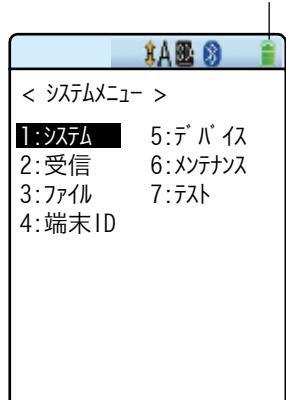
## 1-2-5 バッテリーパックの残量表示とアラーム

### ■バッテリーパックの残量表示

バッテリーパックの残量が少なくなると操作が制限され、その後、電源がOFFになります。

バッテリーパック残量は、液晶画面上部のステータスバーに表示されます。

バッテリーパック残量アイコン



バッテリー残量が十分残っています



バッテリー残量が少なくなっています。



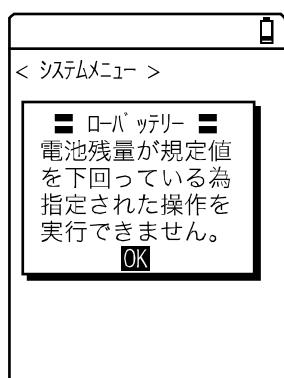
バッテリー残量が残り僅かです。充電をしてください。



バッテリー切れです。すぐに充電するか、充電されたバッテリーパックに交換してください。

#### ●バッテリーパック残量が少ない場合の制限

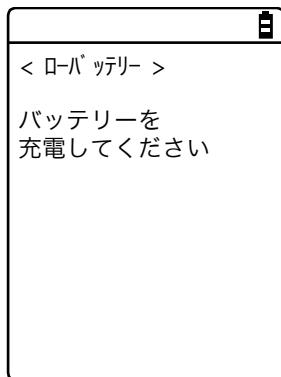
システムメニューの一部の操作は、バッテリーパック残量アイコンが1本または0本以下（操作により異なる）になると、次の画面が表示され操作が制限されます。



本マニュアルでは、制限対象の操作には が表示されています。

### ●ローバッテリー表示

バッテリーパック残量アイコンが空（0本）になった後、さらに電圧が低下すると、次の画面が表示されて、約5秒後に強制的に電源がOFFになります。



### ■バックアップ用電池の充電

本製品には、システム情報をバックアップするためのバックアップ用電池が内蔵されています。次の方法で、バックアップ用電池を充電します。

- ①満充電されたバッテリーパックを用意します。
- ②本製品にバッテリーパックを装着すると、バックアップ用電池への充電が開始されます。  
バックアップ用電池が完全に消耗していた場合、充電には最低24時間かかります。その間、バッテリーパックを取外さないでください。

## 1-2-6 メモリのバックアップ

本製品は、ファイル保存領域としてFドライブ（不揮発性）、Sドライブ（揮発性）の2つのドライブを持っています。パソコンからダウンロードしたアプリケーションデータはFドライブに保存されますが、バッテリーパックが消耗してもデータは消失しません（「2-1-1 データについて」－「■ドライブの構成」（P.[55](#)）参照）。

バックアップは、バッテリーパックとバックアップ用電池で行われます。

### ■メモリのバックアップ

#### ●バッテリーパックによるメモリバックアップ

バックアップ期間	満充電のバッテリーパックを装着した場合のデータ保存期間は、以下の通りです。 ・Sドライブのデータとレジューム情報：約19日
使用上の注意	動作中にバッテリーパックを取り外した場合や、システムメニューのメモリバックアップ機能が無効になっている場合は、Sドライブのデータとレジューム情報が消失します。一時保存する場合は、必ずメモリバックアップ機能を有効にし、【PW】キーを押して電源をOFFにしてからバッテリーパックを取り外してください。レジューム機能については「■レジューム機能：電源OFF時の状態を保持」（P. <a href="#">92</a> ）を参照してください。 本製品を使用しないときにバッテリーパックを外す（バックアップ用電池によるメモリバックアップを活用する）ような運用を毎日繰り返すと、約半年でバックアップ期間が極端に短くなります。この場合、バックアップ用電池の交換（有償）が必要となりますので、交換時以外は常にバッテリーパックを装着しておくことをお奨めします。

### ●バックアップ用電池によるメモリバックアップ

<b>用途</b>	本製品内蔵の時計データを保持します。また、バッテリーパック交換時等、ある一定期間内のみ S ドライブデータを保存します。 レジューム機能を有効にしている場合は、レジューム情報を保存します。
<b>バックアップ期間</b>	通常終了 <sup>*1</sup> 後にバッテリーパックを取り外した場合のデータ保存期間は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ S ドライブのデータとレジューム情報（レジューム機能有効時）：15 時間以上</li> <li>・ 内蔵時計データ：約 6 ヶ月</li> </ul> 長期保管の設定 <sup>*2</sup> による終了をした場合のデータ保存期間は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内蔵時計データ：約 1 年（バッテリーパックの有無を問わず）</li> </ul> 上記は実力値であり、保証値ではありません。
<b>使用上の注意</b>	本製品の長期保管については「1-2-7 長期保管」(P.48) を参照してください。 バックアップ用電池の消耗により消失したデータは復元できません。一時保存以外のデータは F ドライブに保存するようにしてください。

※1 通常終了：【PW】キー押下後にバッテリーパックを取り外す終了方法

※2 長期保管の設定による終了：システムメニューから長期保管を選択する終了方法

### ■バックアップ用電池の充電

本製品には、メモリと内蔵時計をバックアップするためのバックアップ用電池が内蔵されています。次の方法で、バックアップ用電池を充電します。

①満充電されたバッテリーパックを用意します。

②本製品にバッテリーパックを装着すると、バックアップ用電池への充電が開始されます。

バックアップ用電池が完全に消耗していた場合、充電には最低 24 時間かかります。その間、バッテリーパックを取り外さないでください。

## 1-2-7 長期保管

### ■本製品の長期保管

本製品を長期間（6ヶ月以上）使用しない場合、システムメニューで長期保管の設定をすることをお奨めします。

長期保管を設定するとすぐに電源が切れます。

長期保管を設定するとSDライブのデータとレジューム情報は消失しますが、内蔵時計のデータは保持し続けますので、バックアップ電池の消耗を抑えることができます。

長期保管の設定方法については「4-8-5 長期保管：長期間使用しないときの設定」(P. [149](#)) を参照してください。

### ■バッテリーパックの長期保管

長期間バッテリーパックを使用しない場合は、本製品を上記の長期保管設定にしてからバッテリーパックを取り外し、50%程度の充電状態（バッテリーパック残量アイコンのバー表示が2本程度）で涼しい場所に保管することをお奨めします。満充電や高温環境下での保管はバッテリーパックの寿命を縮めることになります。

## 1-3 基本的な使い方

### 1-3-1 電源のON/OFF

#### 注意

バッテリーカバーが完全に閉じられていないと電源はONにできません。

使用中にバッテリーカバーを開けると、警告メッセージが表示されます。

【PW】キーを1秒以上押すと電源がONします。

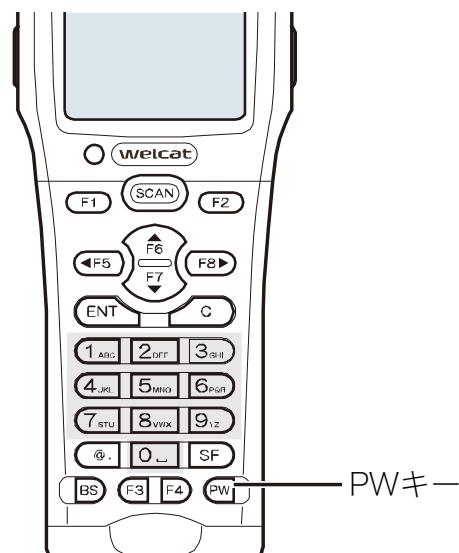
※バッテリーパックを取り付けて最初に電源ONするときは、【PW】キーを2秒以上押してください。

アプリケーションソフトの自動実行が設定されている場合は、設定されているアプリケーションソフトがスタートします（「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」(P.[89](#)) 参照）。

再度、【PW】キーを押すと電源がOFFします。

#### 参考

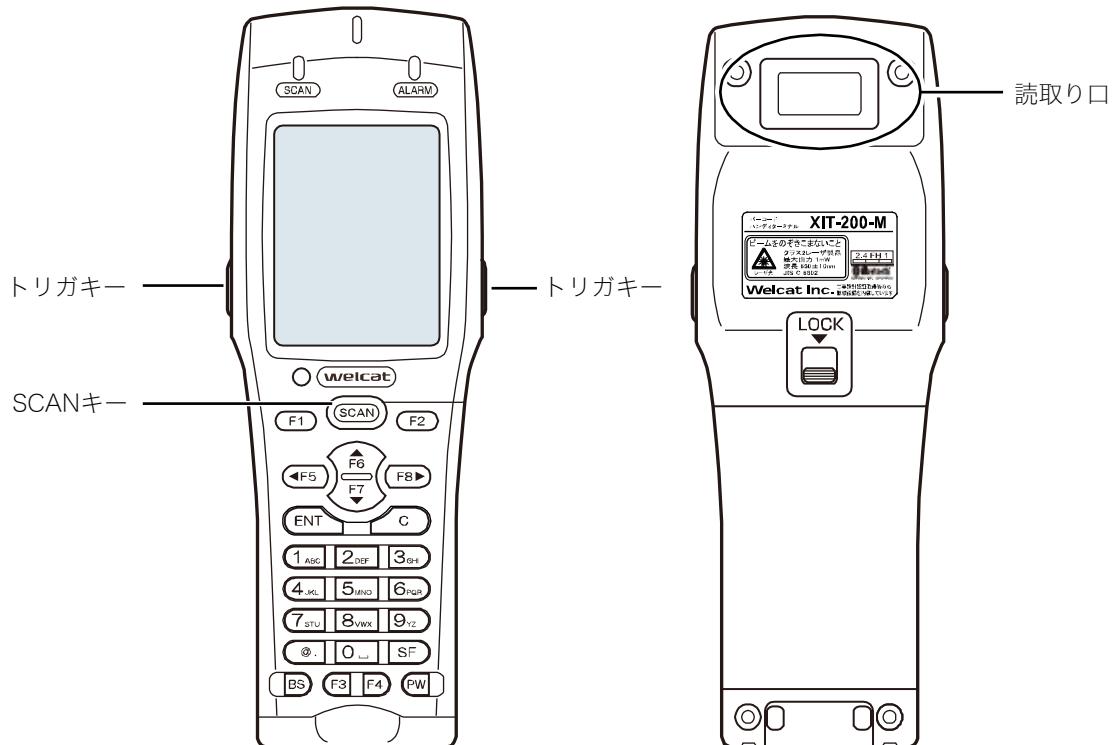
- ・システムメニューを起動する場合は、読み取りキーを押しながら【PW】キーを1秒以上押します。
- ・アプリケーションソフトの自動実行が設定されている場合は、設定されているアプリケーションソフトがスタートします（「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」(P.[89](#)) 参照）。



## 1-3-2 バーコードの読み取りかた

### ■読み取りかた

バーコードを読み取る時は、背面の読み取り口をバーコードに向け、【SCAN】キーまたは左右にあるトリガキーを押します。



#### 注意

読み取り口からはレーザ光が照射されます。のぞき込んだり、レーザを目にあてたりしないでください。

## 1-3-3 使用時に役立つ機能

### ■システムメニューの強制起動

電源OFF状態の時、【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを押して本製品を起動すると、アプリケーションソフトの「自動実行」が設定されている場合であっても強制的にシステムメニューが起動します。

### ■自動調光設定

本製品には照度センサーが内蔵されており、周囲の明るさを感じて液晶画面バックライトの調光やキーバックライト点灯を自動的に制御します。

システムメニューで [5:デバイス] – [4:画面] – [2:自動調光] を選択して設定します。

ただし、アプリケーションソフトで、キー入力後一定時間のみバックライトを明るくするように設定されている場合は、設定された明るさで一定時間点灯した後、暗くなります。

### ■ブザー音量の調整

ブザーの音量、キークリック音などを調整することができます。

システムメニューで [5:デバイス] – [5:音/パイプ] を選択して設定します。



詳しい設定方法は、「4-7-5 音/パイプ：音量・LED・バイブレータの設定」(P.[129](#))を参照してください。

## ■レジューム機能（電源 OFF 時の状態保持）

レジューム機能を有効にすると、電源を OFF にしたときの状態が保存され、次回起動時にその続きから作業を継続することができます。

システムメニューで [1:システム] – [3:電源管理] – [1:レジューム] を選択すると、電源 ON 時の動作を選択することができます。



詳しい設定方法は、「4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定」(P.[92](#)) を参照してください。

- ・動作中にバッテリーパックを外すと、次回起動時は、レジューム機能の有効、無効に関係なく初期画面が立ち上がります。



- ・バックアップ用電池が消耗した場合、レジューム機能の有効、無効に関係なく最初から初期画面が立ち上がります。バックアップ用電池の充電については「1-2-6 メモリのバックアップ」(P.[47](#)) を参照してください。

## ■オートウェイクアップ（設定した時間に電源 ON）

オートウェイクアップ機能を設定すると、あらかじめ設定したスケジュールに従って、本製品を自動的に起動することができます。

オートウェイクアップ機能の設定は、システムメニューで [1:システム] – [3:電源管理] – [2:オートウェイクアップ] を選択します。



詳しい設定方法は、「4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定」 – 「オートウェイクアップ：決められた時間に起動」(P.[94](#)) を参照してください。

## ■オートパワーオフ（自動的に電源 OFF）

一定時間操作されなかった場合、自動的に電源を OFF にします。

システムメニューで [1:システム] – [3:電源管理] – [3:オートパワーオフ] を選択すると、電源 OFF までの時間を設定することができます。



詳しい設定方法は、「■オートパワーオフ：自動的に電源 OFF」(P.[95](#)) を参照してください。

## 1-4 お手入れのしかた

- ・読み取り口

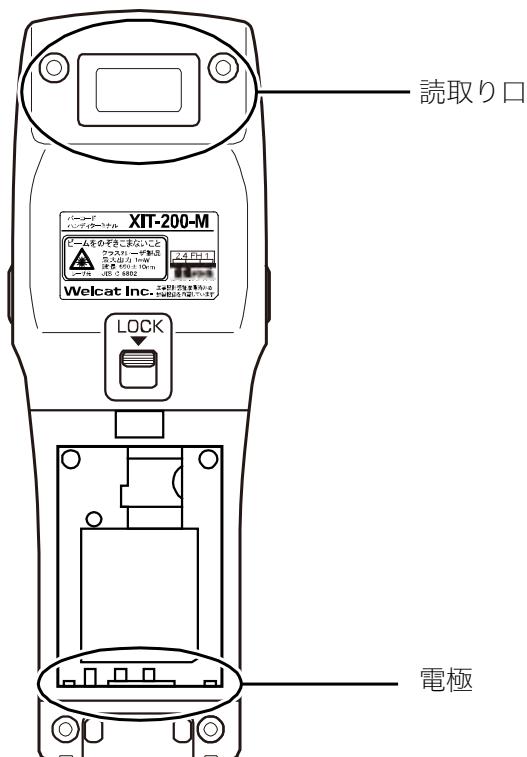
読み取り口のフィルタが汚れていると、バーコードを正しく読み取れない場合があります。

- ・電極

バッテリーパックの使用時間が短くなる、起動しにくくなる、突然電源がOFFになる等の症状が見られる場合、バッテリーパックの劣化以外に、電極の汚れによる接触不良が原因となっていることがあります。汚れが原因の場合、バッテリーパックと本体の電極を清掃することで症状が改善します。

### ●清掃方法

清潔で乾いた柔らかい布、綿棒等で、読み取り口のフィルタや電極の汚れを拭き取ります。汚れた布や指、固い物では決してこすらないでください。強く拭くと傷がつく恐れがあるので注意してください。特に本体側の電極は変形する恐れがありますので、軽く拭くように注意してください。



# 第2章

## ソフトウェア

## 2-1 ソフトウェアについて

本製品のソフトウェアは、次の2種類で構成されています。

システムプログラム	本製品の基本動作を制御するプログラムです。 パソコンのOS（基本ソフトウェア）に相当するもので、あらかじめ本製品に搭載されています。基本的な動作パラメータの設定や各種確認作業を行う「システムメニュー」はシステムプログラムの一部です。
アプリケーションソフト	業務処理に使用するプログラムです。 バーコードの読み取りや、パソコンへのデータ転送などは、主にこのプログラムを使用します。「2-3 アプリケーションソフトの作成」(P59) の開発環境を用いてユーザ様が作成する必要があります。

### 2-1-1 データについて

#### ■ドライブの構成

本製品にはデータを格納する領域として、本体のFドライブ/SドライブとmicroSDカードのRドライブがあります。

ドライブ	データ保持	用途	最大保存数
Fドライブ	不揮発性メモリ バックアップ用電池が消耗した後も、ドライブのデータは保持されます。	アプリケーションソフト、データベースマスターファイル、データファイル等、全てのファイルを格納するための領域として使用します。	128 ファイル
Sドライブ	揮発性メモリ 動作中に電池またはバッテリーパックが突然外されたり、バックアップ用電池が消耗したりすると、ドライブのデータは消失します。	アプリケーションソフトの動作中に一時的なファイル（テンポラリファイル）を格納するための領域として使用します。	128 ファイル
Rドライブ	microSDカード バックアップ用電池が消耗した後も、ドライブのデータは保持されます。	microSDカードにファイルを格納するための、外部拡張領域として使用します。	カードにより異なる

**注意**

- ・ファイルを受信するときは、まずSドライブで受信し、その後Fドライブに移動して格納されます。受信と格納のために、Sドライブ、Fドライブともに十分な空き領域があることを確認してください。
- ・受信時にSドライブに同名のファイルがある場合は、既にあるファイルが消去されます。

**■ファイル名について**

本製品で使用できるファイル名には、次の制限があります。

制限事項	詳細
ファイル名の長さ	拡張子を含め31バイト以内
使用可能文字	次の文字を任意に組合せて使用可能 ・アルファベット（A～Z） ・数字（0～9） ・一部の記号（!#%& !() @^_`~） ・半角スペース ・SHIFT JISの全角文字
その他の制限事項	ファイル名の先頭にスペースと「.」（ピリオド）は使用不可

**■拡張子について**

本製品は、次の拡張子でファイル種別を認識しています。

拡張子	用途
OUT	アプリケーションソフト
JPG	本製品で表示できる画像ファイルです。
PNG	
BMP	
JPEG	
WAV	本製品で再生できる音声ファイルです。
SFL	

## ■システムやアプリケーションソフトが作成するファイル

本製品のシステムプログラムやアプリケーションソフトの一部は、テンポラリファイルや設定保存用のファイルを作成します。ファイル数が多くすぎる、ドライブに空き容量がない等の理由でこれらのファイルが作成できないとき、各プログラムは正常に動作できなくなります。

システムプログラムは、システムメニューの設定値を保存するために F ドライブにレジストリファイルを作成します。4つのファイルが作成されますが、隠しファイルとなっておりシステムメニューには表示されません。



レジストリに関しては「2-2 レジストリ」(P.[58](#)) を参照してください。

## ■R ドライブ (microSD カード) フォルダ構成

microSD カードを挿入して、R ドライブ (microSD カード) にファイルをコピーすると、R ドライブ (microSD カード) にフォルダが自動生成されます。

フォルダ構成	内容				
WELCAT	<p>CLONE</p> <p>クローン機能を使い、設定されたパラメータや F ドライブのデータを microSD カードにコピーする時に、データが格納されるフォルダです。</p> <p>格納されるデータの内容により、以下のサブフォルダが生成されます。</p> <table border="1"> <tr> <td>F</td><td>F ドライブのデータ</td></tr> <tr> <td>REGISTRY</td><td>           環境設定ファイル格納フォルダ            ・システム            ・セキュリティ            ・ユーザ            ・ユニーク         </td></tr> </table>	F	F ドライブのデータ	REGISTRY	環境設定ファイル格納フォルダ ・システム ・セキュリティ ・ユーザ ・ユニーク
F	F ドライブのデータ				
REGISTRY	環境設定ファイル格納フォルダ ・システム ・セキュリティ ・ユーザ ・ユニーク				
	<p>DATA</p> <p>アプリケーション／システムメニューでアクセス可能なフォルダ</p> <p>XIT-2xx シリーズでは R ドライブとして認識する。</p> <p>なお、アプリケーション／システムメニューから、サブフォルダへのアクセスはできません。</p>				

## 2-2 レジストリ

システムメニューで設定される各種パラメータは「レジストリ」と呼ばれます。

レジストリファイルは隠しファイルのため、システムメニューには表示されません。また、F ドライブに保存されるため、バックアップ電池が消耗しても消えることはありません。

レジストリは以下の 5 つに分類されています。

ユーザレジストリ	一般的な設定値です。システムメニューで設定された項目の大部分はユーザレジストリになります。
セキュリティレジストリ	パスワードや PIN コードなどセキュリティに関連する設定値です。
ユニークレジストリ	Bluetooth のローカル BD アドレスや端末 ID といった、一般的に他の端末とは重複することのない、その端末に固有の設定値です。
システムレジストリ	本製品が独自に使用する設定値です。システムメニューから設定、参照することはできません。
デバイスレジストリ	バッテリーパック残量や電波レベル等、端末動作中にリアルタイムに変化するパラメータを参照するための項目です。デバイスレジストリに属する設定値はアプリケーションソフトからの参照のみが可能で、システムメニューから設定することはできません。

デバイスレジストリを除く 4 種類のレジストリは、それぞれ独立したファイルに保存されます。このため、F ドライブには常に 4 つのファイルが格納されています。レジストリはファイルとして F ドライブに保存されますので、バックアップ電池の容量がなくなっても消えることはありません。

デバイスレジストリは本製品の動作状態により変化するレジストリのため、ファイルには保存されません。

クローン機能（「4-8-3 クローン：複製の作成」（P. [140](#)）参照）を使用すると、他の端末にレジストリをコピーし、オリジナルの端末と同じ設定の端末を複製することができます。

初期化メニュー（「4-8-2 フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット」（P. [138](#)）参照）を用いると、レジストリを消去して工場出荷時の設定に戻すことができます。

## 2-3 アプリケーションソフトの作成

本製品を使用するためには、周辺ソフトウェアを使ってアプリケーションソフトの作成し、本製品へアプリケーションソフトを転送する必要があります。

次の周辺ソフトウェアが用意されています。必要に応じてご購入ください。

### ■周辺ソフトウェア

パソコンとのデータ通信や、システムを構築するために、次の別売ソフトウェアが必要です。

名称	型番	備考
WebGlider-X2 Editor パッケージ <正式名称> WebGlider-X2 Editor パッケージ WebGlider-X2 Editor WebGlider-X2 Browser WebGlider-X2 Emulator	WGE-002	WebGlider-X2 Editor パッケージは、Web ベースのアプリケーションソフト開発ツールです。パッケージに同梱のエディタで、本製品で動かすアプリケーションソフト（HTML ファイル）を作成することができます。本製品で HTML ファイルを動作させるために必要な Web ブラウザもパッケージに同梱されています。 詳細は WebGlider-X2 Editor のオンラインヘルプをご覧ください。
転送ユーティリティ BluePorter-V	WLF-003	パソコンとファイルを送受信する転送ユーティリティです。Bluetooth/赤外線通信を利用して、本製品とパソコン間でファイルを送受信します。
LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L	WLF-004	LAN を経由してパソコンとファイルを送受信する転送ユーティリティです。LAN 通信/充電ユニットを使用して、本製品とパソコン間でファイルを送受信します。



各ソフトウェアに関する詳細は、各ソフトウェアのヘルプマニュアルをご覧ください。

# 第3章

## 通信環境の設定

## 3-1 通信の種類

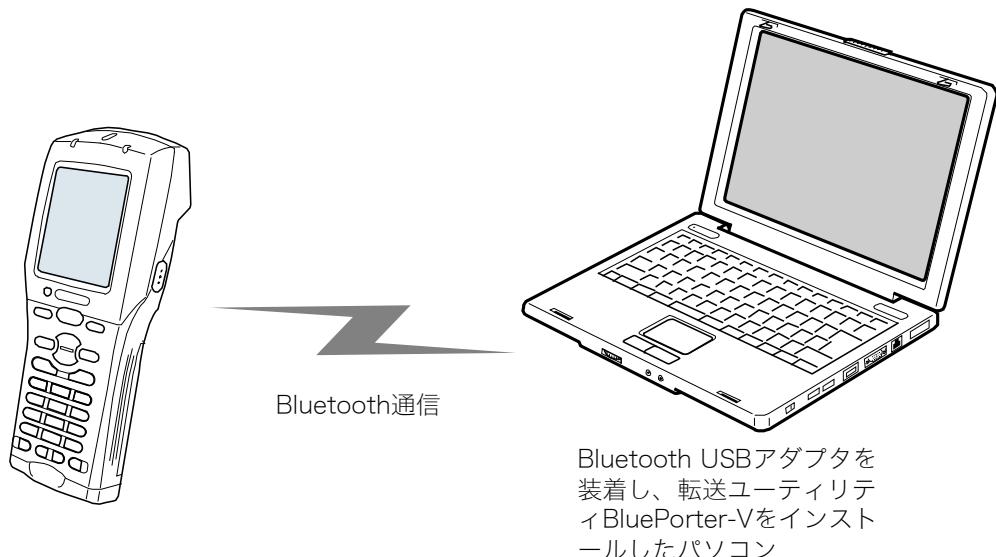
本製品は、入力したデータをパソコンに送信したり、パソコンからデータを受信したりすることができます。また、開発したアプリケーションソフトを本製品で実行するためには、アプリケーションソフトを本製品に転送する必要があります。

パソコンとの接続には、次の2つの方法があります。必要に応じて通信環境を整えてください。

### ■Bluetooth 通信 → 「3-2 Bluetooth 通信環境の構築」(P.63)

パソコンに接続された Bluetooth USB アダプタを経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。

この通信には、別売の転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。

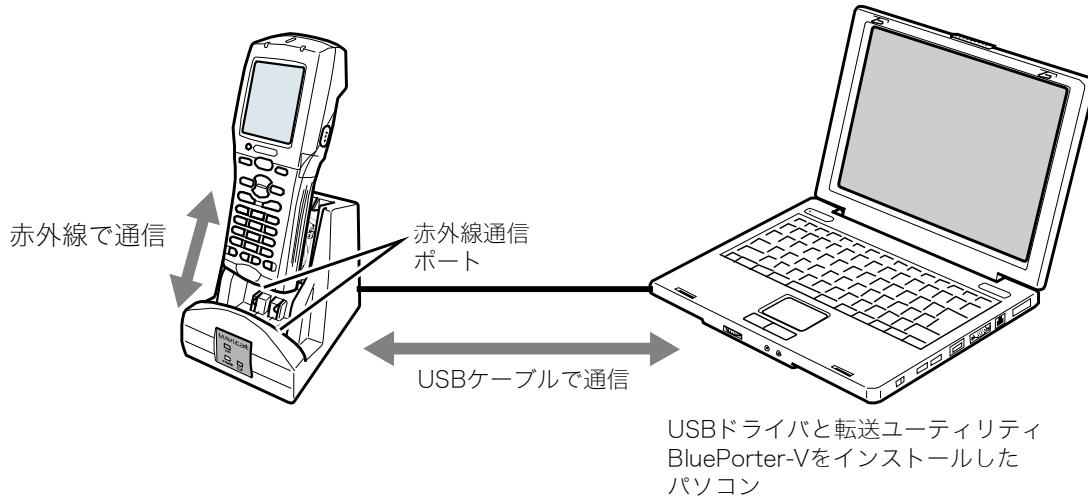


## ■赤外線（IrDA）通信 → 「3-3 赤外線（IrDA）通信環境の構築」（P.68）

### ●USB通信ユニットによる通信

USB通信ユニット（IU-004）またはUSB通信/充電ユニット（IU-004C）を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。

この通信には、別売のIU-004またはIU-004C、および転送ユーティリティBluePorter-Vが必要です。

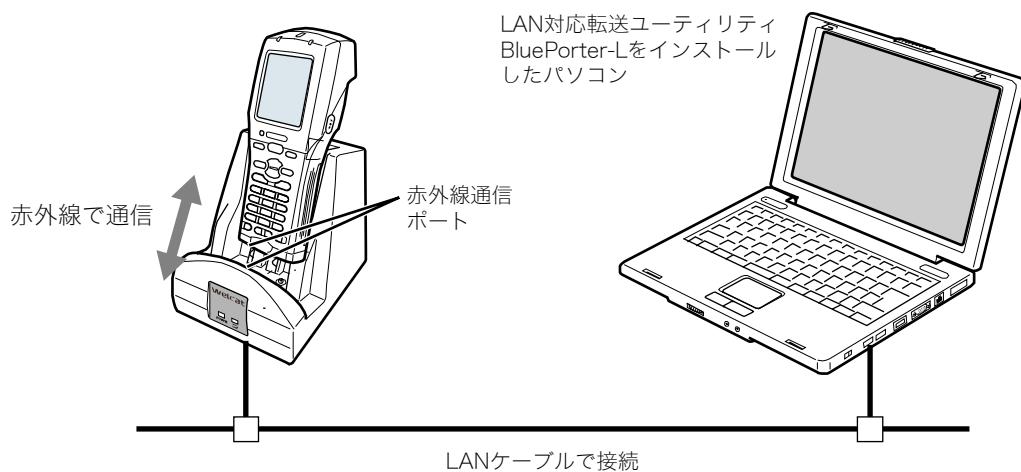


### ●LAN通信ユニットによる通信

LAN通信/充電ユニット（IU-004CL）を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。

この通信には、別売のIU-004CL、およびLAN対応転送ユーティリティBluePorter-Lが必要です。

詳細は、BluePorter-Lのヘルプマニュアルを参照してください。



## 3-2 Bluetooth通信環境の構築

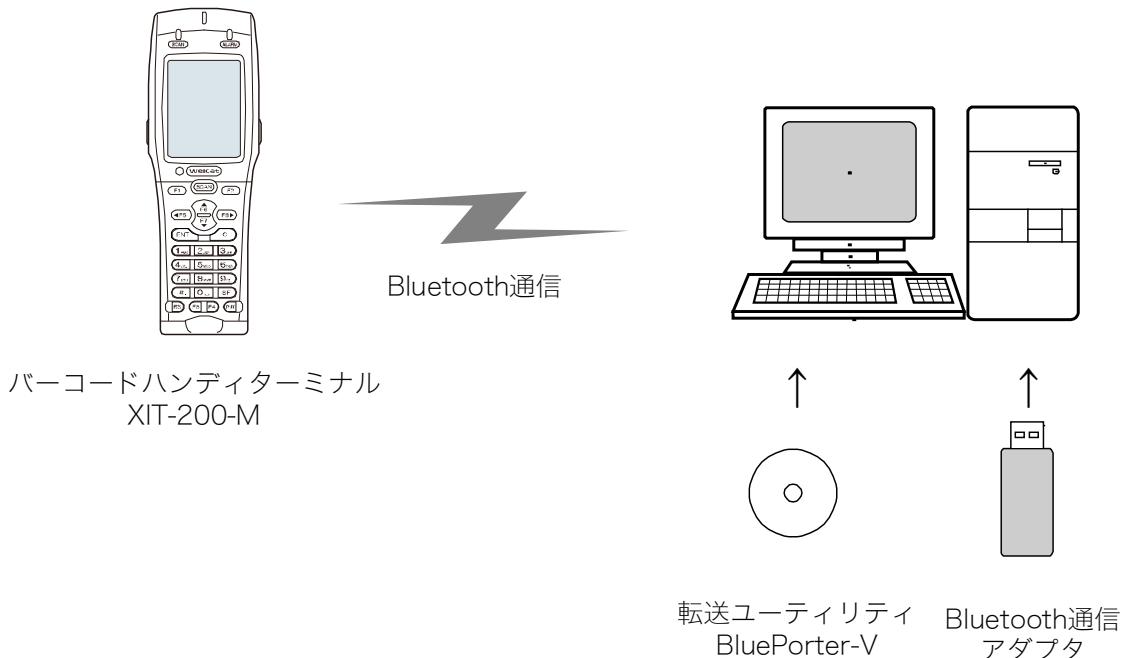
作成したアプリケーションソフトのダウンロードやデータ送受信のために、パソコンとの間でBluetooth通信が実行できる環境を構築します。

### 3-2-1 パソコン側の準備

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。

インストールと設定の方法は、BluePorter-Vの運用ガイドを参照してください。

- ・転送ユーティリティ BluePorter-V
- ・Bluetooth通信アダプタのドライバソフト



#### ■COMポートの確認

Bluetooth通信アダプタが接続されているCOMポートの確認をします。

COMポートの確認方法は、BluePorter-Vの運用ガイドを参照してください。

### 3-2-2 本製品側の準備

本製品でBluetooth通信の設定をするには、次の2つの方法があります。

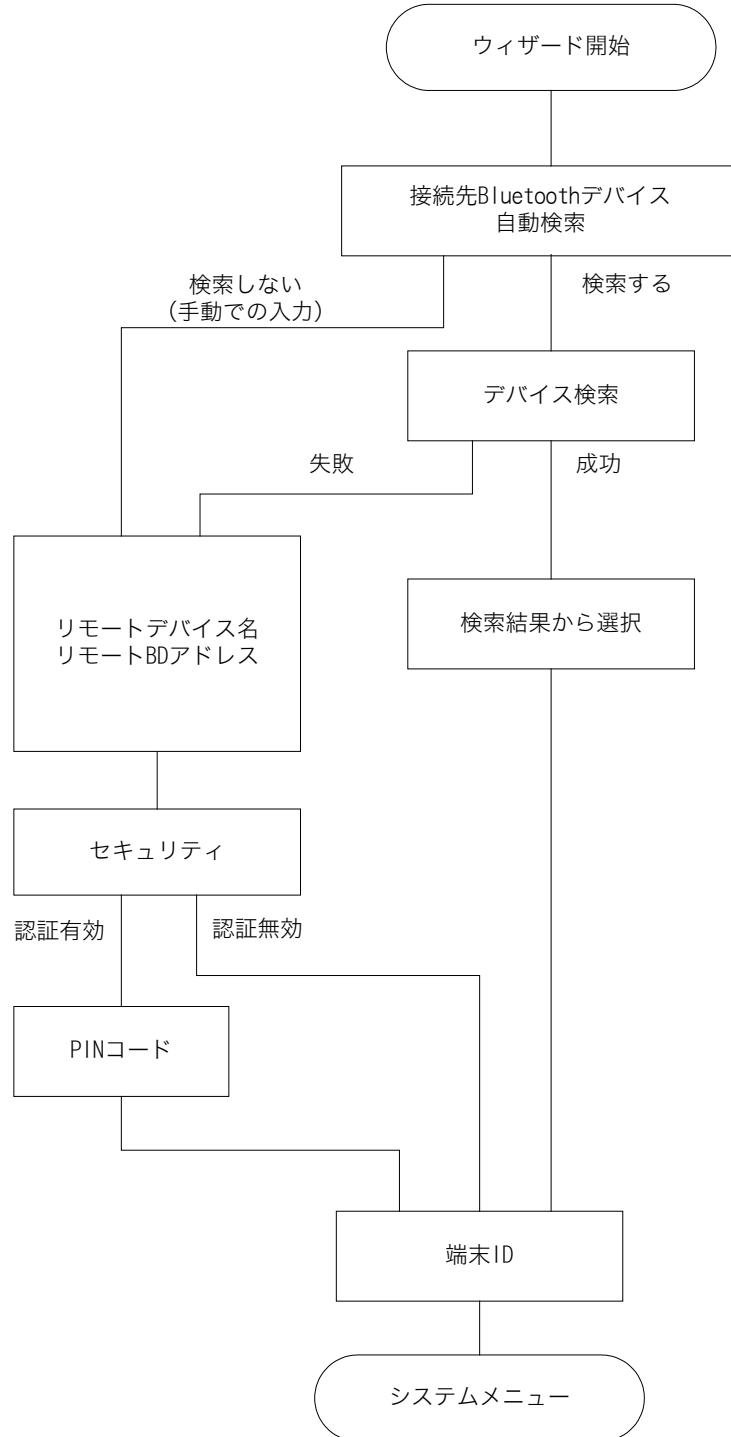
- ・設定ウィザード
- ・システムメニューから各項目を設定

システムメニューからの設定方法は「4-7-3 Bluetooth : Bluetooth の登録設定」(P. 120) を参照してください。

Bluetooth通信アダプタのBDアドレスの確認方法は、BluePorter-Vの運用ガイドを参照してください。

### ■設定ウィザードによるBluetooth通信設定

設定ウィザードでは、次の流れに沿って各項目を設定します。途中の選択肢の分岐によって、それに付随する項目が異なります。

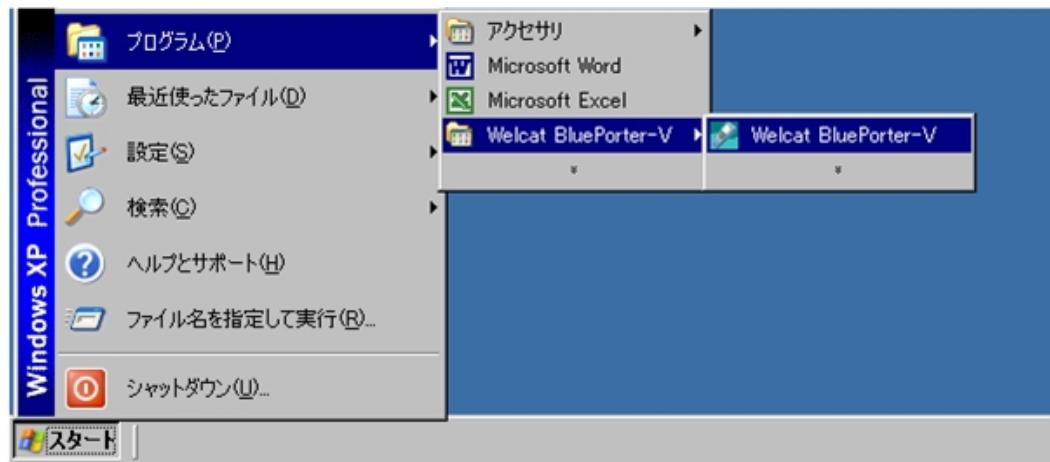


### 3-2-3 Bluetooth 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード

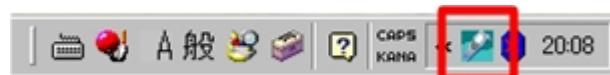
Bluetooth 通信環境が整ったら、次の手順でファイルをダウンロードします。

①パソコンで転送ユーティリティ BluePorter-V を起動します。

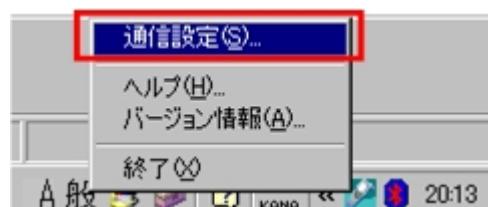
[スタート] – [プログラム] – [Welcat BluePorter-V] – [Welcat BluePorter-V] をクリックします。



②タスクトレイに表示される転送ユーティリティ BluePorter-V のアイコンを右クリックします。



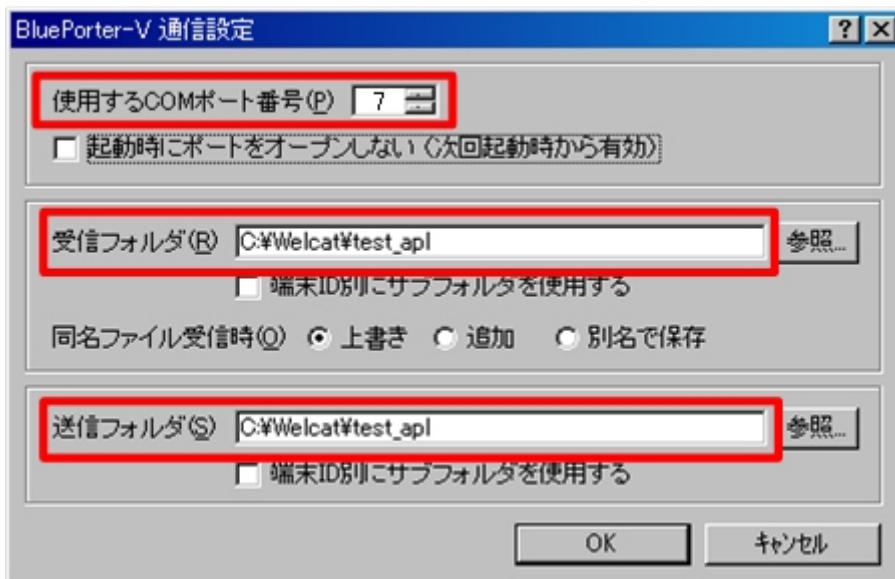
③表示されるメニューから [通信設定] をクリックします。



④COM ポート番号を「使用する COM ポート番号」に設定します。

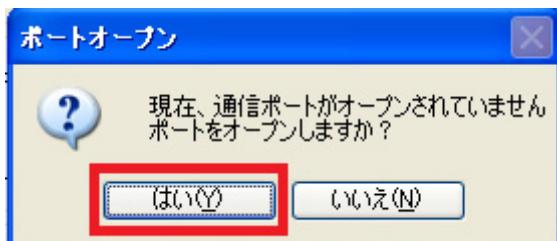
[受信フォルダ] と [送信フォルダ] には、アプリケーションソフトのファイルが存在するフォルダを指定します。

下図は、「C:\Welcat\test\_apl」フォルダにアプリケーションソフトが保存されている場合の例です。

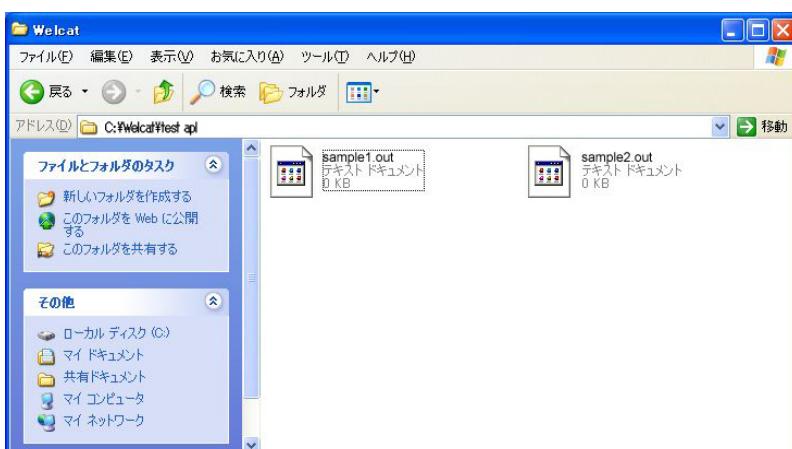


⑤ [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。

次の画面が表示された場合は [はい] をクリックします。



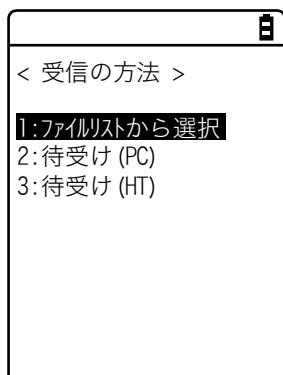
⑥BluePorter-V の送信フォルダとして設定したフォルダ（上の例では「C:\Welcat\test\_apl」）に、アプリケーションソフトの実行ファイルをコピーします。



⑦システムメニューで [4:受信] – [1:Bluetooth] を選択します。



⑧[1:ファイルリストから選択]を選択します。

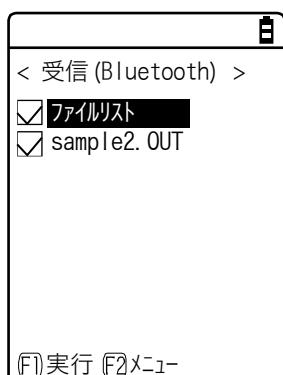


⑨本製品は自動的に BluePorter-V にログインし、ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。

【F1】キーを押すと確認メッセージボックスが表示されます。カーソルを [はい] に合わせて【ENT】キーを押すと、ダウンロードが開始され、数秒から数分で完了します。

ただし、ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。



## 3-3 赤外線（IrDA）通信環境の構築

赤外線通信でファイルを転送する場合は、次の別売機器、ソフトが必要になります。

- ・USB通信ユニット（IU-004）またはUSB通信/充電ユニット（IU-004C）
- ・USBドライバソフト（本製品マニュアルCD-ROMに同梱）
- ・転送ユーティリティソフトBluePorter-V

### 参考

本マニュアルの説明は、Windows XPの例です。他のバージョンでは、画面が異なることがあります。

### 注意

弊社製コードレススキャナセットWL7-USBをお使いのお客様で、WL7-USB専用ソフト「WL7-KEY」をお使いの場合、COMポートがオープンできないエラーが発生することがあります。WL7-KEYがVer 1.02以前の場合、COMポートが占有されてしまうためオープンできません。

この場合は弊社営業までご連絡ください。



LAN通信ユニットを使用した通信環境については、別売のBluePorter-Lのヘルプマニュアルを参照してください。

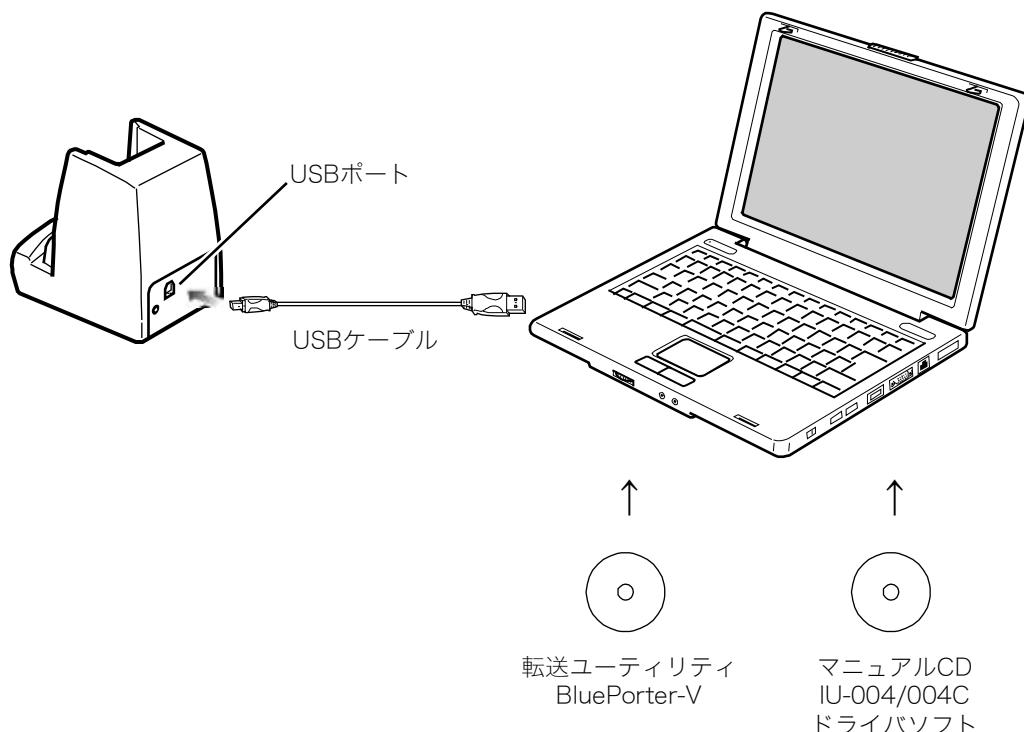
### 3-3-1 パソコン側の準備

USB通信ユニットとホストコンピュータをUSBケーブルで接続します。

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。

- ・転送ユーティリティソフト BluePorter-V
- ・IU-004/IU-004C のドライバソフト

インストールと設定の手順は、各製品のユーザーズマニュアルを参照してください。



## 3-3-2 赤外線通信 (IrDA) 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード

赤外線通信 (IrDA) 環境が整ったら、次の手順でファイルをダウンロードします。

### ■機器の準備

次の機器、ソフトを用意します。

- ・本製品
- ・転送ユーティリティ (BluePorter-V)
- ・USB 通信ユニット (IU-004/IU-004C)

### ■使用前の準備

①転送ユーティリティ BluePorter-V をパソコンにインストールします。

②USB 通信ユニットの USB ドライバをホストコンピュータにインストールします。

※USB ドライバのインストール方法は、「IU-004/004C ユーザーズマニュアル」を参照してください。

### ●設定ウィザードが起動する場合

本製品を購入後、最初の起動時には、パソコンとの Bluetooth 通信に最低限必要な設定をするための設定ウィザードが実行されます。

このウィザードは赤外線通信には、必要ありません。

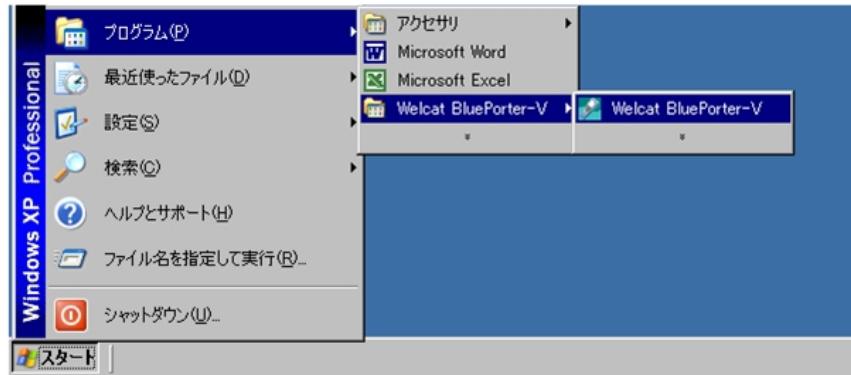
ウィザード画面で [いいえ] を選択すると、システムメニューを起動します。

Bluetooth 通信を行う場合は、「4-8-6 ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動」(P. [150](#)) を参照してウィザードを起動して設定してください。

## ■転送ユーティリティ BluePorter-V の起動

転送ユーティリティ BluePorter-V を起動します。

[スタート] メニューをクリックして [プログラム] の [Welcat BluePorter-V] をクリックします。



起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。

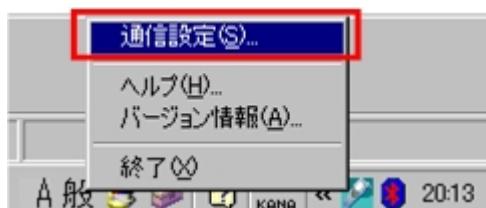
表示された「BluePorter-V」のアイコンを右クリックして、表示されるメニューの [通信設定] をクリックします。



## ■通信設定

使用する COM ポートと、送信フォルダ・受信フォルダを設定します。

①タスクトレイに表示されているアイコンを右クリックして、表示されるメニューの [通信設定] をクリックします。

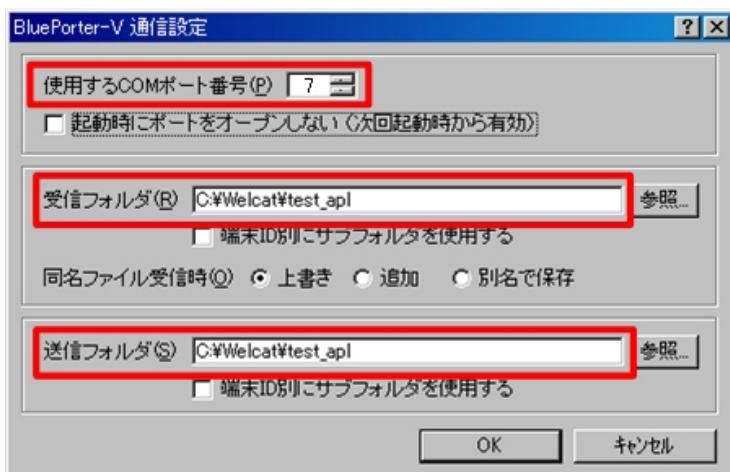


②デバイスマネージャで確認したCOMポート番号を【使用するCOMポート番号】に設定します。

COMポート番号の確認方法については、IU-004/IU-004Cのユーザーズマニュアルを参照してください。

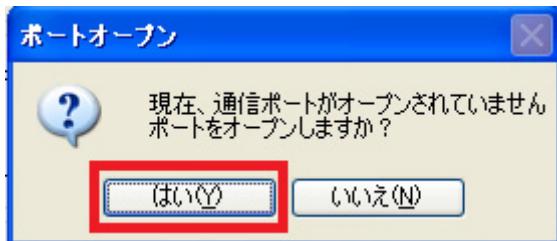
【受信フォルダ】と【送信フォルダ】には、アプリケーションソフトのファイルが存在するフォルダを指定します。

下図は、「C:\Welcat\test\_apl」フォルダにアプリケーションソフトが保存されている場合の例です。



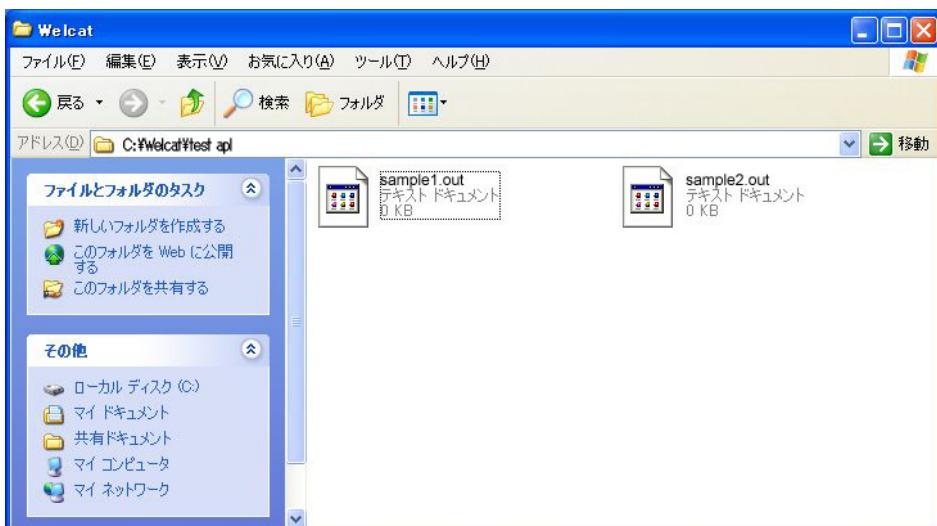
③【OK】ボタンを押してウィンドウを閉じます。

次のような画面が出た場合は【はい】をクリックしてください。



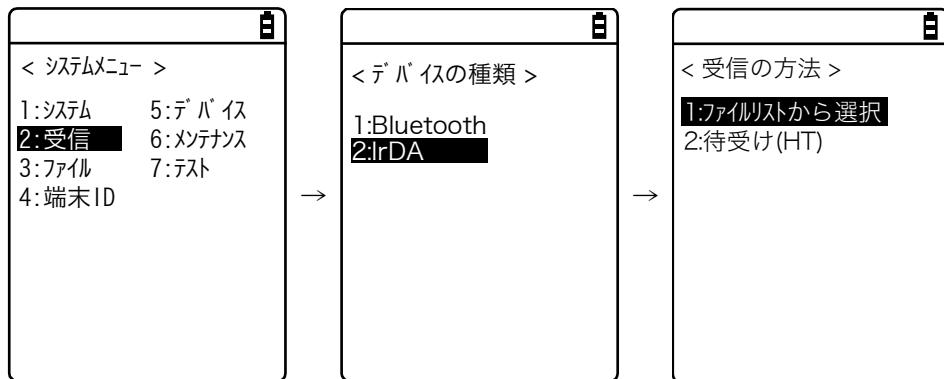
## ■ファイルのダウンロード

①BluePorter-Vの送信フォルダとして設定したフォルダ（上の例では「C:\Welcat\test\_apl」）に、アプリケーションソフトの実行ファイルをコピーします。



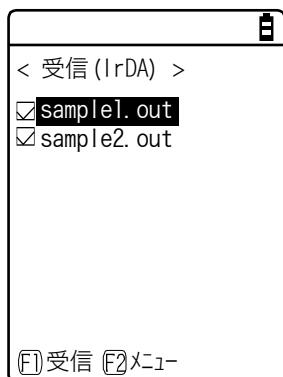
②次にシステムメニューを起動します。

システムメニューで [2:受信] – [2:IrDA] – [1:ファイルリストから選択] を選択します。



③本製品は自動的に BluePorter-V にログインし、ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。



④本製品を USB 通信ユニットにセットします。

【F1】キーを押すと [受信を開始しますか?]画面が表示されます。[はい] を選択して 【ENT】キーを押すとダウンロードが開始され、数秒から数分で完了します。

ただし、ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。

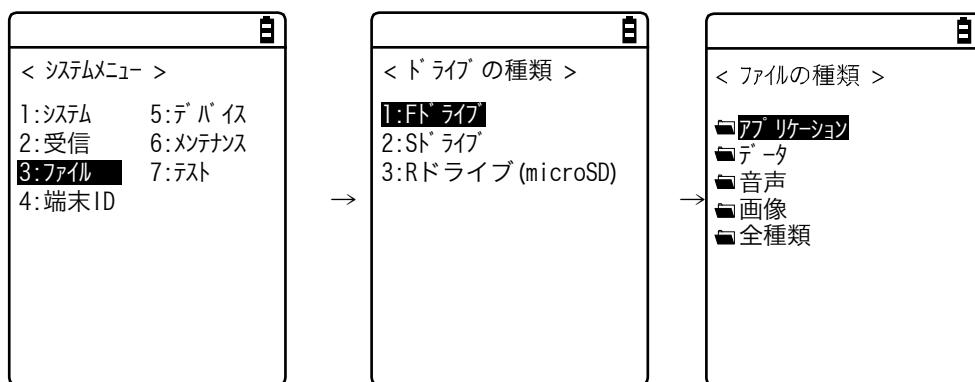
## 3-4 アプリケーションソフトの実行方法

ダウンロードしたアプリケーションソフト（拡張子=.OUT）は、本製品に受信するだけでインストールが完了し、実行する準備が整います。

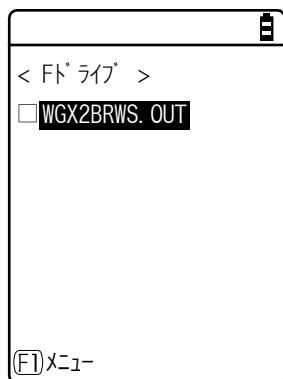
### ■ファイルリストから選択して実行

複数のアプリケーションソフトをインストール済みの場合、ファイル一覧から選択して実行することができます。

①システムメニューで [3:ファイル] –<ドライブを選択>– [1:アプリケーション] を選択します。

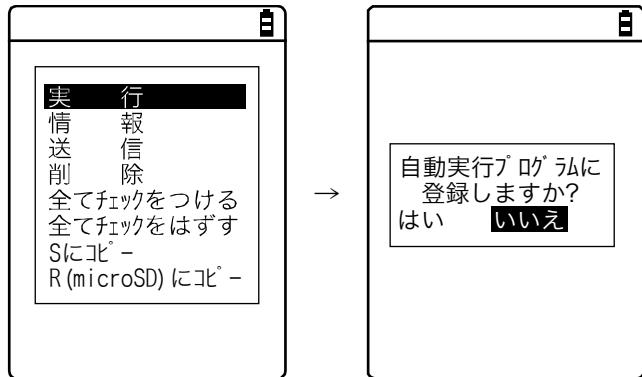


②実行するアプリケーションソフトを選択して、【F1】キーを押します。



③ポップアップしたメニューから、[実行]を選択して【ENT】キーを押します。

<ファイルの実行>画面が表示され、自動実行プログラムへの登録確認が表示されます。自動実行をする場合は【はい】、しない場合は【いいえ】を選択して【ENT】キーを押します。



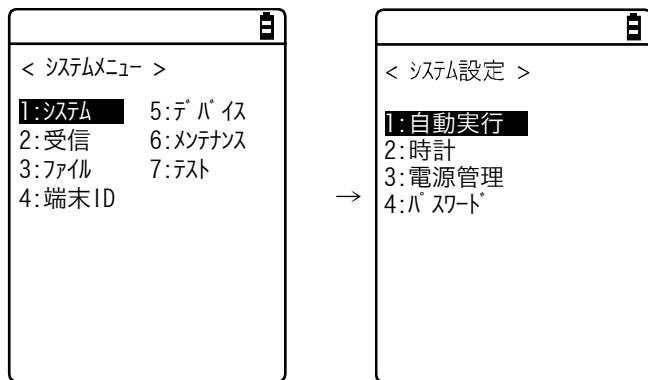
アプリケーションソフトが起動します。

それぞれのアプリケーションソフトの使い方は、アプリケーションソフトの開発元やシステム管理者が用意する操作説明書等を参照してください。アプリケーションソフトは、基本的には【PW】キーを押すことで終了しますが、アプリケーションソフトによっては異なる場合もあります。

## ■起動時に自動実行

本製品の起動時に、システムメニューを起動することなく自動的にアプリケーションソフトを実行することができます。

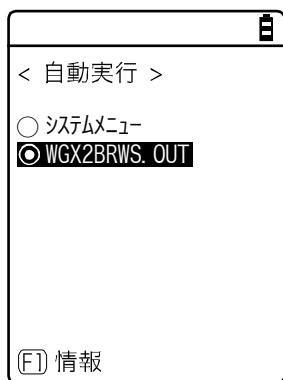
①システムメニューで [1:システム] – [1:自動実行] を選択します。



②インストール済みアプリケーションソフトの一覧から実行するファイル名を選択し、【ENT】キーを押すと<システム設定>画面に戻ります。これで自動実行ファイルの登録が完了します。

次回、電源ONすると、登録したアプリケーションソフトが起動します。

システムメニューを選択した時はシステムメニューが起動します。



# 第4章

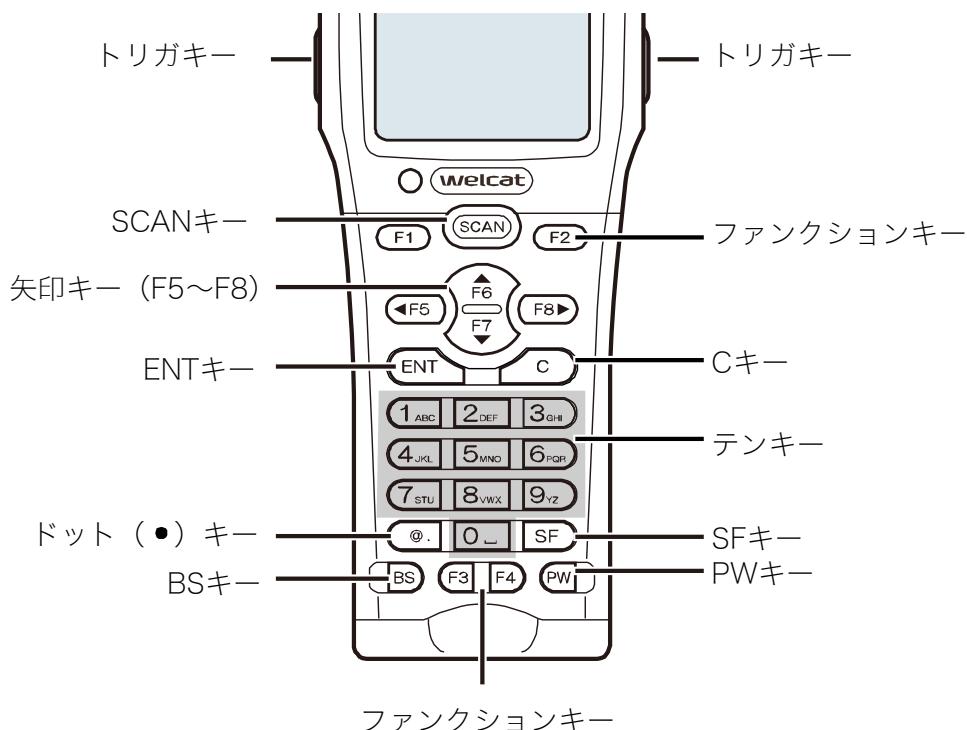
## システムメニュー

## 4-1 システムメニューの使い方

システムメニューはシステムプログラムを構成する機能の一部として、本製品の環境設定やアプリケーションソフトのプラットフォームなど、様々な機能を提供します。お客様の使用環境に合わせた設定をして頂くことで、より効率良く本製品をご使用頂けます。

### 4-1-1 操作キー

各キーの機能について説明します。



キー	機能
【SCAN】キー	バーコードを読み取ります
【ENT】キー	操作を決定します。
【C】キー	1つ前の状態に戻したり、入力した文字を消去したりします。
【BS】キー	入力した文字を1文字削除します。
【SF】キー	文字入力モードを切替えます。
【F1】～【F8】キー	機能ごとに用意されたファンクション（特殊機能）を実行します。
矢印キー	カーソル操作をします。 【◀F5】 【▲F6】 【▼F7】 【▶F8】を指定する場合、各矢印キーにF5～F8が割当てられています。ライブラリ等で使用します。

キー	機能
トリガキー	バーコードを読み取ります トリガキーには、【F9】キーと【F10】キーが割当てられています。
【PW】キー	電源をON/OFFする時に使用します。

## 参考

本書では、キー名称を【】で表記しています。

(例)【1】キー、【F2】キー、【ENT】キー

## ■キーの文字割当て一覧

キー	数字入力モード	英字入力モード
1 ABC	1	ABC
2 DEF	2	DEF
3 GHI	3	GHI
4 JKL	4	JKL
5 MNO	5	MNO
6 PQR	6	PQR
7 STU	7	STU
8 VWX	8	VWX
9 YZ	9	YZ
0 _	0	スペース
@ .	. (ドット)	* \$ - + / % : # @ &

## 4-1-2 システムメニューの起動

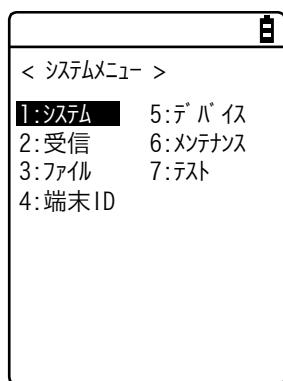
初期設定では、電源をONになるとシステムメニューが起動します。

自動実行プログラム（「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行（P. 89）参照」）にアプリケーションソフトが選択されている場合は、次の操作でシステムメニューを起動します。

① 電源がOFFの状態で、【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを1秒程度押し続けます。

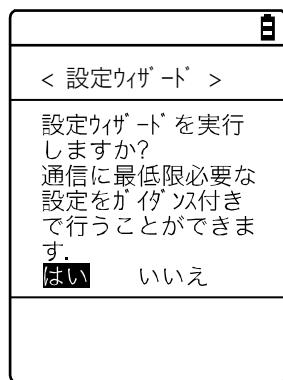
電源がONになりシステムメニューが起動します。

② オープニング画面の表示後に、システムメニューが表示されます。



## 4-1-3 初めてシステムメニューを起動する時

ご購入後、初めて本製品を起動すると、本製品とサーバ間での通信に最低限必要な設定を行うための設定ウィザードが実行されます。



- 「はい」を選択すると、Bluetooth通信の設定をするウィザードが実行されます。
- 「いいえ」を選択するとシステムメニューが起動します。

「いいえ」を選択して設定ウィザードをスキップするか、設定ウィザードを実行して最後まで設定を完了すると、次回起動時から設定ウィザードは起動しなくなります。

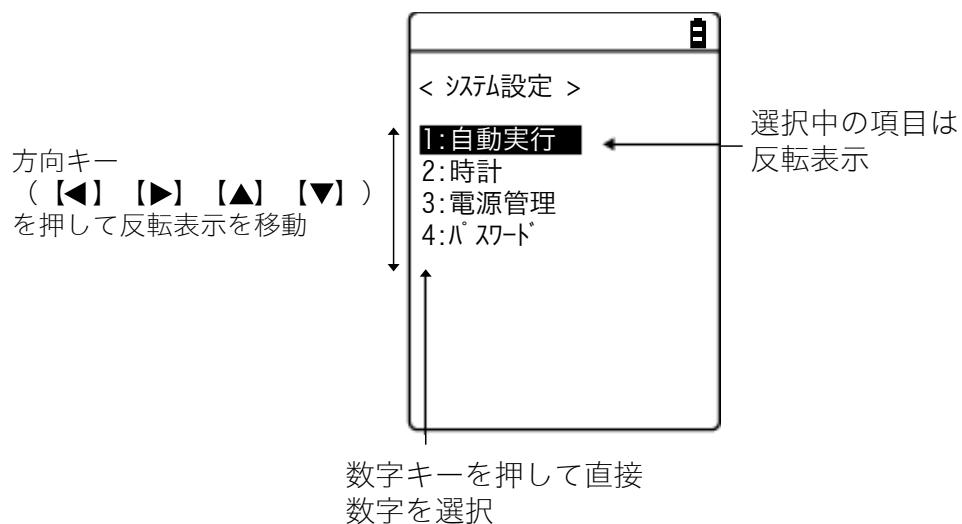


設定ウィザードの使い方は「■設定ウィザードによるBluetooth通信設定」(P.64)を参照してください。

## 4-1-4 システムメニューの操作方法

システムメニューの基本的な操作方法について説明します。

### ■設定項目の選択



### ●項目を選ぶ

選択中の項目は反転表示されます。

各項目に該当する【0】～【9】キーを押すか、矢印キー（【▲】、【▼】）キーを使用して反転表示を移動します。

### ●項目を決定する

【ENT】キーを押すと、選択中の項目を決定します。

決定後の動作は項目により異なります。

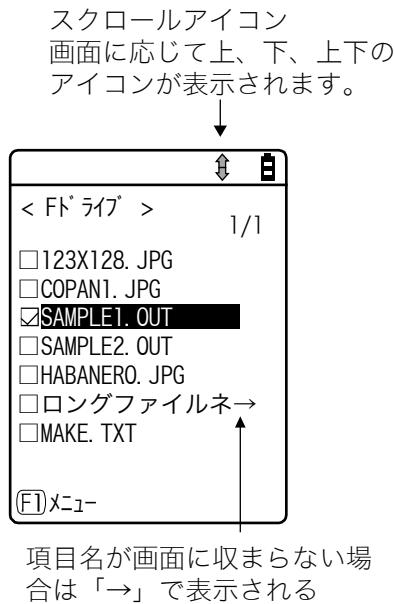
- 選択した機能を実行
- [はい] または [いいえ] の意思表示 (チェックボックス)
- サブメニューを表示

### ●選択を中止する

【C】キーを押すと1つ前の操作に戻ります。

### ●画面の表示について

メニュー項目が1画面に収まらない場合は、画面上部のステータスバーにスクロールアイコンが表示されます。また、項目名が1行に収まらない場合、項目名の最後が「→」に変換されて表示されます。



項目名が画面に収まらない場合は「→」で表示される

### ■キーでデータを入力する

テンキー、【SF】キーを使って文字を入力します。

数字、英字（大/小）、記号が入力できます。

### ●文字入力モードを切替える

【SF】キーを押すと入力モードが切替わります。<sup>※1</sup>

数字入力モード： 数字と小数点が入力できます。

ステータスバーに「1」アイコンが表示されます。

英字入力モード： 英字（大/小）や数字、記号が入力できます。

ステータスバーに「A」アイコンが表示されます。

### ●数字を入力する

【SF】キーを押して数字入力モード（カーソル：      （下線））にします。

使えるキー：【0】～【9】キー

### ●英字を入力する

【SF】キーを押して英字入力モード（カーソル：■（矩形））にします。

使えるキー：【1】～【9】キー

- 同じキーに割当てられている英字を続けて入力する場合は、【▶】キーを押してカーソルを移動させてから、次の英字を入力します。
- 【▲】/【▼】キーを押すと、カーソル位置の英字が大文字⇒小文字に変換されます。<sup>※2</sup>

### ●記号を入力する

【SF】キーを押して英字入力モード（カーソル：■（矩形））にします。

使えるキー：【0】キー

- 同じキーに割当てられている記号を続けて入力する場合は、【▶】キーを押してカーソルを移動させてから、次の記号を入力します。
- カーソルが入力したデータの末尾にある時 【▶】キーを押すと、スペースがカーソルの右側に挿入されます。<sup>※2</sup>

### ●入力したデータを確定する

【ENT】キーを押します。

### ●文字を削除する<sup>※3</sup>

- 【BS】キーを押すとカーソル位置の文字を1文字削除します。
- 【C】キーを押すと全ての文字を消去します。

### ●入力を中止する

- 文字を削除できない項目<sup>※3</sup>では、【C】キーを押すと直ちに入力を中止します。
- 文字を削除できる項目では、入力した文字を全て削除した後で【C】キーを押します。

### ●その他

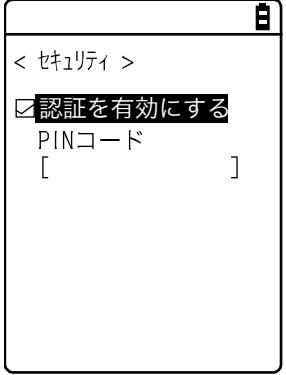
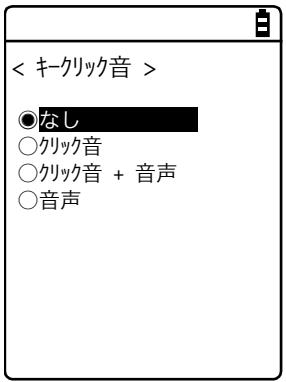
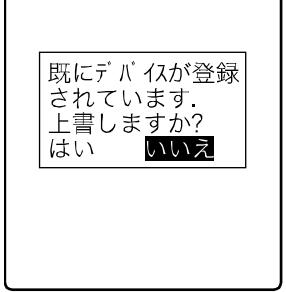
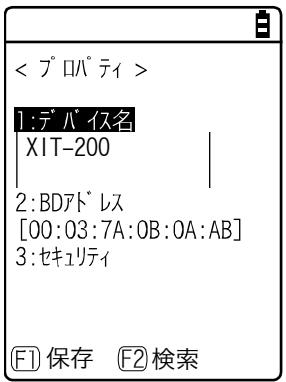
入力文字数が登録可能な文字数を超えた場合、カーソルは先頭に戻ります。

\*1 入力可能な文字種が制限されている項目（例：端末IDは数字のみ）は、入力モードを切替えられません。

\*2 項目により入力できる文字数が制限される場合があります。

\*3 入力フォーマットが固定の項目（例：ローカルBDアドレス）では文字を削除できません。本マニュアルでは入力フォーマット固定の項目に下記の削除禁止アイコンを付けて表記しています。

## ■その他の操作

1つ前の状態に戻る	【C】キー
チェックボックス	<p>項目を選択して、【ENT】キーを押すごとに選択/非選択が切替わります。</p> <p>選択されたボックスにチェックマークがつきます。</p> <p>チェックボックスは同時に複数項目を選択する場合に使用されます。</p> 
ラジオボタン	<p>項目を選択し【ENT】キーを押して選択項目を変更します。</p> <p>黒丸になっている項目が、現在有効であることを表しています。</p> <p>ラジオボタンは複数の項目から1つだけを選択する場合に使用されます。</p> 
メッセージボックス	<p>ボックス内の下部に【はい】や【いいえ】などボタンが2つ表示されている場合は、【1】または【2】キーを押すか、矢印（【▲】、【▼】、【◀】、【▶】）キーを使用してボタンを選択（反転表示）し、【ENT】キーで決定します。</p> <p>【C】キーを押すと右側のボタンが選択されることになります。</p> 
サブメニューの呼出し	<p>画面下部に【F1】または【F2】が表示されている時に、該当するキーを押すとサブメニューを表示したり、ファンクション（特殊機能）を実行したりします。</p> 

<p>スライダー</p>	<p>【▲】 【▼】 キーでスライダーを上下に移動して、【ENT】キーで設定します。</p>
<p>操作時のインジケータ変更</p>	<p>操作時に作動するインジケータ（ブザー/バイブレータ/LED）は、お客様独自の設定に変更することができます。変更方法については「4-7-5 音/バイブ：音量・LED・バイブルータの設定」（P.<a href="#">129</a>）をご覧ください。</p> <p>この設定を変更することで、お客様独自のインジケータが簡単に作成できます。</p> <p>なお、一部インジケータが適用されない操作があります。</p>

## ■バーコードでデータを入力する

各種設定や文字などをバーコードで入力することができます。

【SCAN】キーまたはトリガキーを押してレーザを照射させ、バーコードをスキャンします。

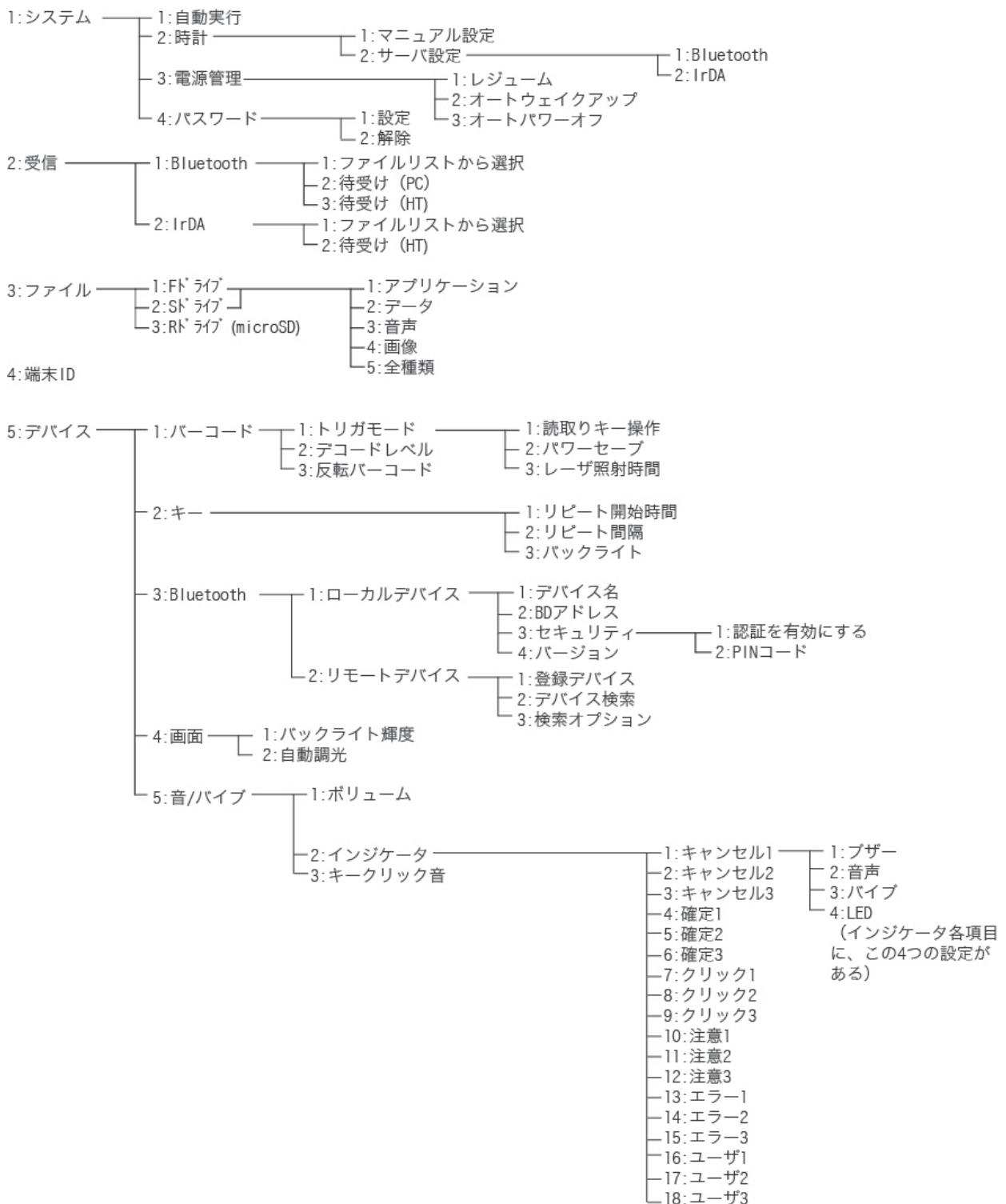
データ入力において読み取り可能なバーコードは次の通りです。

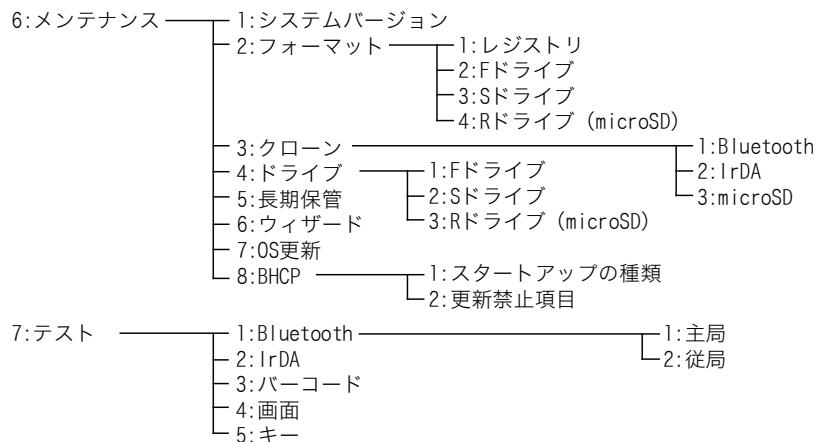
JAN-13/8、EAN-13/8、UPC-A/E、NW-7、Code39、Code93、Code128、EAN-128(GS1-128)、ITF、インダストリアル2 of5、GS1 DataBar (RSS)

レーザの照射時間はトリガモードで設定します。

## 4-2 システムメニュー一覧

システムメニューは、機能ごとに分類された階層構造になっています。





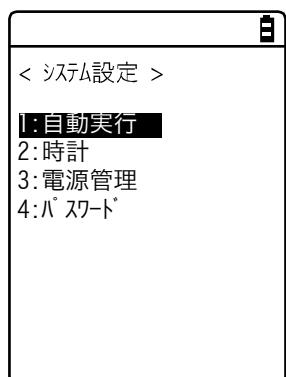
システムメニューの出荷時設定については、「付録-1 出荷時設定一覧」(P.[186](#)) を参考照してください。

## 4-3 システム：快適にご使用頂くための設定

本製品をより快適にご使用頂くための各種機能を設定します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム]



設定する項目を選択します。

- ・自動実行：アプリケーションソフトの自動実行 (P.[89](#))
- ・時計：時刻の確認 (P.[90](#))
- ・電源の管理 (P.[92](#))
- ・パスワード：パスワードの設定・解除 (P.[96](#))

## 4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行

電源をONにした時に起動するアプリケーションソフトを登録します。

出荷時設定では、システムメニューが起動します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行]

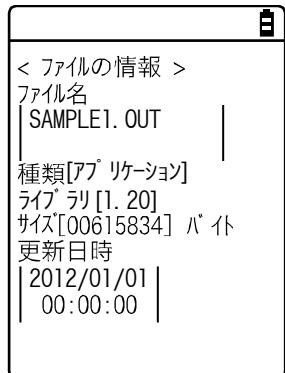
電源をONした時に起動するアプリケーションソフトを選択します。



現在インストールされているプログラムの一覧が表示されるので、目的のアプリケーションソフトを選択します。

【ENT】キーを押すと<システム設定>画面に戻ります。これで自動実行ファイルの登録が完了します。

次回、電源をONすると、登録したアプリケーションソフトが起動します。



【F1】キーを押すと選択中のアプリケーションソフトに関する情報が表示されます。

【C】キーを押すと<自動実行>画面に戻ります。

## 4-3-2 時計：時刻の設定

現在時刻の確認および時刻の設定をします。

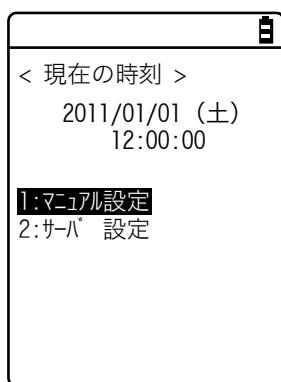
手動による設定（マニュアル設定）のほか、Bluetooth/IrDA 通信を使ってパソコンの時刻データを受信すること（サーバ設定）も可能です。

### ■現在の時刻

#### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計]

時刻をマニュアルで設定するかサーバで設定するかを選択します。



現在の時刻が表示されます。

設定する項目を選択します。

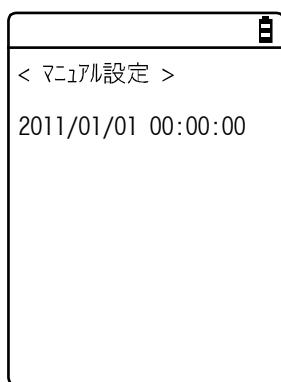
- ・マニュアル設定：マニュアルで時刻を設定
- ・サーバ設定：サーバから自動的に時刻を受信

### ■マニュアル設定：マニュアルで時刻を設定

#### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計] → [1:マニュアル設定]

時刻を設定します。



矢印キーで設定する年月日にカーソルを移動して、時刻を入力します。

【ENT】キーを押すと時刻を確定、<現在の時刻>画面へ戻ります。

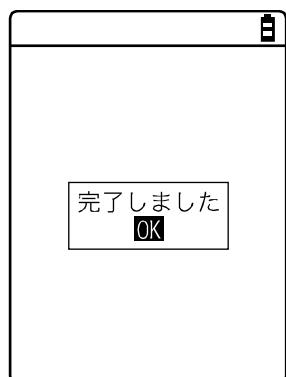
【C】キーを押すと設定を中止し、<現在の時刻>画面へ戻ります。

## ■サーバ設定：サーバから自動的に時刻を設定

ホストコンピュータのBluePorter-V を使い、時刻データを取得します。

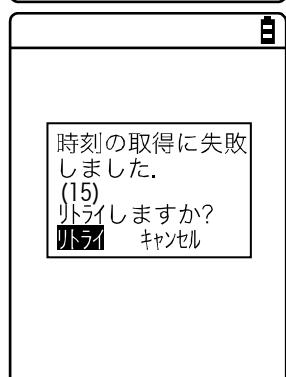
### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計] → [2:サーバ設定] →  
[1:Bluetooth] / [2:IrDA]



自動的に時刻データを受信します。

【ENT】キーを押すと、<現在の時刻>画面へ戻ります。



受信に失敗した場合、左の画面が表示されます。

- ・リトライ：再度サーバから時刻データを受信します。
  - ・キャンセル：設定を中止して<現在の時刻>画面へ戻ります。
- 失敗を繰返す場合は、システム管理者にお問合せください。

### 参考

現在時刻を設定する際は、あらかじめ次のことを確認してください。

- ・ホストコンピュータの電源が入っている
- ・ホストコンピュータで、BluePorter-V が起動している。
- ・デフォルトデバイス設定に、ホストコンピュータのBD アドレスが設定されている。

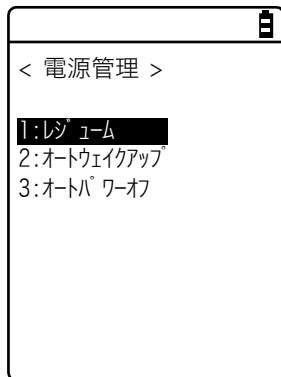
デフォルトデバイスの設定方法は、「■リモートデバイス」(P.[122](#)) を参照してください。

### 4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定

オートパワーオフなど電源 ON/OFF に関する各種の設定をします。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理]



- 設定する項目を選択します。
- ・ レジューム：電源 OFF 時の状態を保持
  - ・ オートウェイクアップ：決められた時間に起動
  - ・ オートパワーオフ：自動的に電源 OFF 時

#### ■レジューム機能：電源 OFF 時の状態を保持

レジューム機能を有効にすると、電源を OFF にしたときの状態を保存し、次回起動時にその続きから作業を継続することができます。

レジューム機能の有無により、【PW】キーを押して電源 ON したときの動作は、次のようになります。

- ・ レジューム機能有効：電源 OFF の直前に実行されていた処理から動作を再開します。
- ・ レジューム機能無効：常に最初から処理が実行されます。

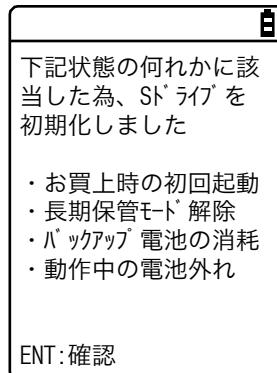
#### 参考

読み取りキーを押しながら 【PW】 キーを押して電源 ON になると、レジューム機能はキャンセルされて、システムメニューが起動します。

## 操作手順

- 動作中にバッテリーパックを外した場合、レジュームは失敗します。レジューム機能の有効・無効に関係なく、処理が最初から実行されます。次に電源をONしたとき、以下の画面が表示されます。

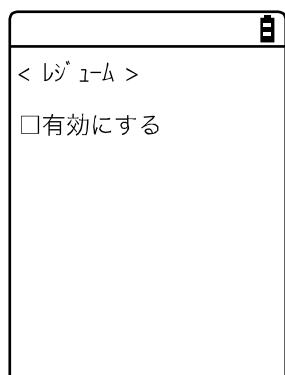
**注意**



- バックアップ用電池が消耗した場合も同じように上記の画面が表示され、処理が最初から実行されます。バックアップ電池の充電については「1-2-5 電池の残量表示とアラーム」 - 「■バックアップ用電池の充電」(P.45)を参照してください。
- レジュームの設定を有効にしても、システムメニューではレジュームは無効になります。アプリケーションソフトで動作時のみ、レジュームは有効になります。

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [1:レジューム]

レジューム機能を有効にします。



【ENT】キーを押して [有効にする] をチェックします。

## ■オートウェイクアップ：決められた時間に起動

オートウェイクアップは、あらかじめ設定したスケジュールに従って本製品を自動的に起動させる機能です。

### 注意

オートウェイクアップ機能は、【PW】キーを使って電源を OFF した場合のみ有効です。

電池交換をした直後やローバッテリーによって強制終了した後は、オートウェイクアップで起動しません。

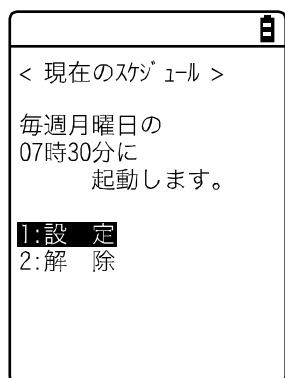
### ●スケジュールの確認

#### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [2:オートウェイクアップ]

現在設定されている起動スケジュールが表示されます。

設定する項目を選択します。



次の項目から選択します。

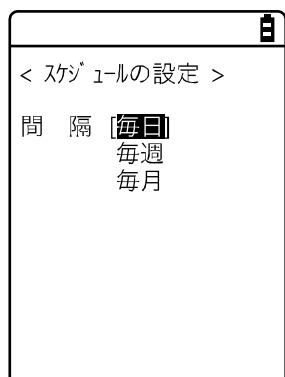
- ・設定：スケジュールの設定
- ・解除：スケジュールの解除

### ●設定：スケジュールの設定

#### 操作手順

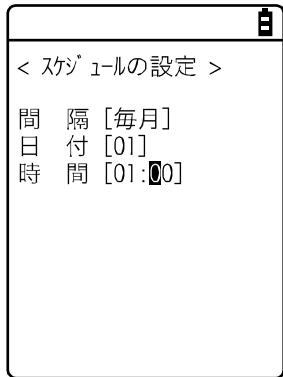
[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [2:オートウェイクアップ]  
→ [1:設定]

オートウェイクアップのスケジュールを設定します。



スケジュールの発生間隔を選択します。

毎日（時刻指定）、毎週（曜日と時刻指定）、毎月（日にちと時刻指定）から選択できます。日にちは「01」～「31」で、時間は 24 時間形式で設定します。設定が完了するとスケジュールの確認へ戻ります。



24時間形式で時分（00：00～23：59）を入力します。

以上で設定は完了です。

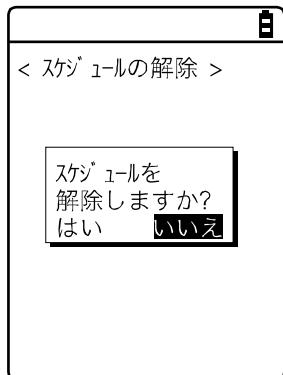
【ENT】キーを押すと＜現在のスケジュール＞画面へ戻り、設定は完了です。

### ●解除：スケジュールの解除

#### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [2:オートウェイクアップ] → [2:解除]

設定されているオートウェイクアップスケジュールを解除します。



確認用ダイアログで「はい」を選択します。

設定されているスケジュールが消去されます。

「いいえ」を選択すると解除を中止します。

### ■オートパワーオフ：自動的に電源 OFF

オートパワーオフとは一定時間何も操作されなかった場合に、自動的に電源を OFF にする機能です。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [3:オートパワーオフ]

自動的に電源が OFF するまでの時間を設定します。



設定可能な時間は 0060 秒～3600 秒です。

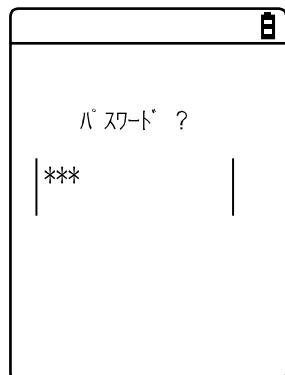
なお、0000 秒に設定するとオートパワーオフは無効になります。

【ENT】キーを押すと、設定は完了します。

【F1】キーを押すと、設定値に関するガイダンスが表示されます。

## 4-3-4 パスワード：パスワードの設定・解除

システムメニューを不用意に起動させないためにパスワードを設定します。パスワードを設定すれば、パスワードを入力しない限り、管理者以外の第三者が設定内容を確認したり変更したりできないようになります。



パスワードが設定されると、システムメニュー起動時にパスワードチェックを実施します。正しいパスワードが入力されない限り、システムメニューは起動しません。

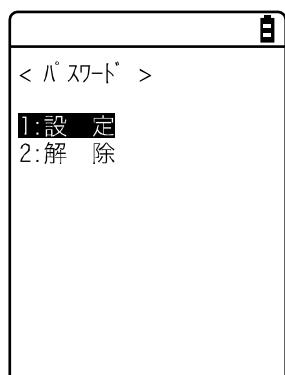
### 注意

パスワードは忘れないようにメモを取って保管してください。万一忘れてしまった場合に手順は、弊社 CS センターにお問合せください。

### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [4:パスワード]

パスワードを設定するか解除するかを選択します。



次の項目から選択します。

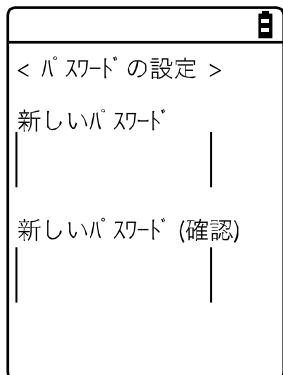
- 設定
- 解除

## ■設定：パスワードの設定

### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [4:パスワード] → [1:設定]

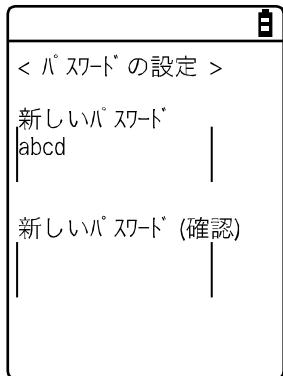
- ① 新しいパスワードを入力します。



パスワードは4文字～30文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

新しいパスワードを入力したら、【ENT】キーを押します。

- ② 確認のため、もう一度パスワードを入力します。



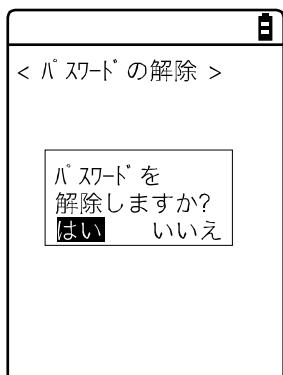
入力後、【ENT】キーを押します。

## ■解除：パスワードの解除

### 操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [4:パスワード] → [2:解除]

- パスワードを解除します。



[はい] を選択するとパスワードが解除され、設定されていたパスワードが消去されます。

[いいえ] を選択すると解除を中止します。

## 4-4 受信：ファイルの受信

### 4-4-1 受信：Bluetooth/赤外線 (IrDA) 通信でファイルを受信

受信の際は、あらかじめ次のことを確認してください（受信したファイルは全て F ドライブに保存されます）。

#### ●Bluetooth 通信を使用する場合

- ・パソコンの電源が入っている
- ・パソコンに Bluetooth 通信アダプタが正しく挿入されている
- ・BluePorter-V (WLF-003：別売) が起動している
- ・BluetoothManager を ON にし、パソコンのタスクトレイに表示されている BluetoothManager のアイコンが白になっている



- ・本製品のデフォルトデバイスとして、送信側のパソコンが登録されている  
（「4-7-3 Bluetooth : Bluetooth の登録設定」(P. [120](#)) 参照）

#### ●赤外線 (IrDA) 通信を使用する場合

受信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。

##### ■送信側がパソコンの場合

- ・パソコンの電源が入っている
- ・パソコンで「BluePorter-V」(WLF-003：別売) が起動している
- ・本製品を USB 通信ユニットにセットし、赤外線通信を有効にする（「3-3 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P. [68](#)) 参照）。

##### ■送信側が XIT-2xx シリーズの場合

- ・「待受け (HT)」で送信可能にする
- ・「3-3 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P. [68](#)) の本体間通信を参照して通信する

#### 注意

ファイル受信中はバッテリーカバーが外れないように注意してください。万一、バッテリーカバーが外れて警告表示が出た場合は、電源を入れ直してから受信し直してください。

## 操作手順

[システムメニュー] → [2:受信]

受信のための通信手段を選択します。



受信方法を選択します。

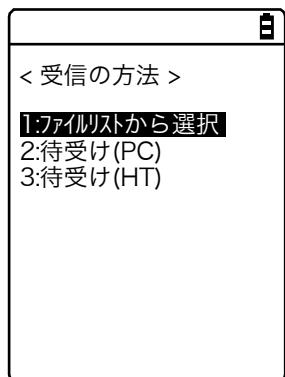
- Bluetooth
- IrDA

## ■ファイルの受信 (Bluetooth/IrDA)

### 操作手順

[システムメニュー] → [2:受信] → [1:Bluetooth] / [2:IrDA]

① 受信方法を選択します。

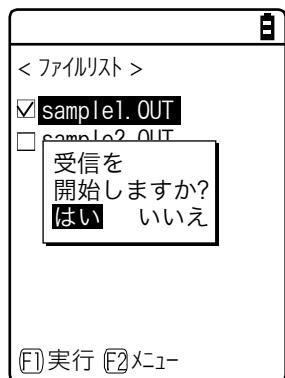


「1:ファイルリストから選択」を選択すると、送信側からファイルリストを取得します。受信側はそのリストから受信したいファイルを選択することができます。→手順②

「2:待受け (PC)」「3:待受け (HT)」を選択すると直ちに受信待機状態になります。送信側がパソコンなら「2:待受け (PC)」を、XIT-2xx なら「3:待受け (HT)」を選択します。受信するファイルは送信側に依存します。→手順③

※「待受け (PC)」は、Bluetooth 通信により、BluePorter でご使用頂ける機能です。BluePorter-V をご使用のユーザは使用できません。

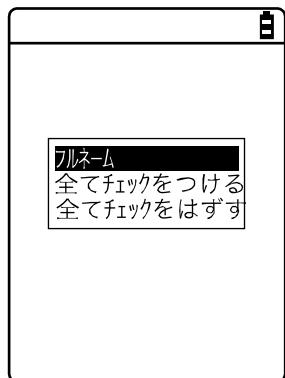
②受信するファイルを選択します。



受信するファイルをチェックして、[F1] キーを押します。

受信確認ダイアログが表示されます。チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルを受信します。

[はい] / [いいえ] を選択します。

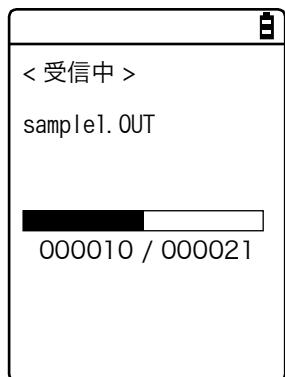


【F2】キーを押すとファイルリストを操作するためのサブメニューが表示されます。

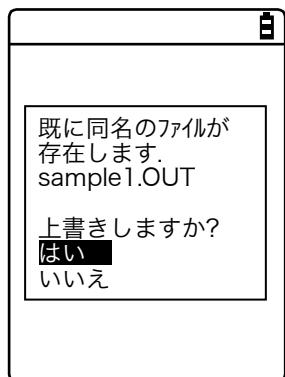
必要に応じて設定します。

- ・フルネーム  
選択中のファイル名の全体を表示します。
- ・全てチェックをつける  
ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
- ・全てチェックをはずす  
ファイルリストのチェックボックスから全てチェックを外します。

#### ③ 受信が開始されます。



受信状況が画面に表示されます。



受信するファイルと同じファイル名が存在する場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

#### ④ 受信を完了します。



受信が完了すると、メッセージボックス内に「(受信成功数/チェック数)」が表示されます。

【ENT】キーを押します。

## 4-5 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など

目的のファイルを探し、実行、送信、削除などの各種操作ができます。

各ドライブのファイル種類ごとに分類されたリストから、操作するファイルを選択します。ファイルの種類は拡張子（ファイル名のピリオドに続く3文字）により決定され、次のように分類されます。

ファイルの種類	拡張子
アプリケーションソフト	OUT
画像データ	BMP、JPG、JPEG、PNG
音声データ	WAV、SFL
データ	それ以外

可能な操作は次の通りです。特定のファイルの種類に関連付けられた操作と、全てのファイルで有効な操作があります。

操作	説明
実行 <sup>※1</sup>	アプリケーションソフトを起動します。ファイルの種類が「アプリケーション」のファイルのみ操作可能です。
閲覧 <sup>※2</sup>	画像データを表示します。
再生 <sup>※3</sup>	音声ファイルを再生します。ファイルの種類が『音声』のファイルのみ操作可能です。
情報	ファイルに関する各種情報を表示します。
送信	ファイルを送信します。
削除	ファイルを削除します。
全てチェックをつける	ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
全てチェックをはずす	ファイルリストのチェックボックスから全てチェックを外します。
Fにコピー	Fドライブにコピーします。
Sにコピー	Sドライブにコピーします。
R(microSD)にコピー	Rドライブ(microSD)にコピーします。

<sup>※1</sup> Sドライブのファイルは操作できません。

\*<sup>2</sup> サポートする画像データは次の通りです。

フォーマット	BMP、JPG、JPEG、PNG
サイズ	最大 240×296 ピクセル (表示エリア：240×296ピクセル)

\*<sup>3</sup> サポートする音声データは次の通りです。

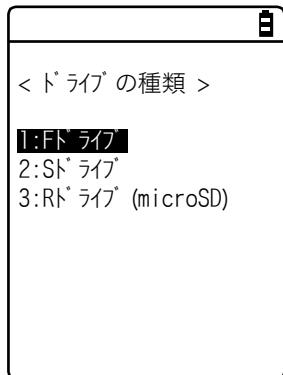
拡張子	WAV
フォーマット	Windows 標準 WAVE フォーマット
オーディオサンプリングレート	8000/11025/16000/22050/44100/48000 [Hz]
チャンネル	モノラル
オーディオサンプルサイズ	16bit
オーディオ形式	PCM

拡張子	SFL
フォーマット	音声ファイルリスト（テキスト形式）
最大列挙数	32
解説	<p>SFL ファイルを使用すると、複数の音声ファイルを連続で再生することができます。</p> <p>ファイルリストにはファイル名を改行区切りで列挙していきます。 最大で 32 個までファイル名を列挙することができます。</p> <p>列挙した音声ファイルは事前に本体に格納されていなければなりません。</p> <p>ファイルリスト内に書かれているファイル名は全て一回のみ再生します。</p> <p>再生途中でエラーが発生した場合は、以降の音声ファイルの再生を行いません。</p> <p>SFL ファイル内に他の SFL ファイルを列挙することはできません。</p>
記述例	ALARM_MELODY.WAV (改行) LOCATION_3F_2.WAV (改行) SHIP_ERROR.WAV

## 操作手順

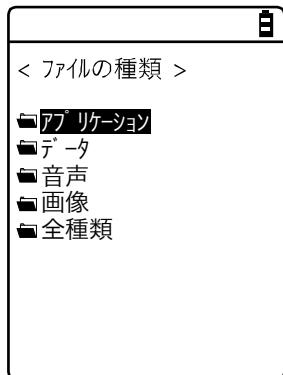
[システムメニュー] → [3:ファイル]

- ① ドライブを選択します。



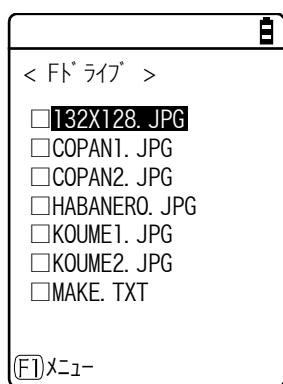
操作対象のドライブを選択します。

- ② ファイルの種類を選択します (R ドライブ以外の場合)。



操作対象のファイルの種類を選択します。「全種類」を選択すると、ファイルの種類に関係なく、ドライブに保存されている全ファイルが対象となります。

- ③ 操作するファイルをチェックします。



ファイルを選択して【ENT】キーを押すと、チェックボックスのチェックをつけたり外したりすることができます。

チェックされたファイルが対象になる操作と、選択されたファイルが対象になる操作があります。

## ④ ファイルを操作します。



(F ドライブ選択時の  
表示画面です)

【F1】キーを押すと、ファイル操作のサブメニューが表示されます。

(注) 選択するファイルにより、以下のサブメニューの項目は異なります。

- ・実行：アプリケーションソフトを実行します。
- ・再生：音声データを再生します。
- ・閲覧：画像データを表示します。
- ・情報：ファイル詳細情報を表示します。
- ・送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信します。
- ・削除：ファイルを削除します。
- ・全てチェックをつける：全てのファイルを選択します。
- ・全てチェックをはずす：全てのファイルの選択を外します。
- ・S にコピー：S ドライブにコピーします。
- ・R(microSD)にコピー：R ドライブにコピーします。

**注意**

選択したドライブにより、コピーできるドライブの表示が異なります。選択したドライブにコピーすることはできません。

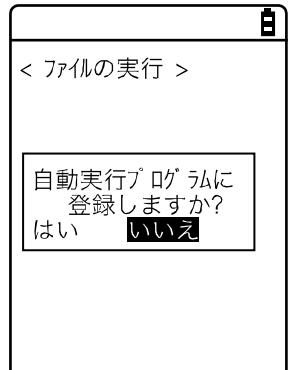
## ■実行：アプリケーションソフトの実行



### 操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → [アプリケーション] → アプリケーションを選択 → [F1 メニュー] → [実行]

選択したファイルを実行します。



選択中（反転表示）のファイルが実行されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

【ENT】キーを押すと実行されます。

実行するアプリケーションソフトが自動実行に登録されていない場合、登録を確認するダイアログが表示されます。

実行されたアプリケーションソフトを終了するには、アプリケーションソフトごとに定められた操作を行ってください。終了後にシステムメニューが再度表示されるか、本体の電源を OFF にするかはアプリケーションソフトに依存します。

動作中にバッテリーパック残量がなくなった時は、アラーム表示後に本体の電源が OFF になります。

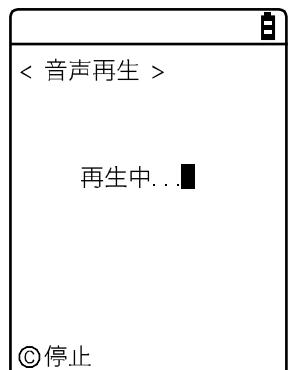
アプリケーションソフトを強制的に終了したい場合は、アプリケーションソフトの動作中に 【PW】 キーを 10 秒間押し続けてください。

## ■再生：音声データの再生

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → [音声] → ファイルを選択 → [F1 メニュー] → [再生]

音声データを再生します。



選択中の音声ファイルが再生されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

【C】キーを押すと再生を中止します。

## ■閲覧：画像データの表示

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → ドライブを選択 → [画像] → [F1 メニュー] → [閲覧]

画像データを表示して確認します。



選択中（反転表示）のファイルの画像が表示されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

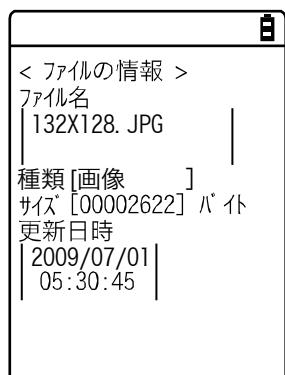
いずれかのキーを押すと「ファイル操作メニュー」に戻ります。

## ■情報：ファイル詳細情報を表示

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [情報]

ファイルの詳細な情報を確認します。



次の情報が表示されます。

- ・ ファイル名
- ・ ファイル種類
- ・ サイズ
- ・ 更新日時

選択中（反転表示）のファイルに関する情報が表示されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

何かキーを押すと<ファイル>画面に戻ります。

**■送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信**

送信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。

**●Bluetooth通信を使用する場合**

- パソコンの電源が入っている
- パソコンにBluetooth通信アダプタが正しく挿入されている
- BluePorter-Vが起動している
- BluetoothManagerをONにし、パソコンのタスクトレイに表示されている
- BluetoothManagerのアイコンが白になっている



- 本製品のデフォルトデバイスとして、送信側のパソコンが登録されている

**●赤外線（IrDA）通信を使用する場合****■送信側がパソコンの場合**

- パソコンの電源を入れます。
- パソコンで「BluePorter-V」（WLF-003：別売）を起動します。
- 本製品をUSB通信ユニットにセットし、赤外線通信の準備をします。

**■送信側がXIT-2xxシリーズの場合**

- 「待受け（HT）」で送信可能になります。  
(BluePorter-Vの設定については『ファイル転送ユーティリティ BluePorter-V 運用ガイド』の「3-2 BluePorter-Vの設定」を参照)

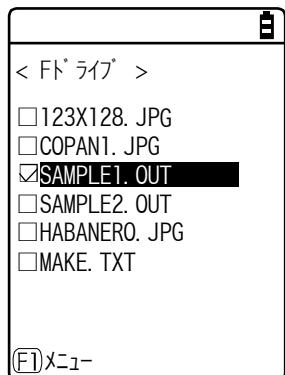
**注意**

ファイル送信中はバッテリーカバーが外れないように注意してください。万一、バッテリーカバーが外れて警告表示が出た場合は、電源を入れ直してから送信し直してください。

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → ドライブを選択→ファイルの種類を選択→ [F1 メニュー] → [送信]

① チェックされているファイルが送信されます。

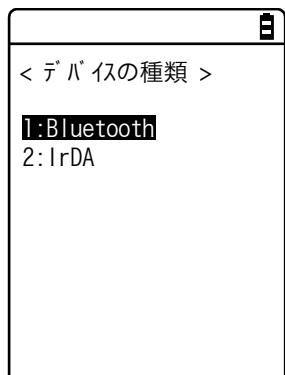


送信するファイルを選択して、チェックします。

チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルが送信されます。

[F1] キーを押して、[送信] を選択して [ENT] キーを押します。

② 送信方式を選択します。



送信方式を選択します。

- Bluetooth
- IrDA

③ 送信が開始されます。



送信状況が画面に表示されます。

④ 送信を完了します。



送信が完了すると、メッセージボックス内に「(送信成功数/チェック数)」が表示されます。

【ENT】キーを押します。

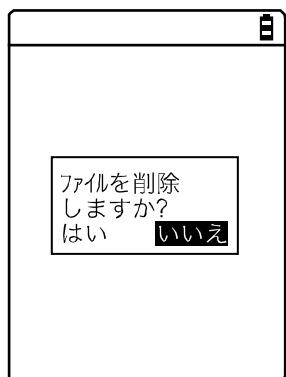
## ■削除：ファイルを削除

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [削除]

チェックされているファイルを削除します。

ただし、チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中（反転表示）のファイルが削除されます。



確認ダイアログが表示されます。

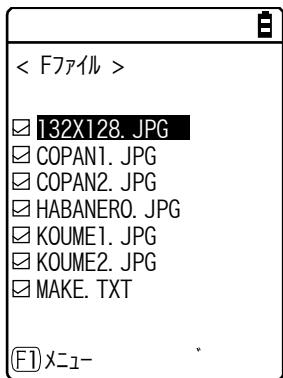
[はい] / [いいえ] を選択します。

## ■全てチェックをつける：全てのファイルを選択

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → ドライブを選択→ファイルの種類を選択→  
[F1 メニュー] → [全てチェックをつける]

全てのチェックボックスがチェックされます。

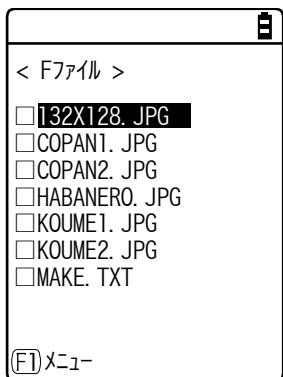


## ■全てチェックをはずす：全てのファイルの選択を外す

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → ドライブを選択→ファイルの種類を選択→  
[F1 メニュー] → [全てチェックをはずす]

全てのチェックボックスのチェックを外します。

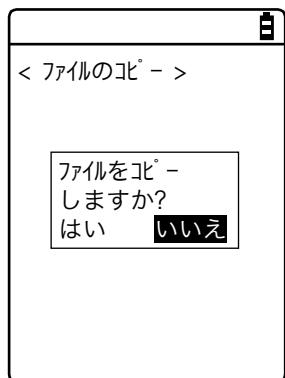


## ■指定したドライブにコピー

### 操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → コピー先のドライブを選択

指定したドライブにコピーします。



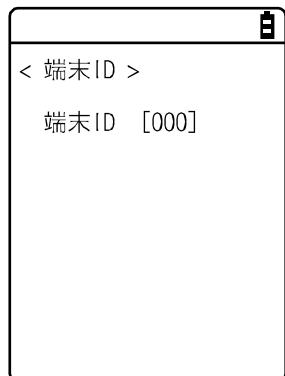
## 4-6 端末 ID：端末識別用 ID を設定

個々の本製品に識別用の ID 番号を設定します。端末ごとに固有の番号を設定してください。

### 操作手順

[システムメニュー] → [4:端末 ID]

端末固有の識別 ID 番号を設定します。



入力可能な ID は 000～999 です。

< 端末ID >

端末ID [000]

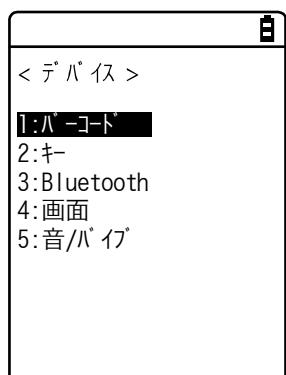
## 4-7 デバイス：ハードウェアの機能を設定

バーコードスキャナやキーなどのハードウェアデバイスを設定します。デバイスカテゴリ内は、デバイスの種類ごとに分類されています。

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス]

設定するハードウェアデバイスを選択します。



設定する項目を選択します。

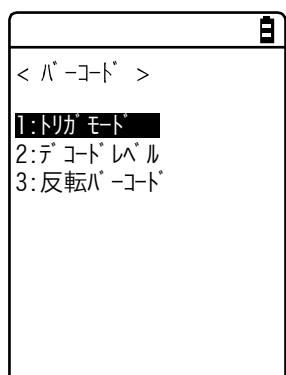
- ・バーコード：バーコードスキャナの設定 (P.[113](#))
- ・キー：キーの動作設定 (P.[118](#))
- ・Bluetooth：Bluetooth の登録設定 (P.[120](#))
- ・画面：バックライトの輝度 (P.[128](#))
- ・音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定 (P.[129](#))

### 4-7-1 バーコード：バーコードスキャナの設定

#### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [1:バーコード]

設定するバーコードスキャナの機能を選択します。



次の項目から選択します。

- ・トリガモード：レーザスキャナのレーザ照射時間の設定
- ・デコードレベル：バーコードの読み取り許容範囲の設定
- ・反転バーコード：白黒反転バーコードの読み取り設定

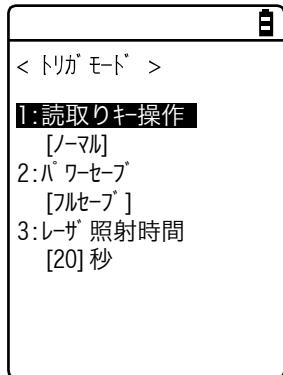
## ■トリガモード

レーザスキヤナのレーザ照射時間を設定します。

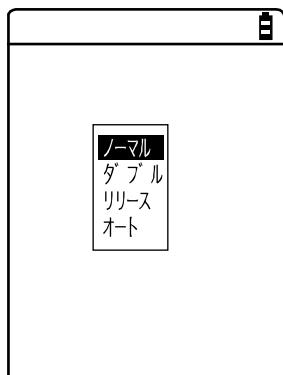
この設定は、バーコードの読み取りに「トリガモード」を使用しているアプリケーションソフトでのみ有効です。

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [1:バーコード] → [1:トリガモード]



① [読み取りキー操作] を選択します。



読み取りキーの操作とレーザの照射パターンを設定します。バーコードはレーザが照射（点灯）されている状態で読み取ることができます。

- ・ノーマル

読み取りキーを押すとレーザが照射します。

- ・ダブル

読み取りキーを押すとレーザが点滅します。もう一度押すとレーザが照射します。

- ・リリース

読み取りキーを押すとレーザが点滅し、読み取りキーを離すとレーザが照射します。

- ・オート

読み取りキーの操作に関係なく自動的にレーザを照射します。

② [パワーセーブ] を選択します。



・フルセーブ

バーコードを読取るとレーザを自動的に消し、スキャナ部への電源の供給も停止します。消費電力は小さくなりますが、次の読み取りまでに時間がかかります。

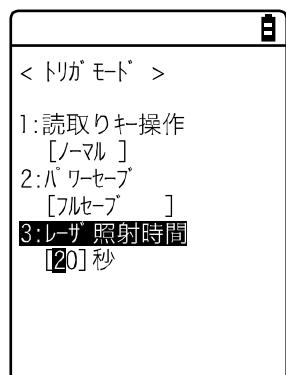
・クイックセーブ

バーコードを読取るとレーザを自動的に消しますが、スキャナ部へは電源を供給し続けます。フルセーブに比べて消費電力は若干大きくなっていますが、次の読み取りまではスムーズに行えます。

・ノーセーブ

パワーセーブモードを使用しません。

③ [レーザ照射時間] を選択します。



## ■デコードレベル

バーコードの読み取許容範囲を設定します。

デコードレベル値を上げると、品質の悪いバーコードが読みにくくなりますが、誤読を防ぐことができます。

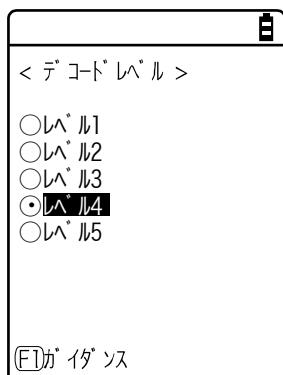
デコードレベル値を下げるとき、品質の悪いバーコードも読めるようになりますが、誤読する可能性が高くなります。

### 注意

デコードレベル値をレベル3以下に設定する場合は、必ずチェックデジットのチェックや、桁数チェック、データチェック等のソフトウェア上のチェックをするようにして下さい。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [1:バーコード] → [2:デコードレベル]

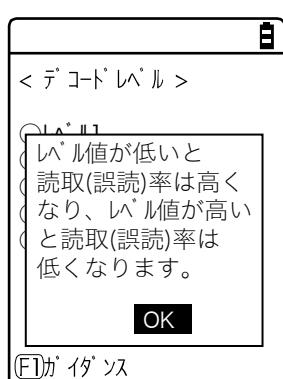


「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」、「レベル4」、「レベル5」から選択します。

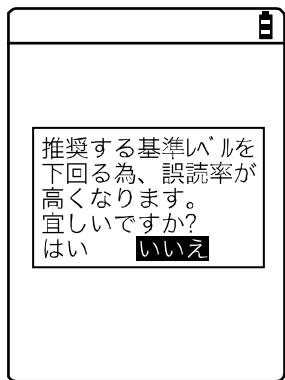
出荷時の設定は、レベル4となります。

レベル値と読み取（誤読）率の関係は次の通りです。

レベル値	読み取（誤読）率
レベル1	緩い（誤読しやすい）
レベル2	
レベル3	
レベル4	
レベル5	厳しい（誤読しにくい）



【F1】キーを押すと設定値に関するガイダンスが表示されます。



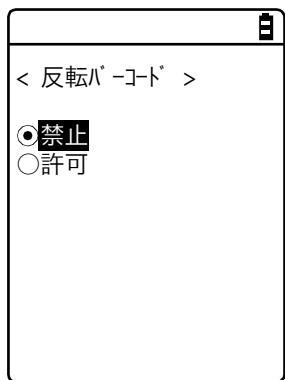
レベル1～レベル3のいずれかを設定しようとした場合、誤読に関する注意ガイダンスが表示されます。

[はい] または [いいえ] を選択します。

## ■反転バーコード

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [1:バーコード] → [3:反転バーコード]



反転バーコードの読み取り設定をします。

・禁止

バーが黒、スペースが白のバーコードを読み取ります。

・許可

バーとスペースの白黒が反転したバーコードを読み取ります。

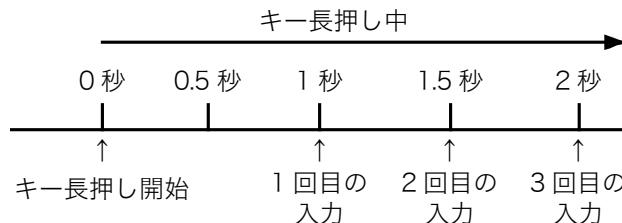
## 4-7-2 キー

### ■キーリピートの設定

方向（【↑】【↓】【←】【→】）キーを長押しすると、押されている間その方向キーを繰返し入力することができます。

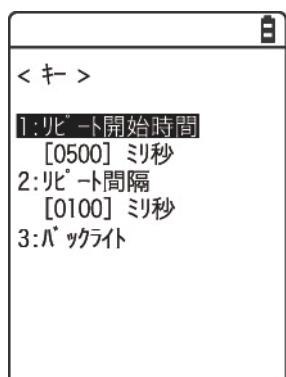
ここでは長押し開始から最初に繰返し入力が発生するまでの時間（リピート開始時間）と、以降繰返し入力が発生するまでの時間（リピート間隔）を設定します。

（例）リピート開始時間を1秒、リピート間隔を500ミリ秒に設定した場合



### 操作手順

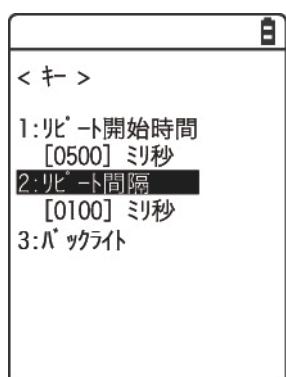
[システムメニュー] → [5:デバイス] → [2:キー] → [1:リピート開始時間]



設定可能な時間は 0100～1000 ミリ秒です。

0000 ミリ秒に設定すると繰返し入力は禁止されます。

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:キー] → [2:リピート間隔]



設定可能な時間は 0100～1000 ミリ秒です。

0000 ミリ秒に設定すると繰返し入力は禁止されます。

## ■キーバックライトの設定

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:キー] → [3:バックライト]



キーバックライトの設定をします。

- ・自動  
周囲の明るさに応じてキーバックライトを点灯します。
- ・無効  
キーバックライトを点灯しません。

## 4-7-3 Bluetooth : Bluetooth の登録設定

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth]

設定対象を選択します。



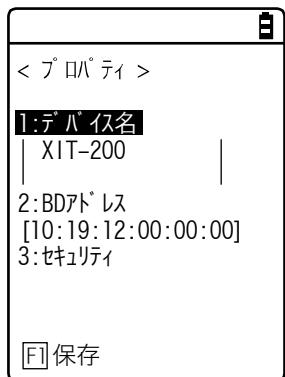
- ・ローカルデバイス：本製品の設定
- ・リモートデバイス：本製品と接続するデバイスの設定

### ■ローカルデバイス

本製品のBDアドレスを表示します。

### 操作手順

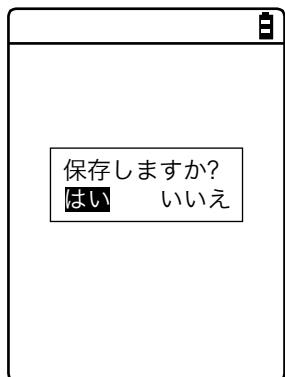
[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth] → [1:ローカルデバイス]



次の内容を設定します。

- ・デバイス名
- ・セキュリティ

「BDアドレス」は固定のため、設定内容を変更できません。

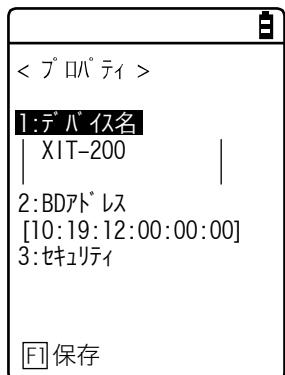


各項目で設定した内容はそのままでは保存されません。設定内容を保存するには、本画面で【F1】キーまたは【C】キーを押し、確認ダイアログで「はい」を選択します。

## 参考

ローカルデバイスの設定中のみ、リモートデバイスからの検索を受けます。それ以外では検索を受けません。

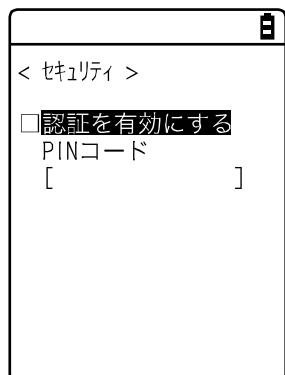
- ① [デバイス名] を選択します。



Bluetooth デバイスの名前を入力します。

デバイス名は最大 30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

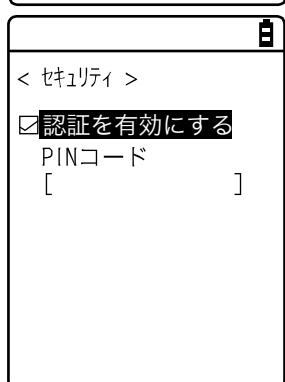
- ② [セキュリティ] を選択します。



接続時の認証に関する設定をします。

チェックボックスをチェックすると、ローカルデバイスがリモートデバイスから接続要求を受けた場合に認証を行います。

認証できたリモートデバイスだけが接続を許可されます。



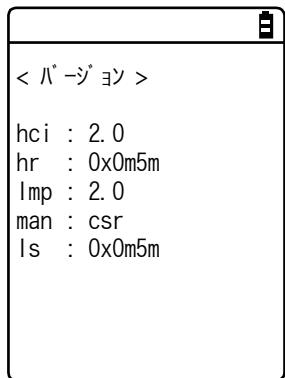
PIN コードを設定します。

PIN (Personal Identification Number) コードは認証の際に使用するパスワードです。

大小英文字、数字、記号で最大 16 桁まで入力可能です。

セキュリティ対策として、入力した PIN コードは伏字 (\*) に変換されて表示されます。

③ [バージョン] を選択します。



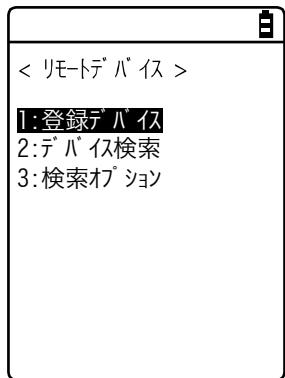
内蔵されている Bluetooth デバイスのファームウェアバージョンを確認します。

## ■リモートデバイス

本製品と接続するデバイス（リモートデバイス）に関する設定をします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]



- ・登録デバイス：リモートデバイス情報の登録
- ・デバイス検索：周辺のリモートデバイスを検索
- ・検索オプション：デバイス検索で検索するデバイスの台数設定

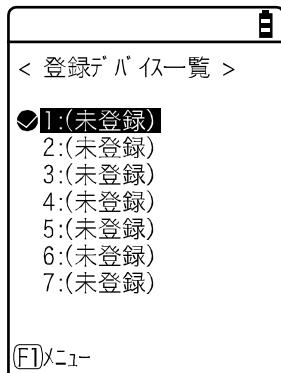
### ●登録デバイス

接続先のリモートデバイス情報を最大7件まで登録できます。あらかじめ登録しておけば、接続のたびにデバイス情報を設定する必要はありません。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]  
→ [1:登録デバイス]

① 登録する項目番号を選択します。



項目番号を選択し、デバイス情報を順次設定します。

デバイス情報が登録済みの場合は項目番号の右側にデバイス名が表示されます。未登録の場合は項目番号の右側に「(未登録)」と表示されます（デバイス名が1文字以上で、かつBDアドレスが「00:00:00:00:00:00」以外の場合に登録済みとして認識されます）。

項目番号の左側にチェックマークが表示されているデバイスはデフォルトデバイスです。システムメニューではBluetoothと接続する場合、デフォルトデバイスに接続します。

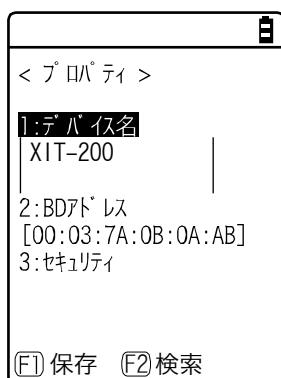


【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて次の設定をします。

- ・デフォルトに設定  
選択中の登録デバイスをデフォルトデバイスに設定します。
- ・登録抹消  
登録したデバイス情報を消去します。

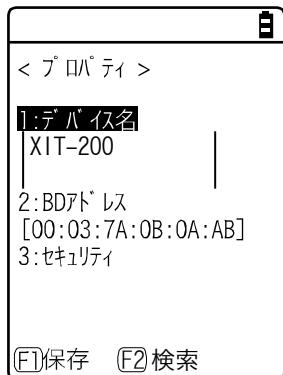
② 設定する項目を選択します。



次の項目を設定し、【F1】キーを押して[はい]を選択すると設定が保存されます。

- ・デバイス名
- ・BDアドレス
- ・セキュリティ

- ③ [デバイス名] を選択します。

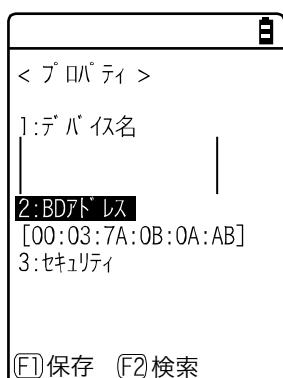


Bluetooth デバイスの名前を入力します。

項目を設定し、[F1] キーを押して [はい] を選択すると設定が保存されます。

デバイス名は最大 30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

- ④ [BD アドレス] を選択します。



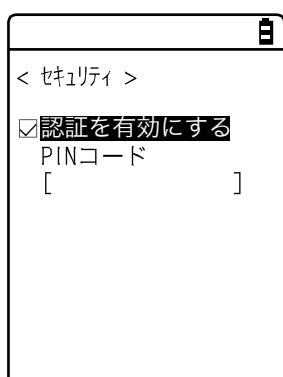
BD アドレスを入力します。

項目を設定し、[F1] キーを押して [はい] を選択すると設定が保存されます。

BD アドレスはデバイス固有のハードウェアアドレスです。

16進文字 (0~9、A~F) で 12 桁の固定長です。

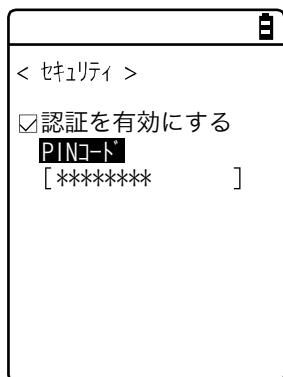
- ⑤ [セキュリティ] を選択します。



接続時の認証の設定をします。

チェックボックスをチェックすると、ローカルデバイスがリモートデバイスから接続要求を受けた場合に認証します。

認証できたリモートデバイスだけが接続を許可されます。



PIN コードを設定します。

PIN (Personal Identification Number) コードは認証の際に使用するパスワードです。

大小英文字、数字、記号で最大 16 桁まで入力可能です。

セキュリティ対策として、入力後の PIN コードは伏字 (\*) に変換されて表示されます。

### ●デバイス検索

周辺のリモートデバイスを検索します。検出したリモートデバイスを登録デバイスとして設定することができます。

#### 参考

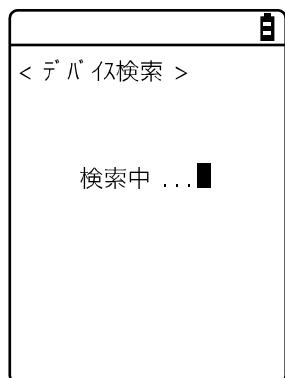
デバイス検索の対象に他の端末を含めたい場合は、対象となる端末を「ローカルデバイスの設定中」にしておく必要があります。

「ローカルデバイスの設定中」とは、ローカルデバイス設定の<プロパティ>画面の状態を指します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]  
→ [2:デバイス検索]

①検索が開始されます。



【C】キーを押すと検索を中止します。

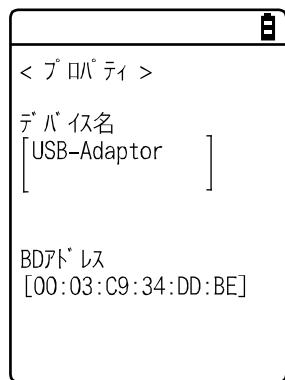
② 検索結果の一覧が表示されます。



検出したリモートデバイスのデバイス名の一覧が表示されます。

#### 参考

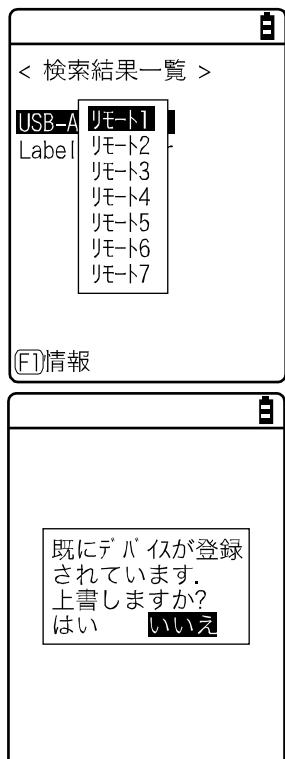
検出できるデバイス名は英数記号です。デバイス名にかな漢字を使用しないでください。



【F1】キーを押すと選択中のリモートデバイスのデバイス名、BD アドレスが表示されます。

【C】キーを押すと<検索結果一覧>画面に戻ります。

③ 検出したリモートデバイスを登録します。



登録するリモートデバイスを選択して【ENT】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

リモートデバイスを登録するリモート番号を選択すると登録されます。

既に登録済みのリモート番号を選択した場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。

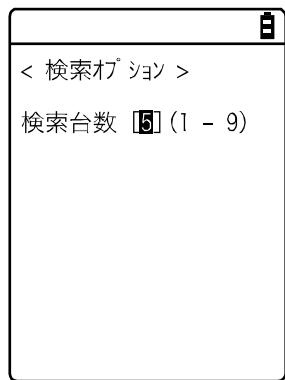
[はい] / [いいえ] を選択します。

**●検索オプション**

デバイス検索で検出するリモートデバイスの台数の上限を設定します。

**操作手順**

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]  
→ [3:検索オプション]



検索台数を指定します。

設定可能な台数は 1～9 台です。

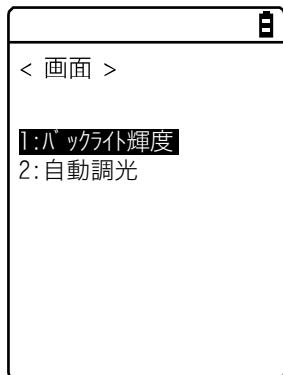
検索台数が多いほど、検索時間は長くなります。

## 4-7-4 画面/バックライト輝度の設定

バックライトの輝度を設定します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [4:画面]



次の項目から選択します。

- ・バックライト輝度：バックライトの輝度調整
- ・自動調光：自動調光の設定

### ■バックライト輝度

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [4:画面] → [1:バックライト輝度]



【▲】キーで上に、【▼】キーで下にスライダーを移動し、【ENT】キーで輝度を設定します。

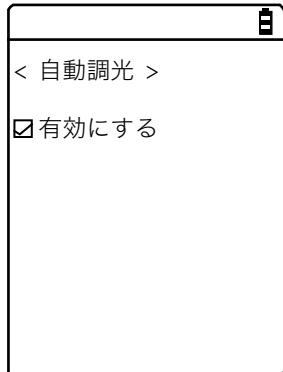
輝度は4段階で設定でき、スライダーを動かすとリアルタイムに変化します。

レベル値	輝度
高	明るい
↓	↑
低	暗い

## ■自動調光

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [4:画面] → [2:自動調光]



自動調光を有効にします。

自動調光が有効になるとバックライト輝度の設定が無効になります。

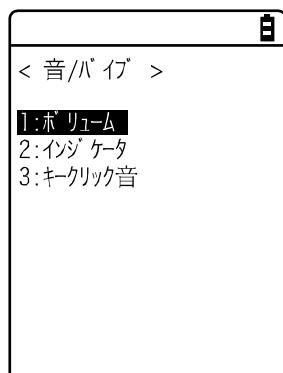
## 4-7-5 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定

音、LED、バイブレータの設定をします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [5:音/バイブ]

設定するデバイスを選択します。



次の項目から選択します。

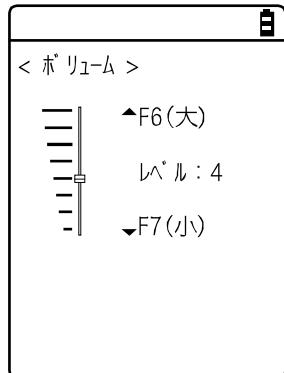
- ・ボリューム
- ・インジケータ
- ・キークリック音

## ■ボリューム

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [5:音/バイブ] → [1:ボリューム]

ブザーの音量を調節します。



1~8 の 8 段階に調節できます。

【▲】キーで上に、【▼】キーで下にスライダーを移動し、【ENT】キーで音量を設定します。

スライダーの上下に合わせて音量がリアルタイムで変化するので、レベル値の状態をその場で確認できます。

レベル値と音量の関係は次の通りです。

レベル値	音量
8	大きい
↓	↑ ↓
1	小さい

1 に設定すると、消音になります。

## ■インジケータ

インジケータとは、作業者の注意を喚起する 4 つのデバイス（ブザー/音声/バイブレータ/LED）を組合せた総称です。

インジケータを使用すれば、作業者に対して現在の状況をより感覚的に知らせることができます。どのインジケータがどのような場面で使用されるかは、アプリケーションソフトごとに設定します。

キーを押す、確定するといった作業時の代表的なシーン 5 種類（キャンセル、確定、クリック、注意、エラー）と、お客様の任意のシーン（ユーザ）を 1 つ加えた合計 6 シーンが、それぞれ 3 パターンずつ用意されています。

なお、システムメニューは各シーンのパターン 3 のインジケータが適用されます。

例えば、

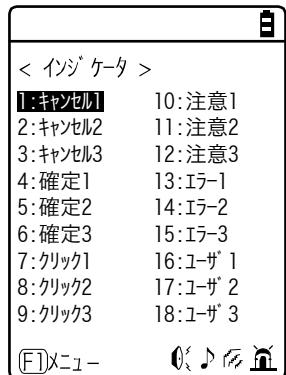
- 確定時は高音を短めに 1 回鳴らし、緑色の LED を点灯させる
- エラー時はバイブルータを振動させながら低音を 3 回鳴らし、赤色の LED を点滅させる

など、お客様の使用環境に合わせた様々な設定が可能です。

## 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [5:音/パイプ] → [2:インジケータ]

- ① 設定するインジケータを選択します。



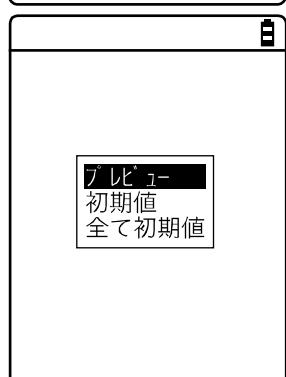
画面下部右下にインジケータの設定状況を示すアイコンが表示されます。

：  
：ブザーが設定されています。

：音声が設定されています。

：パイブレータが設定されています。

：LED が設定されています。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

- ・ プレビュー  
現在のインジケータを実際に体感できます
- ・ 初期値  
選択されているパターンの設定内容を破棄し、初期値にします
- ・ 全て初期値  
全シーンの全パターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

- ② 設定するデバイスを選択します。



手順①の画面で、設定する項目を選択した後、【ENT】キーを押すとデバイス名が表示されます。

設定するデバイスを選択して 【ENT】キーを押します。

次項を参照して各デバイスの動作条件を設定します。

### ●デバイス動作条件の設定

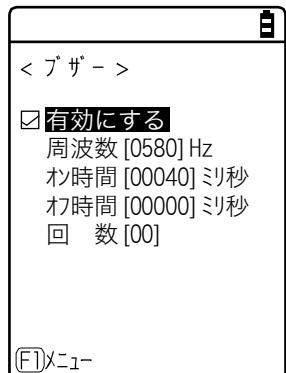
動作条件には全デバイスで共通なものと、デバイス独自のものがあります。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [5:音/パイプ] → [2:インジケータ]

→インジケータを選択→デバイスを選択

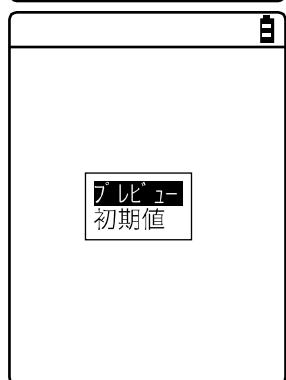
#### 全デバイス共通の操作



チェックボックスでデバイスの動作を ON/OFF します。

チェックをするとデバイスが動作し、外すと他の設定に関わらずデバイスは動作しません。

本設定内容がアイコンとして表示されます。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて設定します。

- ・プレビュー

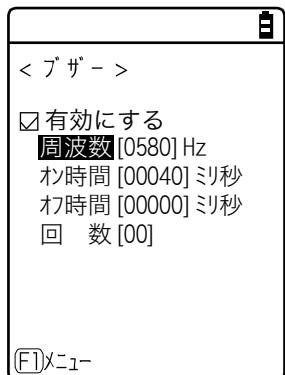
現在のインジケータを実際に体感できます。

- ・初期値

設定中のパターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

なお、画面下部左下に【F1】が表示されている場合、デバイスの動作条件全体を通じ操作手順は同じです。

## ブザーの周波数設定（[1:ブザー]）



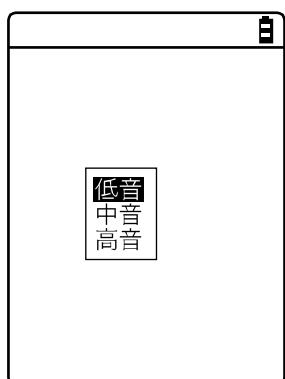
カーソルを【周波数】に移動して、【ENT】キーを押します。

周波数の値にカーソルが移動します。

設定範囲は、245～9000Hzです。この周波数範囲内で、1Hz単位で周波数を設定できます。スピーカーの特性上、500～3000Hzで使用することをお奨めします。

カーソルを【オン時間】、【オフ時間】に移動して【ENT】キーを押し、ブザーの作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。

カーソルを【回数】に移動して【ENT】キーを押し、「オン時間～オフ時間」で指定したブザー作動を繰り返す回数を指定します。

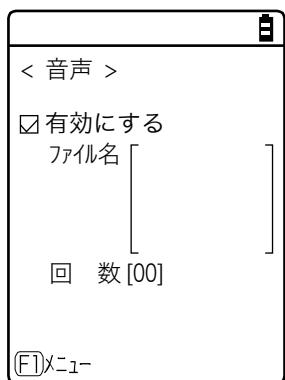


周波数入力中は画面下部左側のファンクションキーガイダンスの内容が変わります。

【F1】キーを押すと、周波数サンプルのサブメニューが表示されます。

サンプルを基準に数値の微調整を行うと、スムーズに設定できます。

## 音声ファイルの設定（[2:音声]）



カーソルを【ファイル名】に移動して、【ENT】キーを押します。

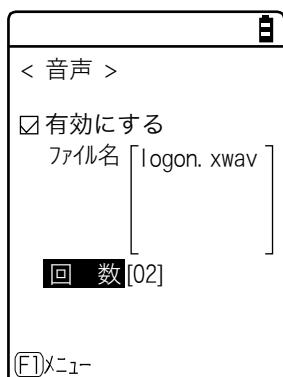
有効にする

ファイル名 [ ]

回 数 [00]

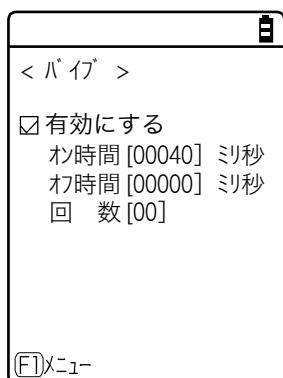


「ファイルの参照」画面で、再生する音声ファイルを選択します。



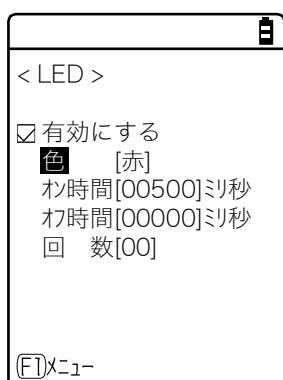
カーソルを [回数] に移動して、【ENT】キーを押します。  
音声ファイルを再生する回数を指定します。

#### バイブレータの設定 ([3:バイブ])



カーソルを [オン時間]、[オフ時間] に移動して 【ENT】キーを押し、  
バイブレータの作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。  
カーソルを [回数] に移動して 【ENT】キーを押し、「オン時間-オフ  
時間」で指定したバイブレータ作動を繰り返す回数を指定します。

#### LED の色設定 ([4:LED])

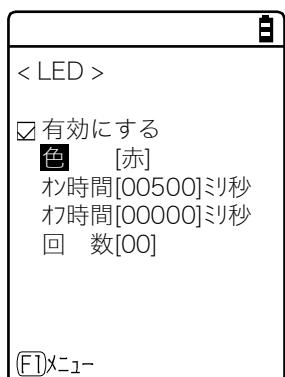


カーソルを [色] に移動して 【ENT】キーを押します。

カーソルを [オン時間]、[オフ時間] に移動して 【ENT】キーを押し、  
LED の作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。  
カーソルを [回数] に移動して 【ENT】キーを押し、「オン時間-オフ  
時間」で指定した LED 作動を繰り返す回数を指定します。



サブメニューから色を選択します。



カーソルを【オン時間】、【オフ時間】に移動して【ENT】キーを押し、LEDの作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。

カーソルを【回数】に移動して【ENT】キーを押し、「オン時間－オフ時間」で指定したLED作動を繰り返す回数を指定します。

## ■キークリック音

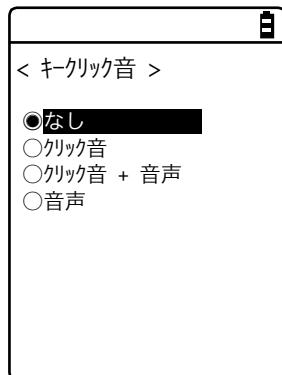
キーを押した時にクリック音を鳴らすかどうかを設定します。

クリック音はキーを押すと、すぐに再生されます。そのため、アプリケーションソフトやインジケータの音がクリック音で中断されます。タイミングによっては、その中断によって音が濁って聞こえることがあります。

### 操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [5:音/バイブ] → [3:キークリック音]

キーを押した時に再生される音のパターンを選択します。



- ・なし（デフォルト）  
キークリック音を鳴らしません。
- ・クリック音  
全てのキーに対して、押したときに「ピッ」というビープ音を鳴らします。
- ・クリック音 + 音声  
数字キーを押したときは音声で数字を読み上げます。他のキーを押したときはビープ音を鳴らします。
- ・音声  
数字キーを押したときのみ音声で数字を読み上げます。他のキーを押したときは音を鳴らしません。

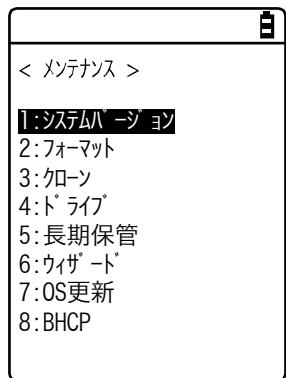
## 4-8 メンテナンス：基本情報とメンテナンスの設定

本製品の基本的な情報の確認、パフォーマンスの改善や保守などができます。

### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス]

メンテナンスする項目を選択します。



設定する項目を選択します。

- ・システムバージョン：OS バージョンの確認 (P.[137](#))
- ・フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット (P.[138](#))
- ・クローン：複製の作成 (P.[140](#))
- ・ドライブ：ドライブ情報の表示 (P.[148](#))
- ・長期保管：長期間使用しないときの設定 (P.[149](#))
- ・ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動 (P.[150](#))
- ・OS 更新：本製品の OS を更新 (P.[151](#))
- ・BHCP：BHCP の各種設定 (P.[153](#))

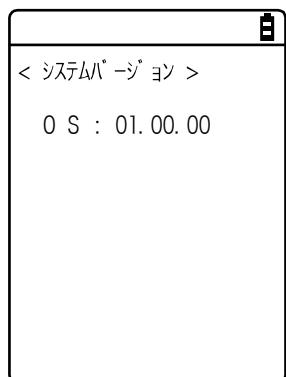
### 4-8-1 システムバージョン：OS バージョンの確認

インストールされている OS のバージョン情報を表示します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [1:システムバージョン]

OS のバージョンを確認します。



## 4-8-2 フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット



レジストリやドライブをフォーマットします。

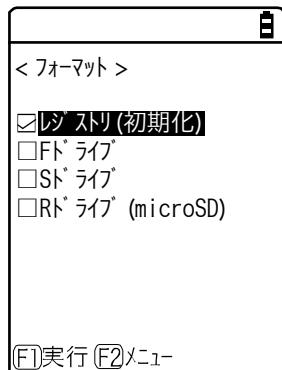
### 注意

フォーマットを実行すると設定した内容が出荷時の状態に戻り、ファイルが全て消去されます。フォーマットを実行する時はこの点を十分にご理解の上、細心の注意を払ってください。

### 操作手順

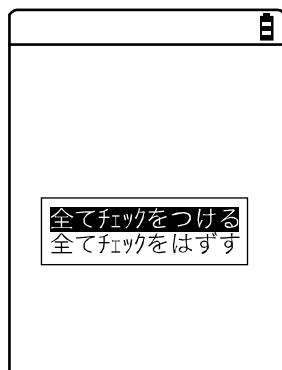
[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [2:フォーマット]

- ① フォーマットする項目を選択します。



フォーマットする項目にチェックをつけます。

1つもチェックされていない場合は実行できません。

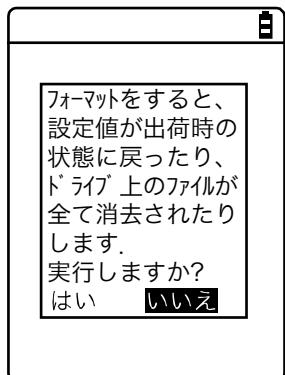


【F2】キーを押すとサブメニューが表示されます。

・全てチェックをつける  
チェックボックスを全てチェックします。

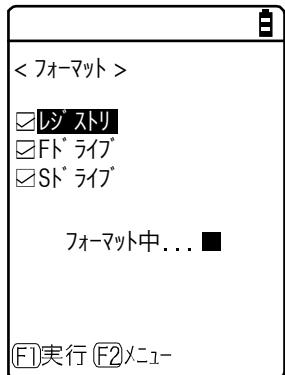
・全てチェックをはずす  
チェックボックスから全てチェックを外します。

## ② フォーマットを開始します。



【F1】キーを押すと実行確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。



チェックされた項目が順番にフォーマットされます。

## ③ フォーマットを完了します。



【ENT】キーを押してフォーマットを完了します。

レジストリを初期化した場合は電源が OFF になります。

## 4-8-3 クローン：複製の作成

本製品のシステムメニューで設定されたパラメータや、F ドライブに保存されたファイルを、別の XIT-2xx にコピーし、同じ設定とファイルを持った端末を作成します。

**注意**

- ・S ドライブに保存されたファイルはコピーされません。
- ・OS バージョン 01.01.02 以前の端末と、01.02.00 以降の端末では、クローンができません。同じ OS バージョンの端末で、クローンをしてください。
- ・XIT-100 シリーズでお使いの設定を、XIT-2xx シリーズにクローンすることはできません。

### ■クローン実行の手順

クローンは、Bluetooth 通信、赤外線通信（IrDA）通信、microSD カードにより実行できます。

#### ①事前設定

<Bluetooth 通信の場合>

マスター端末となる機器のリモートデバイスとしてコピー端末を登録します。

「■リモートデバイス」(P. [122](#)) を参照してください。

<赤外線通信（IrDA）/microSD カードの場合>

事前設定は必要ありません。

#### ②マスター端末でクローン（コピー）する項目を選択します。

#### ③コピー端末を初期化します。

#### ④コピー端末側の準備が完了していることを確認した後、マスター端末でクローン実行を行います。

#### ⑤マスター端末側でクローン完了が表示されたことを確認します。

#### ⑥コピー端末側の確認ダイアログを終了し、電源を OFF して完了します。



Bluetooth 通信および赤外線通信（IrDA）については、「第3章 通信環境の設定」(P.[61](#)) を参照してください。

クローンを実行するときは次のことを十分にご理解の上、細心の注意を払って実行してください。

**注意**

- Bluetooth 通信で電波状態が悪い場合や、赤外線通信（IrDA）で外乱光などの周囲環境が悪い場合、コピーが正常に行われない場合でも、マスター側で「完了しました」表示が出る場合があります。
- コピー端末は、マスター端末から受信する前に端末内が初期化されます。そのためクローンに失敗した場合、設定値が出荷時の状態に戻ったり、ファイルが全て消去されたりします。
- コピー端末は最初に初期化を実行するため、クローン可能な状態になるまでにしばらく時間がかかる場合があります。

**■Bluetooth/IrDA の場合****操作手順**

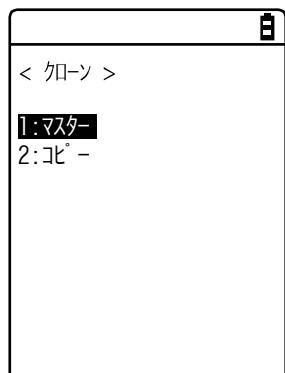
[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [3:クローン]

① 通信手段を選択します。



- Bluetooth または IrDA（赤外線）から選択します。
- Bluetooth
  - IrDA

② 本製品がマスター端末かコピー端末かを設定します。



- マスター：複製元の XIT-2xx の場合
- コピー：複製先の XIT-2xx の場合

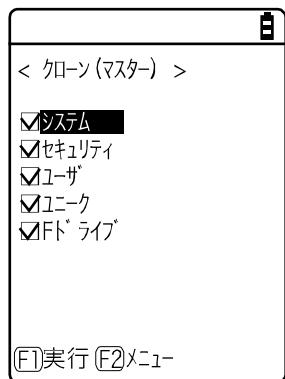
### ●マスター：本製品が複製する元

複製する設定とファイルを選択し、クローンを実行します。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [3:クローン] →  
[1:Bluetooth/2:IrDA/3:microSD] → [1:マスター]

- ① クローンする項目を選択します。



コピーする項目を選択します。

コピー端末が初期化を終了して接続待ち状態になっていることを確認したら、【F1】キーを押してクローンを開始します。



- ・ 全てチェックをつける  
チェックボックスを全てチェックします。
- ・ 全てチェックをはずす  
チェックボックスから全てチェックを外します。

- ② クローン操作を完了します。



### ●コピーする項目の説明

#### ・システム

本製品のシステムソフトウェア（OS）が独自に管理しているパラメータです。

ユーザのアプリケーションで使われることはありませんので、この項目は選択しなくても構いません。

#### ・セキュリティ

システムメニューの起動時パスワードとBluetoothのセキュリティ設定です。

コピー端末でも同じセキュリティ設定を使用したい場合は選択します。

#### ・ユーザ

セキュリティ、ユニーク以外の全てのシステムメニューで設定したパラメータです。

この項目を選択すると、システムメニューで設定したパラメータの大半が複製されます。

#### ・ユニーク

端末IDおよびBluetoothのローカルデバイス名と自局のセキュリティ設定です。

基本的には各端末に固有のパラメータですが、それも含めて複製したいときには選択します。

#### ・F ドライブ

Fドライブに格納されたファイルをコピーします。

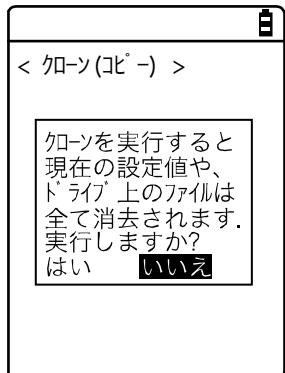
アプリケーションソフトやマスターファイルなどを複製したいときに選択します。

●コピー：本製品が複製される側

**操作手順**

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [3:クローン] →  
[1:Bluetooth/2:IrDA/3:microSD] → [2:コピー]

- ① 本製品を初期化します。

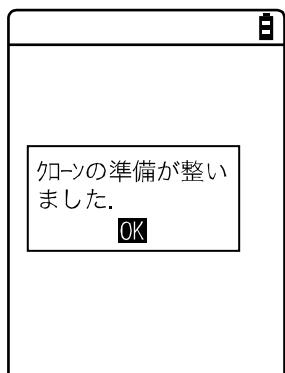


マスター端末でクローンを実行（【F1】キー押下）する前に実行してください。

実行確認ダイアログが表示されます。

【はい】 / 【いいえ】を選択してください。

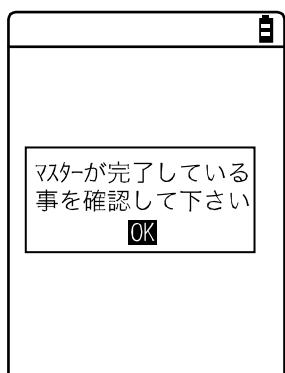
- ② クローン可能な状態になったことが通知されます。



【ENT】キーを押して接続待ち状態にします。

この時点で、マスター端末のクローン実行（【F1】キー押下）を行ってください。

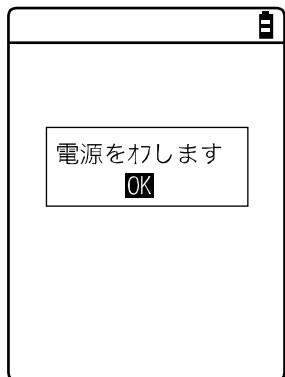
- ③ マスター端末の画面を確認してください。



コピー端末側ではクローンが完了したことを確認できませんので、必ずマスター端末側の画面で転送が完了していることを確認してください。もしマスター端末側の転送が完了していない場合は、再度クローンを実行してください。

【ENT】キーを押します。

- ④ クローンを完了します。



【ENT】キーを押します。

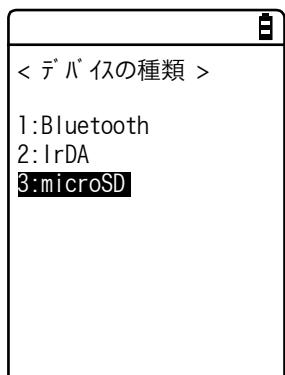
電源が OFF になります。

## ■microSD の場合

### 操作手順

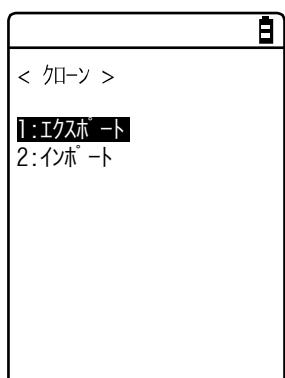
[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [3:クローン]

- ① 手段を選択します。



microSD を選択します。

- ② 本製品がエクスポート側かインポート側かを指定します。



・エクスポート：複製元の XIT-2xx の場合

・インポート：複製先の XIT-2xx の場合

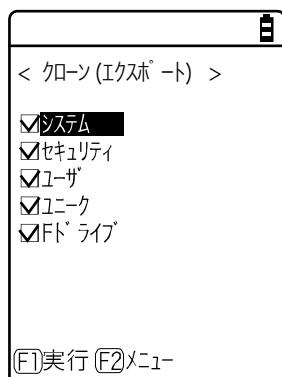
**●エクスポート：本製品が複製する元**

複製する設定とファイルを選択し、クローンを実行します。

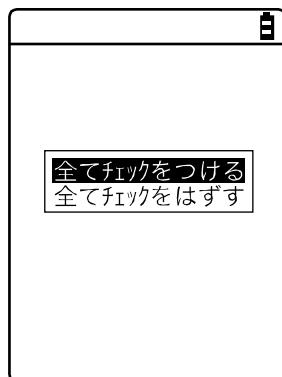
**操作手順**

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [3:クローン] → [3:microSD] → [1:エクスポート]

① クローンする項目を選択します。



コピーする項目を選択します。

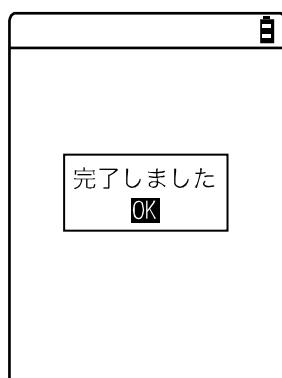


【F2】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて設定します。

- ・全てチェックをつける  
チェックボックスを全てチェックします。
- ・全てチェックをはずす  
チェックボックスから全てチェックを外します。

② クローン操作を完了します。

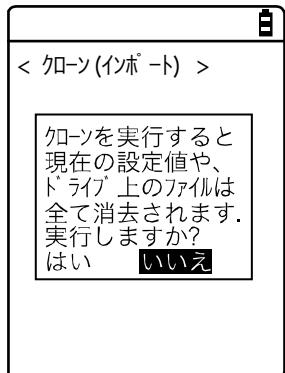


【ENT】キーを押してクローン操作を完了します。

**●インポート：本製品が複製される側****操作手順**

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [3:クローン] → [3:microSD] → [2:インポート]

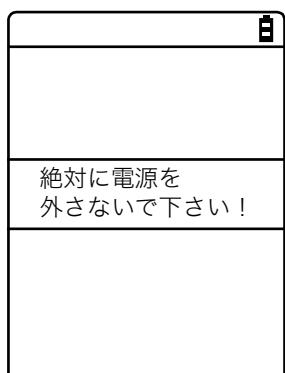
- ① 実行を確認します。



実行確認ダイアログが表示されます。

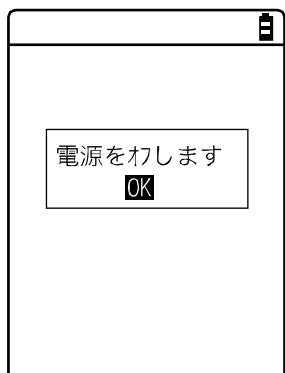
[はい] / [いいえ] を選択してください。

- ② クローンが実行されます。



実行中は電源を切らないでください。

- ③ クローンを完了します。



【ENT】キーを押します。

電源が OFF になります。

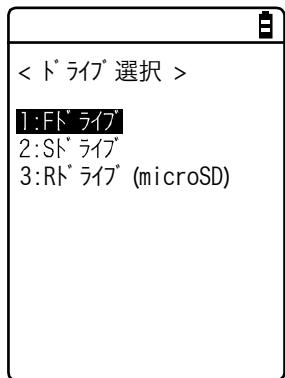
## 4-8-4 ドライブ：ドライブ情報の表示

ドライブに関する各種情報の確認および保守を実施します。

### 操作手順

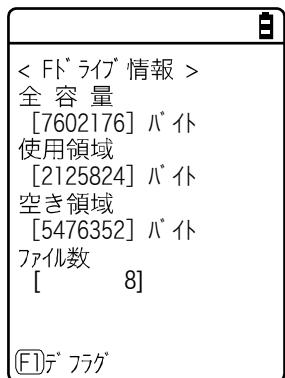
[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [4:ドライブ]

- ① ドライブを選択します。



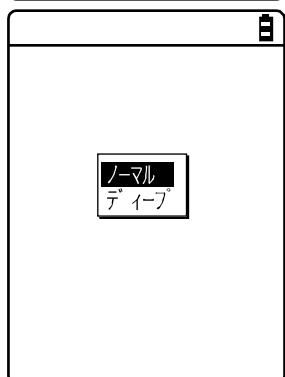
ドライブを選択して【ENT】キーを押します。

- ② ドライブの情報が表示されます。



次の情報が表示されます。

- ・全容量
- ・使用領域
- ・空き領域
- ・ファイル数



Fドライブでは、【F1】キーを押すとデフラグして最適化することができます。

【ENT】キーを押すとダイアログが表示されます。

- ・ノーマル

ファイルの書き込みや削除の過程で発生した不要な領域を物理的に削除します。

- ・ディープ

ノーマルの実行に加え、確保した空き領域を連続した領域になるよう再配置します。

ディープはドライブの状態により完了まで数秒～数分かかる場合があります。通常はノーマルでの実行をお奨めします。

**注意**

デフラグの途中では絶対にバッテリーパックを外さないでください。デフラグの途中で電池またはバッテリーパックを外すと、ファイルやシステムプログラムが破壊される恐れがあります。

**参考**

Fドライブでファイルの書き込みや削除を繰返すと、次第に空き領域が断片化され、サイズの大きいファイルが格納できなくなったり、起動時間が長くなったりすることがあります。

Fドライブの断片化を防ぐために、以下の点に注意してください。

- データはできる限り、一度にまとめて連続したデータとして書込む。
- Fドライブに一時的に保存したデータは、終了時に消去する。
- 一時的に保存しておくようなデータは、なるべく Sドライブに書込む。

## 4-8-5 長期保管：長期間使用しないときの設定

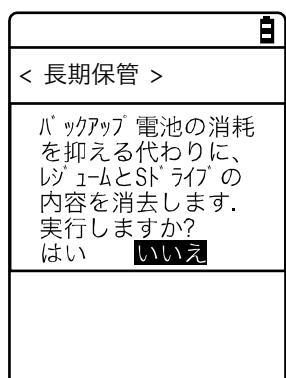
本製品を長期間使用しない場合には、電池の消耗を抑える設定にします。

レジュームと Sドライブの消去を実行します。

**操作手順**

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [5:長期保管]

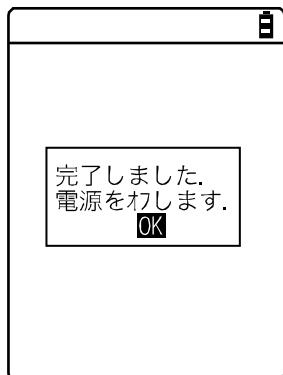
- ① レジュームと Sドライブが消去されます。



実行確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

② 長期保管の準備を完了します。



【ENT】キーを押します。

電源が OFF になります。

### 参考

長期保管の後に電源を ON した場合、「S ドライブを初期化しました」のメッセージが表示されますが、故障ではありません（「1-2-7 長期保管」（P.[48](#)）参照）。

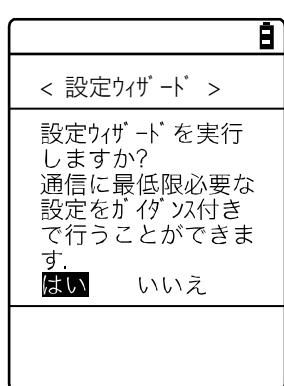
## 4-8-6 ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動

本製品を最初に起動した時に実行される設定ウィザードを再度起動することができます。本製品とパソコンとの間で通信するために最低限必要な設定ができます。

### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [6:ウィザード]

ウィザードによる設定を実行します。



[はい] / [いいえ] を選択します。

[はい] を選択すると、Bluetooth 通信を設定するウィザードが実行されます。[いいえ] を選択すると元の画面に戻ります。

詳細は、「3-2 Bluetooth 通信環境の構築」（P.[63](#)）をご覧ください。

## 4-8-7 OS 更新：本製品のOSの更新

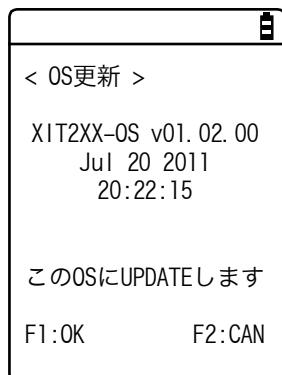
本製品のOSを更新します。

あらかじめOSをFドライブにダウンロードしておき、以下の手順で本製品のOSを更新します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [7:OS 更新]

① OS更新を開始します。



【F1】キーを押すと、OS更新を開始します。

【F2】キーを押すと、OS更新を中止します。

② 本製品が再起動され、OS更新が開始されます。



OS更新中はバッテリーパックを絶対に外さないでください。

また、全てのキーを押さないでください。

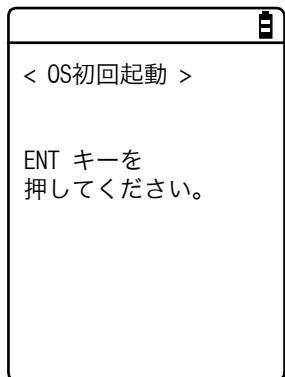
③ 再起動します。



OS更新が完了した後、いずれかのキーを押します。

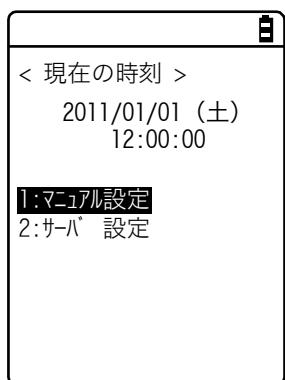
これにより電源がOFFになります。

## ④ 電源を ON にします（初回起動）。



【ENT】キーを押します。

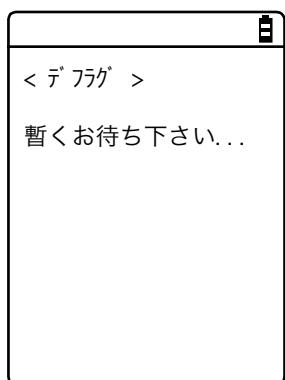
## ⑤ 時刻を設定します。



時刻設定して、【C】キーを押します。

時刻設定については「4-3-2 時計：時刻の設定」(P.[90](#)) を参照してください。

## ⑥ デフラグが実行されます。



デフラグが実行され、その後電源が OFF になります。

これで OS 更新の手順が完了します。

## 4-8-8 BHCP：BHCP の設定

弊社独自のプロトコル BHCP (Basic Handy Configuration Protocol) にて、端末のシステム設定や、ファイルダウンロードを自動で行うことができます。

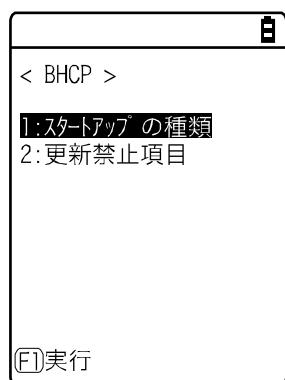
BHCP を実行するために、別売のファイル転送ユーティリティ「BluePorter-L」が必要になります。

BHCP で設定可能な項目の詳細は、BluePorter-L のヘルプマニュアルをご覧ください

### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [8:BHCP]

設定する項目を選択します。



- ・スタートアップの種類：BHCP の無効/実行の設定
- ・更新禁止項目：BHCP で更新を禁止する項目の設定

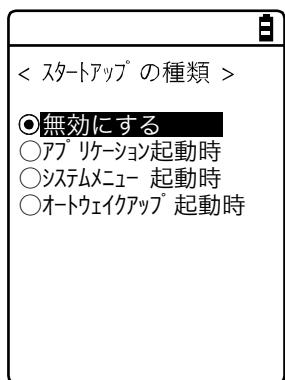
### ●スタートアップの種類

起動時の BHCP の無効/実行を設定します。

### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [8:BHCP] → [1:スタートアップの種類]

スタートアップの種類を設定します。



- ・無効にする  
起動時に BHCP は実行されません。
- ・アプリケーション起動時  
アプリケーションソフトが実行される前に BHCP が実行されます。  
[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行] でアプリケーションソフトが選択されている場合、本製品起動後、アプリケーションソフトが実行される前に BHCP 機能が実行されます。  
なお、システムメニューの [3:ファイル] でアプリケーションソフトを起動した場合は、BHCP は実行されません。

- ・システムメニュー起動時  
システムメニュー起動時に BHCP が実行されます。
- ・オートウェイクアップ起動時  
オートウェイクアップ起動時に BHCP が実行されます。

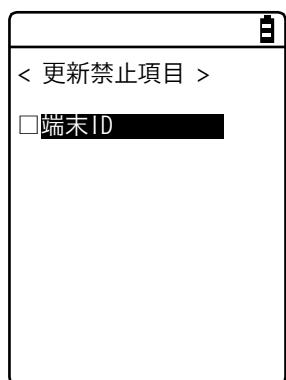
### ●更新禁止項目

BHCP 機能実行時に、指定した端末固有の情報を変更しないように設定することができます。

#### 操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [8:BHCP] → [2:更新禁止項目]

更新禁止にする項目を選択します。



更新を禁止する項目をチェックします。

- ・端末 ID



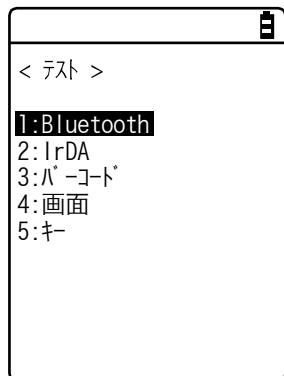
## 4-9 テスト：ハードウェアデバイスのテスト

ハードウェアデバイスを動作させ、状態をテストします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:テスト]

テストするデバイスを選択します。



次の項目から選択します。

- ・ Bluetooth : Bluetooth 通信のテスト (P.[156](#))
- ・ IrDA : 赤外線通信 (IrDA) のテスト (P.[157](#))
- ・ バーコード : バーコードの読み取りテスト (P.[158](#))
- ・ 画面 : 液晶画面の表示テスト (P.[159](#))
- ・ キー : キー動作とインジケータのテスト (P.[160](#))

## 4-9-1 Bluetooth : Bluetooth 通信のテスト

他の端末と Bluetooth を使って 1 対 1 の通信をします。

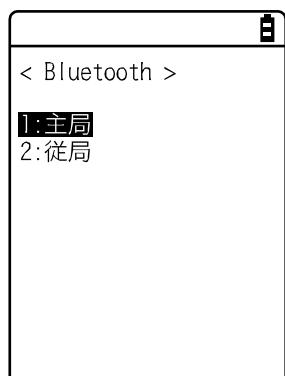
Bluetooth 通信実行前に、通信相手となる機器（主局になる機器では従局になる機器または端末、従局になる機器では主局になる機器）をデフォルトデバイスとして設定しておく必要があります。

「4-7-3 Bluetooth:Bluetooth の登録設定」－「■リモートデバイス」(P. [122](#)) を参照してください。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:テスト] → [1:Bluetooth]

① 本製品が主局か従局かを設定します。



通信する Bluetooth 機器との接続方法を選択します。

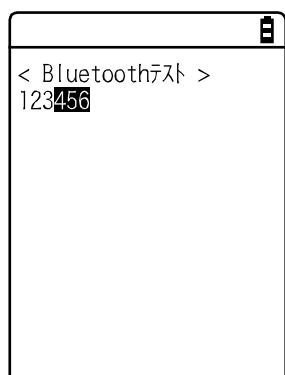
主局は接続における主導権を持ち、従局は主局の指示に従います。主局と従局間でのみ接続できます。

自分が主局であれば他の端末は従局で、自分が従局であれば他の端末は主局でテストを開始します。

なお、主局、従局はあくまでも接続段階における一時的な関係です。

接続後は主局、従局の関係は解消されます。

② 通信テストが開始されます。



キーを押すと該当するキーデータを送信すると同時に、画面にも表示（ローカルエコー）されます。

データを受信すると、反転表示で画面に表示されます。

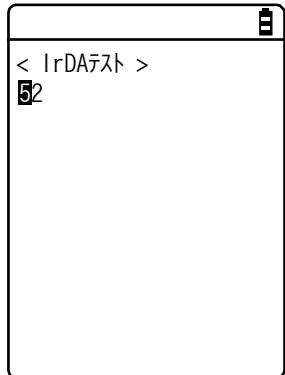
## 4-9-2 IrDA：赤外線通信のテスト

他の端末と赤外線通信を使って1対1の通信をします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:テスト] → [2:IrDA]

赤外線通信テストが開始されます。



他の端末と赤外線通信ポート同士を向かいあわせに配置し、他の端末も赤外線通信テストを開始します。

キーを押すと該当するキーデータを送信すると同時に、画面にも表示（ローカルエコー）されます。

データを受信すると、反転表示で画面に表示されます。

## 4-9-3 バーコード

バーコードの読み取りテストをします。

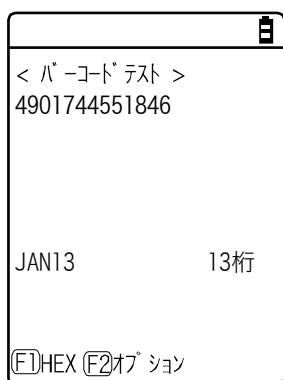
なお、ここでのバーコード入力はトリガモードの影響を受けません。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:テスト] → [3:バーコード]

読み取りモードになるので、【SCAN】キーまたはトリガキーを押してバーコードを読み取ります。

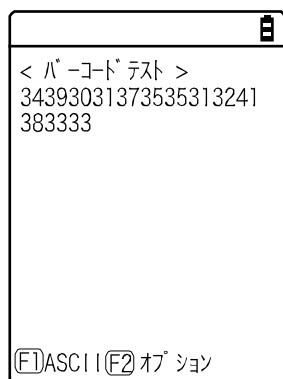
#### ●バーコードの読み取り



バーコードを読み取ります。

読み取ったバーコード、バーコードの種類、桁数が表示されます。

#### ●文字コード変換表示

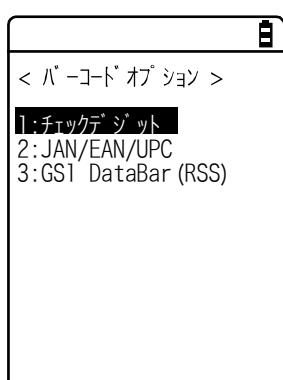


【F1】キーを押すと、文字コードを変換して表示します。

- ・ ASCII（デフォルト）  
ASCII 文字コードで表示されます。
- ・ HEX  
16進正数に変換して表示します。16進変換すると「5」が「35」に、「m」が「6D」のように、1文字を16進正数2文字で表示されます。

【F1】キーを押すたびに表示が切替わります。

#### ■バーコードオプション



【F2】キーを押すと各種バーコードオプションを設定できます。

なお、この設定はバーコードテストの間のみ有効になります。

**●チェックデジット**

チェックデジットをチェックするかどうかを設定します。

- [チェックをします] を OFF にする（デフォルト）  
チェックデジットをチェックしません。
- [チェックをします] を ON にする  
チェックデジットをチェックします。

**●JAN/EAN/UPC**

JAN/EAN/UPC のアドオンコードの読み取り条件を設定します。

- 禁止（デフォルト）  
アドオンコードを読み取りません。
- 許可  
アドオンコードの有無を問わず、どちらも読み取り可能です。
- アドオンコードのみ許可  
アドオンコードのある JAN/EAN/UPC のみ読み取り可能です。

**●GS1 DataBar(RSS)**

RSS Stacked の読み取り条件を設定します。

- 禁止（デフォルト）  
RSS Stacked を読み取りできません。
- 許可  
RSS Stacked の読み取りが可能です。

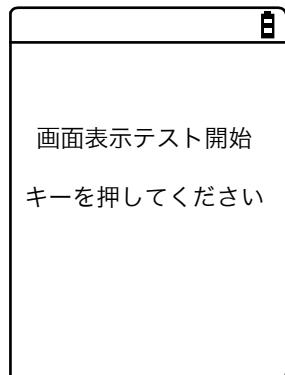
## 4-9-4 画面：液晶画面のテスト

画面表示に関するテストをします。

**操作手順**

[システムメニュー] → [7:テスト] → [4:画面]

テストパターンが表示されます。



液晶の表示状態をテストします。

【F4】、【PW】キー以外のキーを押すたびに、液晶画面のカラー表示が切替わります。

全ての表示が終わると、1つ前の操作に戻ります。

## 4-9-5 キー：キー動作とインジケータのテスト

キー入力と同時に、インジケータ（ブザー/バイブレータ/LED）もテストします。

### 操作手順

[システムメニュー] → [7:テスト] → [5:キー]



キーを押すと、画面中央の区切り線の上に表示されているアイコンが反転表示（【ENT】キーのみ逆）するほか、区切り線の下にはキーに対応したアイコンが表示（ローカルエコー）されます。

また、各キーに連動して、それぞれのキーに対応したインジケータが作動します。

各キーに割当てられているインジケータは次の通りです。

キー	ブザー	バイブルータ	LED	音声再生
【0】～【9】、【・】	○	×	緑	×
【ENT】、【C】、 【BS】、【SF】	○	×	橙	×
【SCAN】	×	○	橙	×
【F1】	○	×	赤	メロディー
【F2】	○	×	赤	会話（バーコードを読んでください）
【F3】	○	×	赤	会話（バッテリーを充電してください）
【F4】	○	×	赤	会話（エラーです）
【◀】（【F5】）	○	×	赤	会話（ゴ）
【▲】（【F6】）	○	×	赤	会話（口ク）
【▼】（【F7】）	○	×	赤	会話（ナナ）
【▶】（【F8】）	○	×	赤	会話（ハチ）

【C】キーが2回押されるか、全てのキーが押されるとテストを終了します。

### 参考

全てのキーテストが終了するまで、【PW】キーの操作はできません。

# 第5章

## 仕様

## 5-1 製品の仕様

### 5-1-1 XIT-200-M バーコードハンディターミナル

CPU	32 ビット RISC CPU	
OS	$\mu$ ITRON	
メモリ	ROM	32MB (ユーザ領域 12MB 以上)
	RAM	64MB (ユーザ領域 12MB 以上)
スキャナ部	読み取コード	NW-7, Code39, JAN-13/8, UPC-A/E, インダストリアル 2of5 ITF, Code93, Code128, GS1-128, GS1 DataBar (RSS)
	光源	赤色半導体レーザ
	レーザクラス	JIS C 6802 Class2 準拠
	最大出力	1mW
	波長	650±10nm
	スキャン速度	100 スキャン/秒
	PCS	0.45 以上(スペースおよびマージンの反射率 70%以上)
	分解能	0.127mm
	液晶表示部	TFT カラーLCD、262,144 色
	表示画素数	QVGA (320×240)
	画面サイズ	2.4 インチ
	バックライト	白色 LED 輝度調整 5 段階 (4 段階調整、消灯)
	フォント	30dot : 半角 16 衞×9 行 24dot : 半角 20 衞×12 行 16dot : 半角 30 衞×18 行
キー入力部	表示文字	JIS 第一、第二水準漢字、ANK、記号、外字 (横倍角、縦倍角、4 倍角可能)
	キー数	27keys (左右トリガキー含む)
照度センサー	バックライト	橙
	バッテリーカバー開閉検知	有り (バッテリーカバーが外されると警告画面が表示)

表示 LED	SCAN	緑/赤/橙（ユーザ指定、充電状態表示）		
	ALARM	橙（ユーザ指定）		
スピーカ		音量調整 8段階（7段階調整、OFF） 読取時、各種エラー時に鳴動（ユーザ指定可能）		
バイブレータ		有り：読取り時、各種エラー時に鳴動（ユーザ指定可能）		
通信部	Bluetooth	適合国際規格	Bluetooth Ver2.0+EDR 準拠	
		適合国内規格	ARIB STD-T66	
		通信方式	スペクトラム拡散方式（周波数ホッピング方式）	
		無線周波数	2.4GHz 帯	
		通信速度	最大 1Mbps(理論値)	
		送信電力 クラス	Class2	
		アンテナ	本体に内蔵	
		通信距離	最大 10m *1	
		プロファイル	SPP	
IrDA		IrDA Ver1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps (SIR)		
外部接続 端子	microSD カード	SD Memory Card Specification, Ver.1.1		
寸法		58 (W) × 171 (D) × 40 (H) mm グリップ部 45(W) × 29 (H)		
重量		220g (バッテリーパック含む)		
本体充電機能		有り（温度保護機能あり）		
電源	メインバッテリー	リチウムイオン二次電池 *2		
	バックアップバッテリー	リチウム二次電池（メンテナンスフリー）		
連続使用時間 *3		約 17 時間 (Typ.)		
バックアップ 期間	メインバッテリー有り (メインバッテリー満充電)	RAM 保持期間	約 19 日	
	メインバッテリー無し (バックアップ用電池 満充電)	RAM 保持期間	15 時間以上	
		RTC 保持期間	RAM 保持なし 1 年	
			RAM 保持あり 6 ヶ月	
バックアップ用電池充電		充電時間	1 日	
充電時間		約 2.5 時間		

時計機能	機能	年（4 行）月日時分秒/閏年補正あり、タイマー機能あり
	月差	約±30 秒
環境	使用温度	-5°C～50°C
	使用湿度	20～80%RH（ただし、結露無きこと）
	保存温度	-10°C～60°C
	保存湿度	10～90%RH（ただし、結露無きこと）
	照度条件	人工光 4,000lx まで 太陽光 80,000lx まで
	RoHS 指令	準拠
耐久性	耐落下強度	1.5m（コンクリートに 6 面各 5 回落下） *4 2.5m（コンクリートに 1 回落下） *4
	防滴・防塵	IEC IP54（JIS 防塵防沫相当）

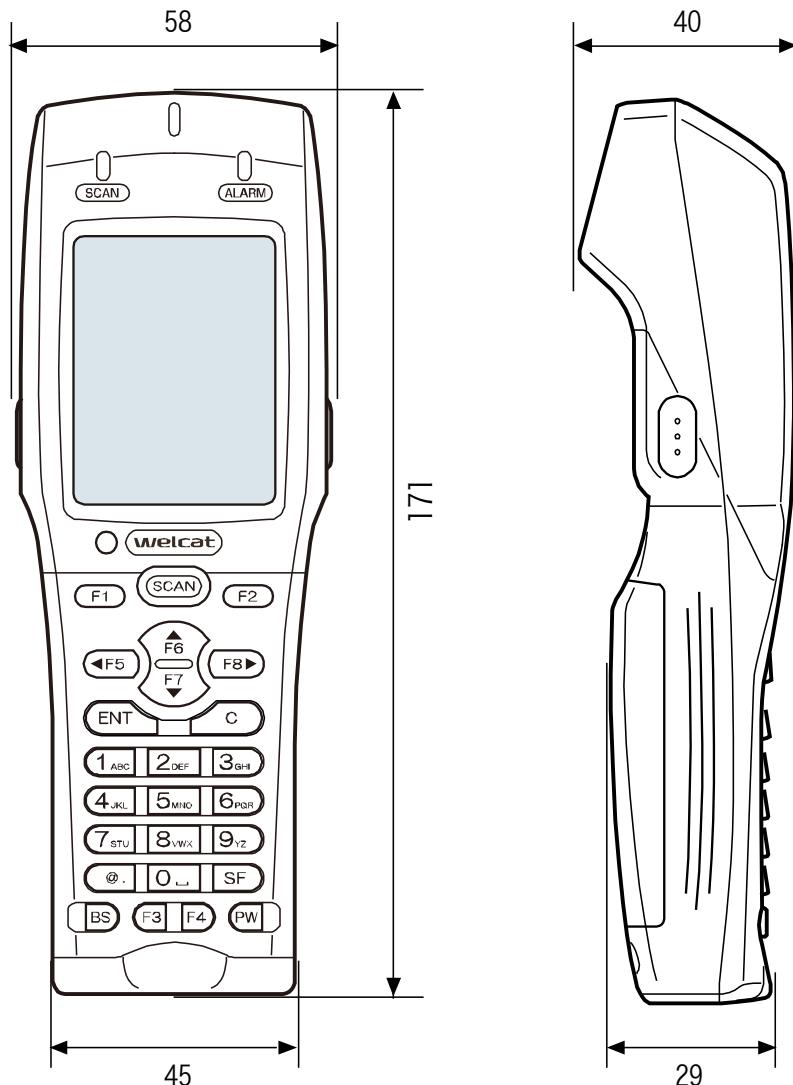
\*1 安定した通信のためには、端末と Bluetooth USB アダプタまたは Bluetooth 通信ユニットの間に障害物がない状態で 2m 以内での使用を推奨します。

\*2 深い充放電を繰返すと劣化による容量低下で寿命となることがあります。

\*3 連続使用時間は、下記条件下での実力値です。

20 秒に 1 秒バーコード読み取り、LED ON、スピーカ ON、  
バックライト輝度：レベル 2、バイブ OFF

\*4 試験値であり、保証値ではありません。

**■外形寸法**

## 5-1-2 QC-006 シングルチャージャ

充電部	使用温度	0~40°C
	使用湿度	20~80% (ただし、結露無きこと)
	保存温度	-10°C~60°C
	保存湿度	10~90% (ただし、結露無きこと)
	充電時間	約 2.5 時間 ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。
	外形寸法	93 (W) × 117.5 (D) × 105.4 (H) mm
	重量	225g
AC アダプタ	定格入力	AC100~240V 50-60Hz 75VA
	定格出力	DC5.5V 2.5A 13.75W
	重量	180g (AC コード含まず)
	外形寸法	41.5 (W) × 90 (D) × 28 (H) mm (AC コード、DC コード含まず)
	AC コード長	1.8m
	DC コード長	1.8m

### 5-1-3 QC-007 マルチチャージャ

充電部	使用温度	0～40°C
	使用湿度	20～80% (ただし、結露無きこと)
	保存温度	-10°C～60°C
	保存湿度	10～90% (ただし、結露無きこと)
	充電時間	約 2.5 時間 ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。
	外形寸法	375.5 (W) × 120 (D) × 106 (H) mm
	重量	910g
AC アダプタ	定格入力	AC100～240V 50-60Hz 150VA
	定格出力	DC12V 4.6A 70W
	重量	300g (AC コード含まず)
	外形寸法	58 (W) × 132 (D) × 30 (H) mm (AC コード、DC コード含まず)
	AC コード長	1.8m
	DC コード長	1.8m

### 5-1-4 IU-004 USB 通信ユニット

一般	使用温度	0～40°C
	使用湿度	20～80% (ただし、結露無きこと)
	保存温度	-10°C～60°C
	保存湿度	10～90% (ただし、結露無きこと)
	外形寸法	93 (W) × 117.5 (D) × 105.4 (H) mm
	重量	215g
通信部	USB ケーブル長	1m
	赤外線通信	IrDA Ver.1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps
	外部インターフェース	USB2.0 Full Speed コネクタ：TYPE B
	電源	USB BUS パワー
	消費電流	100mA 以下

## 5-1-5 IU-004C USB 通信/充電ユニット

一般	使用温度	0~40°C
	使用湿度	20~80% (ただし、結露無きこと)
	保存温度	-10°C~60°C
	保存湿度	10~90% (ただし、結露無きこと)
	外形寸法	93 (W) × 117.5 (D) × 105.4 (H) mm
	重量	216g
通信部	USB ケーブル長	1m
	赤外線通信	IrDA Ver.1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps
	外部インターフェース	USB2.0 Full Speed コネクタ：TYPE B
	電源	USB BUS パワー *
	消費電流	100mA 以下
充電部	充電時間	約 2.5 時間  ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。
AC アダプタ	定格入力	AC100~240V 50-60Hz 75VA
	定格出力	DC5.5V 2.5A 13.75W
	重量	180g (AC コード含まず)
	外形寸法	41.5 (W) × 90 (D) × 28 (H) mm (AC コード、DC コード含まず)
	AC コード長	1.8m
	DC コード長	1.8m

\* 通信機能の電源に使用されます。充電は AC アダプタ使用してください。

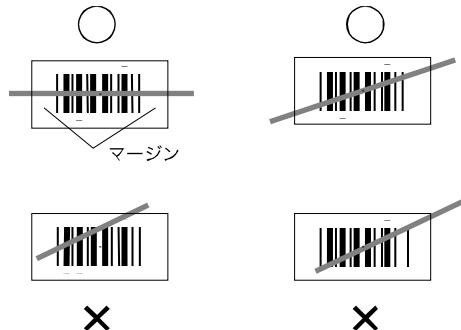
## 5-1-6 IU-004CL LAN通信/充電ユニット

一般	使用温度	0~40°C
	使用湿度	20~80% (ただし、結露無きこと)
	保存温度	-10~60°C
	保存湿度	10~90% (ただし、結露無きこと)
	外形寸法	93 (W) × 117.5 (D) × 105.4 (H) mm
	重量	262g
通信部	赤外線通信	IrDA Ver.1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps
	外部インターフェース	Ethernet : Version.2.0 / IEEE802.3 10BASE-T / 100BASE-TX コネクタ : RJ45
充電部	充電時間	約 2.5 時間  ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる環境があります。
AC アダプタ	定格入力	AC100~240V 50-60Hz 96VA
	定格出力	DC5V 3A 15W
	重量	180g (AC コード含まず)
	外形寸法	49.8 (W) × 68.2 (D) × 26.3 (H) mm (AC コード、DC コード含まず)
	AC コード長	1.8m
	DC コード長	1.8m

## 5-2 読取仕様

### 5-2-1 バーコードの読み方

レーザ光がバーコードを横切る様にスキャンします。また、バーコード左右の余白（マージン）も照射するようにします。



### 5-2-2 読取深度

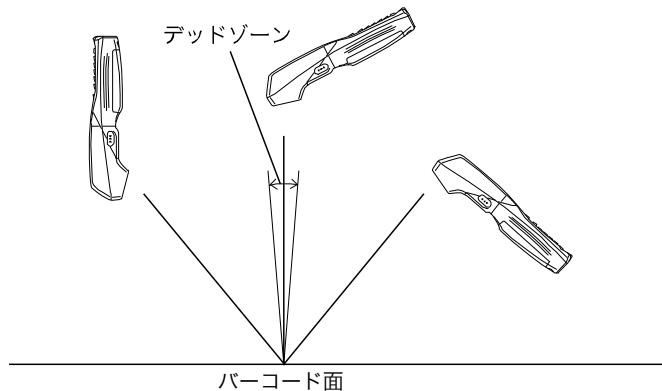
レーザ光がバーコードを横切っていても、バーコードからの距離が近すぎたり遠すぎたりすると、バーコードが読取れないことがあります。

読み取りが難しい場合は、バーコードと本体の距離を変えて、再度読取ってください。

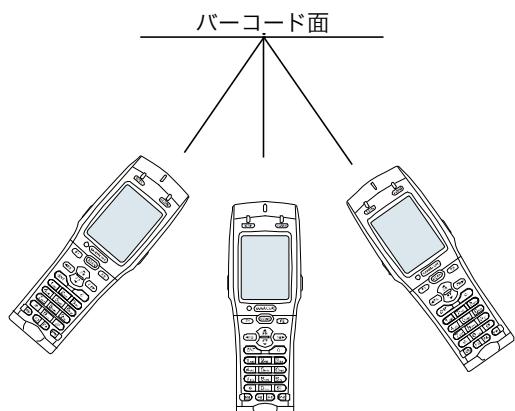
### 5-2-3 バーコードの傾きと読み取り可能角度

バーコードに対して垂直にレーザ光が当たっていると、正反射の影響により読み取りにくい場合があります（デッドゾーン）。

上手く読み取れない場合は、角度を変えて再度読み取ってください。



バーコードに対し、左右斜めから読み取ると、読み取り難い場合があります。上手く読み取れない場合は、角度を変えてバーコードを読んでください。



## 5-3 画面出力キャラクタ

### ■全角文字

シフト JIS	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
f040	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
f050	N	U	S	H	S	X	E	T	E	Q	A	K	B	L	B	S
f060	D	L	D	1	D	2	D	3	D	4	N	K	S	Y	E	B
f070	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	PW	(C)	(S)	(F)	(●)	(○)
f080	(◀)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	▲	▲	●	●	■
f090	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
f0a0	□	△	□	△	□	△	□	△	□	△	□	△	□	△	□	△
f0b0	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
f0c0	→	↑	←	↓	→	↑	←	↓	→	↑	←	↓	→	↑	←	↓
f0d0	➡	⬆	⬅	⬇	➡	⬆	⬅	⬇	➡	⬆	⬅	⬇	➡	⬆	⬅	⬇
f0e0	▲	▲	▼	▼	▲	▲	▼	▼	▲	▲	▼	▼	▲	▲	▼	▼
f0f0	J_A_N	U_P_C	N_W_7	I_T_F	I_N_D	C_3_9	C_128	E_128	M_R_X	M_X_I	W_P_C	I_N_T	C_9_3	R_S_S	P_D_F	Q_R

### ■半角文字

上位 位	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	-	-	-	0	@	P	'	p	-	-	□	-	夕	ミ	-	-
1	-	-	!	1	A	Q	a	q	-	-	。	ア	チ	ム	-	-
2	-	-	"	2	B	R	b	r	-	-	」	イ	ツ	メ	-	-
3	-	-	#	3	C	S	c	s	-	-	」	ウ	テ	モ	-	-
4	-	-	\$	4	D	T	d	t	-	-	、	エ	ト	ヤ	-	-
5	-	-	%	5	E	U	e	u	-	-	・	オ	ナ	ユ	-	-
6	-	-	&	6	F	V	f	v	-	-	ヲ	カ	ニ	ヨ	-	-
7	-	-	'	7	G	W	g	w	-	-	ア	キ	ヌ	ラ	-	-
8	-	-	(	8	H	X	h	x	-	-	イ	ク	ネ	リ	-	-
9	-	-	)	9	I	Y	i	y	-	-	ウ	ケ	ノ	ル	-	-
A	-	*	:	J	Z	j	z	-	-	-	エ	コ	ハ	レ	-	-
B	-	+	;	K	[	k	{	-	-	-	オ	サ	ヒ	ロ	-	-
C	-	,	<	L	¥	l		-	-	-	ヤ	シ	フ	ワ	-	-
D	-	-	=	M	]	m	}	-	-	-	ユ	ス	ヘ	ン	-	-
E	-	-	.	>	N	^	n	-	-	-	ヨ	セ	ホ	ゞ	-	-
F	-	-	/	?	0	_	o	-	-	-	ツ	ソ	マ	ゞ	-	-

# 第6章

## よくある質問と回答

## 6-1 よくある質問と回答

よくある質問やトラブルと、それを解決するために確認する必要のある項目や参考箇所について説明します。

### Q：電源が入らない

- 本製品の電極、バッテリーパックの電極が汚れたり変形したりしていませんか？
- バッテリーパックは正しく装着されていますか？
- バッテリーパックは充電されていますか？
- バッテリーカバーは正しく装着されていますか？
- バッテリーパック再装着後の最初の電源 ON は 【PW】 キーを 2 秒以上押してください。

 「1-2 本体の使い方」 (P.[30](#)) / 「1-4 お手入れのしかた」 (P.[53](#))

### Q：画面に何も表示されない

- 本製品の電極、バッテリーパックの電極が汚れたり変形したりしていませんか？
- バッテリーパックは正しく装着されていますか？
- バッテリーパックが消耗していませんか？
- バッテリーカバーは正しく装着されていますか？

 「1-2 本体の使い方」 (P.[30](#)) / 「1-4 お手入れのしかた」 (P.[53](#))

<上記の項目を確認しても解決できない場合>

次の方法で、システムメニューを起動してください。

1. バッテリーカバー、バッテリーパックを取り外します。
2. 10 秒待ってから、バッテリーパック、バッテリーカバーを装着します。
3. 【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを 2 秒以上押します。

## Q：しばらく操作を中断したら、電源が OFF になってしまった

- バッテリーパックが古くなっていますか？

バッテリーパックには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過したりするにつれ容量が少しづつ低下します。使用できる時間が極端に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。

- バッテリーパックが消耗していませんか？

 「1-2 本体の使い方」 (P.[30](#))

- オートパワーオフ機能が有効になっていませんか？---- (P.[95](#))

- アプリケーションソフトで省電力等の設定をしていませんか？

## Q：充電できない

- 本体はチャージャに正しくセットされていますか？

- 電源アダプタはチャージャに正しくセットされていますか？

- 充電は周辺温度が 0°C～40°C の範囲で行っていますか？

 「1-2-4 バッテリーパックの充電」 (P.[39](#))

<上記の項目を確認しても解決できない場合>

バッテリーパックの故障の可能性があります。

弊社営業までお問合せください。

## Q：日時を確認したい、修正したい

「4-3-2 時計：時刻を確認」 (P.[90](#)) を参照してください。

## Q：システムメニューが起動しない

- 強制的にシステムメニューを起動する場合は、【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを押します。

 「4-1-2 システムメニューの起動」 (P.[80](#))

- 常時システムメニューで起動したい場合は

システムメニューの [1:システム] → [1:自動実行] で [システムメニュー] のラジオボタンを選択してください。

 「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」 (P.[89](#))

**Q：電源をONにした時に起動するアプリケーションソフトを変更したい**

- システムメニューの [1:システム] → [1:自動実行] で目的のアプリケーションソフトのラジオボタンを選択してください。

 「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」 (P.[89](#))

**Q：別のアプリケーションソフトを起動したい**

- システムメニューで [5：ファイル] → [1:F ドライブ] → [1:アプリケーション] を選択し、サブメニューから [実行] を選択してください。

 「4-5 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など」 – 「■実行：アプリケーションソフトの実行」 (P.[105](#))

**Q：バーコードが上手く読取れない**

- 読取れない可能性があるバーコードについては「6-2 読取りが困難なバーコード」 (P.[181](#)) を参照してください。

- アプリケーションソフトの設定に合ったバーコードを読み取っていますか？

アプリケーションソフトの設定によっては、特定の種類のバーコードが読み取り禁止になっている場合があります。

- 正反射が起こっていませんか？

表面がビニールに覆われている、またはラミネート加工されたバーコードではありませんか？ ⇒ 正反射の角度でなくても読み難いことがあります。角度を変えてお試しください。

- バーコードを正しくスキャンしていますか？

分解能と読み取り距離には規程がありますので、バーコードのバー/スペースの最小幅に合わせた距離でスキャンしてください。

- 読取距離は正しいですか？ (「5-2 読取仕様」 (P.[170](#)) 参照)

- ラベルの品質は良いですか？

・ラベルの品質が悪いと、正しく読み取れない場合があります。以下の場合は、ラベル品質を改善してください。

①薄い印字のバーコード (ドットインパクトプリンタで印字したり、複写伝票のようなバーコード)

②汚れたり、印刷の欠けたバーコード

③バー/スペースの幅が本製品の分解能を超える細さのバーコード

④左右の空白 (クワイエットゾーン) のないバーコード (バーコードの左右に文字や罫線のあるもの)

⑤印刷が滲んだり細ったりして、バー/スペースの幅が不適切なバーコード

⑥湾曲したり、しわの入ったラベル

・デコードレベルの設定を変えて再度読み取実行してください。デコードレベルの設定は「4-7-1 バーコード：バーコードスキャナの設定」 – 「■デコードレベル」 (P.[116](#)) を参照してください。

- レーザ光に異常がありませんか？
- ・ 読取り口に汚れやゴミが付着すると正常なスキャンができなくなります。  
その場合は、乾いた柔らかい布でフィルタを拭いてください。
  - ・ レーザ光が二重になっている場合や輪を描いている場合でも読みなくなることはありませんが、  
読み取りに支障をきたす場合は故障が疑われますので修理をご依頼ください。

## Q：ドライブの空き容量を確認するには

システムメニューの [6：メンテナンス] → [4：ドライブ] で確認します。

 「4-8-4 ドライブ：ドライブ情報の表示」 (P.[148](#))

## Q：Bluetooth 通信ができない

- 接続先リモートデバイスは起動していますか？

- 接続先リモートデバイスがデフォルトデバイスに設定されていますか？

システムメニューの [5：デバイス] → [3：Bluetooth] → [2：リモートデバイス] で設定してください。

- 接続先リモートデバイスとセキュリティ設定は同一ですか？

 「4-7-3 Bluetooth：Bluetooth の登録設定」 (P.[120](#))

- BluePorter などの通信ソフトウェアは正しく動作していますか？

## Q：BluePorter-V の COM ポートがオープンできない

- BluePorter-V を組込んだ PC で、弊社の WL7-KEY というソフトを使用していませんか？

WL7-KEY が Ver1.02 以前ですと COM ポートが占有されてしまいオープンできません。恐れ入りますが、弊社営業までご連絡願います。

## Q：赤外線通信 (IrDA) ができない

- USB ケーブルが抜けたりしていませんか？

- USB 通信ユニット (IU-004/004C) の USB ドライバソフトが接続するコンピュータにインストールされていますか？

- 転送ユーティリティ BluePorter-V が接続するコンピュータにインストールされていますか？

- コンピュータ画面タスクバー右側の通知領域に BluePorter-V のアイコンが表示されていますか？  
表示されていないと BluePorter-V がインストールされていても起動していません。

- 本製品および USB 通信ユニット (IU-004/004C) の赤外線通信ポート（窓）が汚れていませんか？

 「3-3 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」 (P.[68](#)) / 1-4 お手入れのしかた」 (P.[53](#))

## Q：ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された

- F ドライブの空き領域が少ない場合などに表示されます。  
F ドライブ、S ドライブ、R ドライブのファイルを削除して空き容量を増やしてからやり直してください。

## Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトです」と表示された

- 送信または受信待ち状態のままで一定時間が経過すると表示されます。
- 通信設定は正しく設定されていますか？
- 本製品とパソコンは正しく接続されていますか？  
 「3-2 Bluetooth 通信環境の構築」 (P.[63](#)) 、「3-3 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」 (P.[68](#))
- パソコンのリソースが不足していませんか？  
通信ソフト (BluePorter-V) のアプリケーションソフトなどが起動している場合、パソコンのリソースが不足することで、ファイルの送受信に失敗することがあります。通信に必要のないアプリケーションソフトは、できるだけ終了してから再度通信してみてください。

## Q：ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された

- ホストコンピュータで BluePorter-V は起動していますか？
- Bluetooth で目的のリモートデバイスとは異なるリモートデバイスに接続していませんか？
- Bluetooth でセキュリティ設定はリモートデバイスと同じですか？
- Bluetooth でリモートデバイスは正しく設定されていますか？
- パソコン側で同じ名前のファイルを使用（エディタで開いていたり、データベース関係でファイルがオープンされていたりなど）していませんか？  
 「4-6 端末 ID：端末識別用 ID の設定」 (P.[112](#)) / 「4-7-3 Bluetooth : Bluetooth の登録設定」 (P.[120](#))

## Q：アプリケーションソフトの起動やファイルの送受信ができない

- バッテリーパックの電圧が低いと、一部の機能が操作できなくなります。バッテリーパックは充電されていますか？  
 「1-2-4 バッテリーパックの充電」 (P.[39](#))

## Q：ファイルが壊れている

- ファイルの書込み中（データ交信中、ファイル受信中、バックアップ中等）またはデフラグ中に、バッテリーパックを取り外したり、誤って落としたり、強い衝撃を与えて電源が切れてしまった場合は、ファイルが壊れる恐れがあります。  
ファイルを削除するか、パソコン等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください。  
この処置を行っても正常に動作しない場合は、故障が疑われますので修理をご依頼ください。
- 〔参照〕 「4-5 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など」（P.[101](#)）
- アプリケーションソフトによっては電源を切る時にデフラグ処理、バックアップ処理をするものがあります。バッテリーパックを交換する時は、必ず電源が切れていることを確認してください。

## Q：本製品のシステム設定が初期化されている

- 設定はレジストリファイルに保存されていますので、上記のようなファイル破損が発生した場合、初期化されることがあります。

## Q：電源を入れたら「S ドライブを初期化しました」というメッセージが表示された

- 動作中にバッテリーパックや電池を取り外したり、落下等衝撃で電源が切れてしまった場合は正常な終了処理がされないため、S ドライブのバックアップが行われません。
- 購入後、初めて電源を投入した時にも同様のメッセージが表示されます。

## Q：電源を入れたらシステムメニューが起動する

- システムメニューの [1：システム] → [1：自動実行] でアプリケーションソフト名 (\*\*\*\*\*. OUT) を選択していますか？
  - ・ 選択していない場合、アプリケーションソフトが自動実行されません。

## Q：「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

- システムプログラムがエラーの原因を特定できなかった場合に表示されます。ハードウェア、システムプログラム、アプリケーションソフト等の障害、強度の静電気のような外部要因などの原因が考えられます。システムエラーメッセージが表示された場合、【PW】キーを押すと電源が切れます。次回起動時に可能な限り自己復旧します。  
再度電源を ON してください。

**Q : microSD カードにアクセスできない**

■本製品は SDHC 規格には非対応です。動作確認済みの microSD カードをご使用ください。  
動作確認済みの microSD カードについては「1-2-3 microSD カードの取扱い」(P.[34](#)) を参照してください。

**Q : BHCP を行うには？**

■BHCP を実行して端末の各種設定を行うには、別売の BluePorter-L が必要になります。  
■BluePorter-L の詳細については「BluePorter-L ヘルプマニュアル」を参照してください。

## 6-2 読取りが困難なバーコード

次のようなバーコードは、読み取れない場合があります。

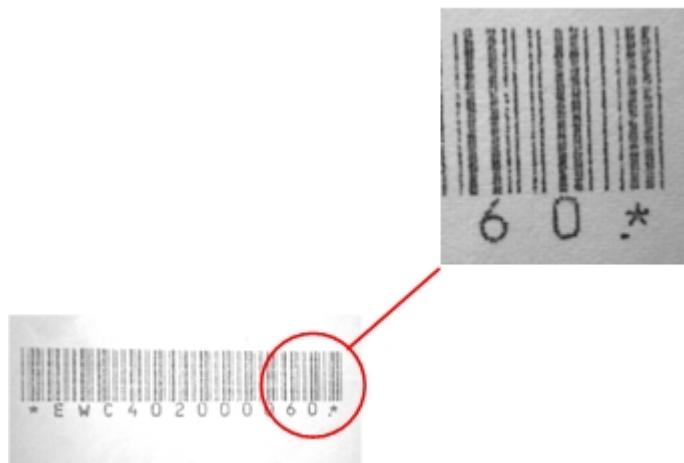
### ●薄いバーコード

推奨 PCS 値は、0.25 以上です。



### ●かすれたバーコード

- 全体にかすれたバーコード



- 高さ方向に斜めのすじが入ったバーコード



### ●バーの欠落したバーコード

バーが 1 本以上欠落したバーコード



**●汚れたバーコード****●クワイエットゾーン不足のバーコード**

使用するバーコードの規格を参照してください。

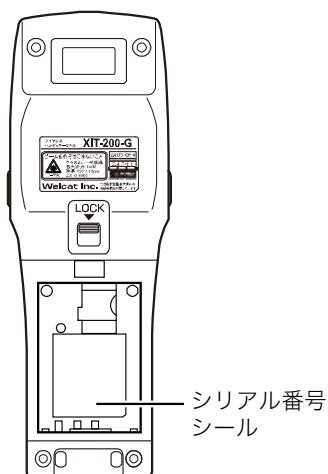
枠や黒線が近すぎてクワイエットゾーンが不足



# 製品保証

## ■製品保証について

1. 製品の無償保証期間は弊社出荷日より1年となります。ただし、無償保証期間内でも、次のような場合は有償となることがありますのでご了承ください。なお、本製品に保証書の添付はございません。
  - シリアル番号の無いものおよび確認できないもの（出荷日の管理が不可能なため）
  - マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取扱いによる障害
  - 故意または重大な過失による障害
  - 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
  - 許可無く、改造または他機器の接続、取付けを行ったことによる障害
  - 災害、地震、水害等の天災地変による障害
  - お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
  - 使用上避けられない消耗による障害・部品交換（消耗品交換）
2. 製品の内容は、改良やバージョンアップなどにより、予告無く変更することがあります。
3. 本製品の運用の結果生じた損失については、全てに関しての責任を負いかねますので、ご了承ください。



# 消耗品

## ■保守について

安心してご使用頂けるように、購入時に「保守契約」を締結されることをお奨めしております。

保守については、弊社ホームページの「カスタマサポート」の「アフターサービス」でご案内しております。

## ■修理について

修理のご依頼は、弊社ホームページの「カスタマサポート」の「アフターサービス」にある修理依頼票フォームをご利用ください。

<http://www.welcat.co.jp/support/>

## ■消耗品

消耗品（消耗部品）は、本製品を使用し続けることで性能が低下してきます。製品の使用環境や使用頻度により性能低下までの期間は異なり、使用状況によっては弊社の保証期間より短い期間での交換（有償）が必要になることがあります。

- 操作キー（押しボタン）
- バイブレータ（振動モーター）
- レーザスキャナ（バーコード読取装置）
- 電極板（本体充電、バッテリーパック充電用電極とバッテリーパック端子）
- バッテリーパック
- バックアップ用電池  
バックアップ用電池はメンテナンスフリーですが、深い充放電を繰返すことにより、容量が大幅に劣化する場合があります。この場合は、バックアップ用電池を交換する必要があります
- バッテリーカバー

などが消耗品となります。



ご使用が終わりましたバッテリーパックの取扱いは、バッテリーパックの取扱説明書、「使用済みバッテリーパック (BP-004) について」(P.7) を参照してください。

# 付録

## 付録-1 出荷時設定一覧

設定項目	設定可能範囲	出荷時設定値
自動実行プログラム	システムメニュー任意のアプリケーション ソフト	システムメニュー
電源管理 レジューム	有効にする 有効にしない	有効にしない
電源管理 オートウェイク アップ	毎日、毎週、毎月	未設定
電源管理 オートパワー オフ時間	0000 または 0060～3600 秒	0600 秒
パスワード	4～30 文字の英数記号で大文字/小文字を判 別	未設定
端末 ID	000～999	000
バーコード トリガモード 読み取りキー操作	ノーマル、ダブル、リリース、オート	ノーマル
バーコード トリガモード パワーセーブ	フルセーブ、クイックセーブ、ノーセーブ	フルセーブ
バーコード トリガモード レーザ照射時間	1～60 秒	20 秒
バーコード デコード レベル	レベル：1～5	レベル：4
バーコード 反転	禁止、許可	禁止
Bluetooth ローカルデバイ ス デバイス名	30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判 別	XIT-200
Bluetooth ローカルデバイ ス 認証	有効にする、有効にしない	有効にしない
Bluetooth ローカルデバイ ス PIN コード	16 文字までの 16 進文字 (0～9、A～F)	未設定
Bluetooth リモート デバイス 1～7 デバイス名	30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判 別	未登録
Bluetooth リモート デバイス 1～7 BD アドレス	12 文字固定の 16 進文字 (0～9、A～F)	00:00:00:00:00:00

設定項目	設定可能範囲	出荷時設定値
Bluetooth リモートデバイス 1~7 認証	有効にする、有効にしない	有効にしない
Bluetooth リモートデバイス 1~7 PIN コード	16 文字までの 16 進文字 (0~9、A~F)	未設定
Bluetooth リモートデバイス検索オプション	1~9	9
画面 自動調光	有効にする、有効にしない	有効にする
音バイブ ボリューム	レベル：1~8	レベル：8
音バイブ キークリック音	なし、クリック音、クリック音+音声、音声	なし
BHCP スタートアップの種類	無効にする、アプリケーション起動時、システムメニュー起動時、オートウェイクアップ起動時	無効にする
BHCP 更新禁止項目	端末 ID	未設定

## 付録-2 サンプルバーコード

### 注意

印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読み取れなくなることがあります。

### ●JAN13



### ●JAN8



### ●UPC-E



### ●CODE39 (C/D あり)



**●CODE39 (C/D なし)****●NW-7 (C/Dあり)****●NW-7 (C/Dなし)****●NW-7 (HEX)****●ITF (C/Dあり)**

**●ITF (C/D なし)****●ITF (標準バージョン ITF-14)****●ITF (拡張バージョン ITF-16)****●ITF (アドオンバージョン ITF-6)****●CODE128 (コードセット A)**

**●CODE128 (コードセット B)****●CODE128 (コードセット C)****●EAN128 (コードセット A)****●EAN128 (コードセット B)****●EAN128 (コードセット C)**

## 付録-3 用語集

本マニュアルで使われている用語の意味を説明しています。

### F ドライブ

アプリケーションソフト、データベースマスターファイルなどを格納するための領域です。パソコンからダウンロードしたアプリケーションソフトは、F ドライブに保存されます。

### S ドライブ

アプリケーションソフトの動作中に一時的なファイル（テンポラリファイル）を格納するための領域です。

### R ドライブ

ファイルを格納するための外部拡張領域（microSD カード）です。

### システムプログラム

本製品に搭載されている OS です。

### システムメニュー

システムプログラムの機能を操作するプログラムです。

### デフォルトデバイス

システムメニューのリモートデバイスリストに登録された Bluetooth デバイスのうち、デフォルトに設定されたデバイスです。システムメニューでは、常にデフォルトデバイスに接続します。

### バッテリーパック

充電式のリチウムイオン二次電池です（BP-004）。

### バックアップ用電池

バッテリーパックを外した時や、バッテリーパックの残量が少なくなった場合、内蔵時計のデータやファイルの一時保存をするための電池です。

### リモートデバイス

ローカルデバイスの接続先となる Bluetooth デバイスです。

### ローカルデバイス

操作中の Bluetooth デバイスを指します。本製品を操作している場合は、本製品がローカルデバイスになります。

---

バーコードハンディターミナル  
XIT-200-M  
ユーザーズマニュアル

---

2015年8月 第8版発行  
Copyright 2011 Welcat Inc.

**株式会社ウェルキャット**

<http://www.welcat.co.jp/>  
[info@welcat.co.jp](mailto:info@welcat.co.jp)